

活動年鑑 15

2019.5- 2020.4

青年技術士交流委員会

活動年鑑 15 2019.5 - 2020.4

目次

- ・青年委員会 2019 年度活動報告
- ・例会グループ活動報告
- ・国際グループ活動報告
- ・サッカーグループ活動報告
- ・広報プロジェクト
- ・IT 担当

【例会活動報告書】

- ・2019/5 部門横断企画 臨時例会「福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション」
- ・2019/5 部門横断企画 「技術者のためのコミュニケーション講座」
- ・2019/6 拡大委員会、懇親会
テクノツーリズム：「皇居東御苑」「岩崎邸庭園」「東京都水道歴史館」等
- ・2019/8 Dreams Project 夏休み子供理科教室「ガリレオ温度計をつくろう！」
- ・2019/8 部門横断企画 「青年委員会・建設部会合同テクノ」
- ・2019/9 内部向け企画 自己紹介イベント「みんなを知ろう！」
- ・2019/10 部門横断企画 「プレゼンの9割は準備で決まる 話下手の必勝法 初心者編」
- ・2019/11 部門横断企画 「明日から仕事が楽しくなる！エンジニアのためのコミュニケーション講座」
- ・2019/12 部門横断企画 「ディベートを知ろう！」
- ・2020/1 部門横断企画 「グローバルエンジニアを目指して！、CAFEO 報告」
- ・2020/2 修習ガイダンス 「パネル討論」「情報交換会」

※2020/3～2020/4 新型コロナウイルスの影響により延期

【国際交流活動報告書】

- ・2019/6 FEIAP The 27th General Assembly and The 5th Convention
Mutual Recognition of Engineering Education
- ・2019/9 CAFEO37/YEAFEO26
- ・2019/11 FEIAP EXCO (Executive Committee)
- ・2019/11 日豪交流打合せ (Interaction meeting)
- ・2020/2 フィリピン若手技術者との交流

【サッカー&テクノ活動報告書】

- ・2019/6 統括本部 日韓サッカー練習会とテクノツーリズム
- ・2019/9 統括本部、北陸本部サッカー交流試合及びテクノツーリズム
- ・2019/10 第15回 日韓親善サッカー大会 (第49回 日韓技術士国際会議 韓国・高陽)
- ・2020/1 日韓サッカーお疲れ練習会

【地域本部活動報告書】

- ・統括本部
- ・北海道本部
- ・東北本部
- ・北陸本部
- ・中部本部
- ・近畿本部
- ・中国本部
- ・四国本部
- ・九州本部

青年技術士交流委員会統括本部 2019 年度活動報告

青年技術士交流委員会 委員長 竹内将人

青年技術士交流委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員・委員補佐により構成されている。また、委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含む。本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施している。

2019 年度は、大型台風による一部地域における一次試験の延期、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延や緊急事態宣言の発令など、従来にない社会的環境変化があり、活動へ大きな影響が生じた年であった。

主な活動を以下に記す。

1. 各種例会の開催

青年技術士交流委員会の例会は、主として、参加者自身がアウトプットすることを通して研鑽できる場、参加者同士が交流できる場を提供しており、グループワークや講演会、テクノツーリズム、スポーツ交流を毎月 1 回程度の頻度で開催した。

2020 年 3 月より会議室での例会開催を見送った。現状、再開の見通しは立っていない。

準備状況、当日の状況といった各活動の内容については青年技術士交流委員会 HP に公開した。また新型コロナウイルス感染症の影響による延期についても同様に HP に公開した。

2. 特別例会

2019 年 5 月 18 日に青年技術士交流委員会主催『一次・二次試験合格者交流会（特別例会）』を開催した。参加者が今後技術士として目指す姿を描くために「子供の将来の夢として「技術士」と言ってもらえるにはどうすればよいか」をテーマに企画・実施した。

各チームに分かれて行ったグループワークの結果および活動報告は青年技術士交流委員会 HP に公開した。

3. 小学生対象理科教室の開催

2019 年 8 月 3 日に春休みの小学生を対象に「理科教室」を開催した。

「ガリレオ温度計をつくろう!」と題し、工作実験を通じて子どもたちに科学の面白さを伝えることを主目的とした。また、各小学校への広告のビラ配布などを通じ、一般の方々に対し技術士の知名度向上を図った。

理科教室では参加者へ「密度」「温度」「浮力」に関する講義を行い、講義内容を踏まえた工作実験として、プラスチック容器を利用したガリレオ温度計を作ることで理解の定着を図った。

当日の様子は青年技術士交流委員会 HP に公開した。

4. 各地域本部の青年技術士交流委員会との交流

2019年6月15日に各地域本部との交流会議を開催するとともに、2019年10月5日に徳島市で開催された技術士全国大会において青年技術士交流委員会による分科会へ参加した。その中で各地域本部の青年技術士交流委員会の活動内容を共有した。

青年層は企業内技術士も多く、出張や異動転勤などに伴う地域間の移動もあることから、各地域本部の青年技術士交流委員会とのネットワークを活かし、青年層技術士のサポートにも努めていく。

5. 国際交流活動

2019年10月24日～10月26日に韓国（高陽市）で開催された日韓技術士国際会議の親善サッカー大会の開催支援を行った

2019年9月11日～9月14日にインドネシア（ジャカルタ）で開催されたASEAN技術者協会連合国際会議『CAFE037 YEAFE026』への参加者派遣の支援を行った。参加した委員の一人が本会議において口頭・論文発表、および防災セミナーにおいて口頭発表を行った。

国際委員会から依頼を受け Skype ミーティング等で開始した日豪交流のきっかけづくりは、2019年11月21日に第1回の交流ミーティングをメルボルンにて開催することで結実した。またオーストラリア技術士会より同期間に開催された世界工学会議（World Engineers Convention 2019）での講演を依頼されたため、青年委員会例会で得られた知見を委員が自身の研究成果に盛り込み、発表を行った。

同様に国際委員会から依頼を受け委員を派遣している FEIAP（The Federation of Engineering Institutions of Asia and the Pacific）については、2019年6月28日～6月30日に西安で開催された総会、および2019年11月21日にメルボルンで開催された執行理事会に出席。派遣されている Youth Talents Development Working Group の国際交流企画のガイドライン作成検討およびその報告を行った。

この国際交流企画を2021年に日本で開催し、日本技術士会会員へCPDの場として提供する予定。

6. 部会・学会などと連携した例会の開催

2019年8月18日に家族と同伴で参加が可能な例会を開催し、東京都臨海広域防災公園の施設を見学することで防災意識の維持・向上を図った。建設部会及び土木学会と連携し、カードゲーム「ポケドボ」を通して防災を学ぶ企画を取り入れることで、小学生から技術士まで幅広い層が楽しく学ぶことができる例会を提供した。

7. 研修委員会所轄委員会行事への協力

2020年2月8日開催の「技術士を目指そう、修習ガイダンス2020」～技術士第一次試験合格者・JABEE 認定課程修了見込者（修了者を含む）～において、パネル討論会を企画・運営し、受験に向けたモチベーション向上や日本技術士会への入会促進にも繋げる活動の道筋を築いた。

また、昨年度と同様にガイダンス後の合格祝賀会も開催し、参加者間や参加者と我々日本技術

士会のメンバーとの交流を促進した。

今年度は台風のため東京・神奈川において1次試験が延期となったことから、従来の2月開催に加え6月にも開催が計画された。6月開催については新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

8. 情報配信の取り組み

青年技術士交流委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2018年度青年技術士交流委員会活動年鑑を制作した。

また、青年技術士交流委員会のホームページ、Facebook および Twitter を活用し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告を積極的に行った。

上記の活動を企画・実施するため、毎月の運営委員会を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催した。

9. リモート会議への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4月以降の運営委員会をリモートで行うため、3月の運営委員会で会議システム zoom を試験導入した。

これまでグループワークを中心としたアウトプット型の例会を開催してきたが、このような例会を会議室で開催する場合には密な環境を避けられないため、今後の再開の見通しが立たない。そのため、今後はリモートでの例会開催も視野に入れ検討していく予定。

以上

例会グループ活動報告(2019年5月～2020年4月)

例会グループリーダー 臼井 朗

1. グループメンバー(敬称略、順不同)

小塚、吉浦、岩部、吉岡、後藤、清水、杉山、臼井

2. 活動目的

今期は「円滑な例会運営」に加え、「例会運営の負荷軽減」を目的として活動を行った。具体的な活動は下記の通りである。

- ・ 例会準備の進捗確認(キックオフミーティングへの参加)
- ・ 外部アンケートの実施と集計
- ・ 内部アンケートの実施とまとめ
- ・ 前月例会アンケートの振り返り、改善提案、周知、マニュアルへの反映
- ・ 例会担当に ownCloud 整理依頼
- ・ 青年で保有している備品の整理整頓

3. 活動報告

2019年度に実施した例会は以下のとおりである。

実施年月	分類	例会
2019年5月	部門横断	臨時例会 福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション
5月	部門横断	技術者のためのコミュニケーション講座
8月	Dreams	「ガリレオ温度計を作ろう」
8月	内部	例会決め大会
8月	部門横断	青年委員会・建設部会合同テクノ
9月	内部	自己紹介イベント「みんなを知ろう！」
10月	部門横断	プレゼンの9割は準備で決まる 話下手の必勝法 初心者編
11月	部門横断	明日から仕事が楽しくなる！エンジニアのためのコミュニケーション講座
12月	部門横断	ディベートを知ろう！
2019年1月	英語	CAFEO 報告、パネルディスカッション「グローバルエンジニアを目指して」
2月	修習向け	修習ガイダンス「パネル討論」、「情報交換会」
3月～4月		新型コロナウイルスの影響により、延期

【例会方針の改定】

今期は青年委員会のメンバー変更の時期であり、新たな方針「リソースの選択と集中」に基づき、例会を実施してきた。具体的には、定例となった例会ではできる限り企画運営を効率化し、新たな取組へ力を注ぐことを方針とした。また今期は参加費の徴収は原則として行うものとした。

【実施例会の概要】

1.メンバー入れ替えにあたって

今期は、メンバー入れ替えの時期であったため、8月の例会決め大会や、9月例会「みんなを知ろう！」を通して、青年委員会の活動方針の共有・確認やメンバー同士の交流を図った。

2.定番企画について

今期では定番となった企画を充実させつつ、効率化に務めた。8月のDreamsプロジェクトでは「ガリレオ温度計をつくろう」というテーマで理科教室を実施した。また12月例会のディベート企画では、テーマを身近な技術士試験制度にし、更に価値論題とすることで効率化に務めた。

また、これまでにつながりを作ってきた修習委員会や建設部会とも、引き続き例会を共同開催した(8月建設部会合同テクノ、2月修習ガイダンス)。特に8月の合同テクノツアーでは、新たに土木学会の若手パワーアップ小委員会とも協力して家族向けイベントを作ることで、新たなつながりを作ることができた。

3.新たなテーマの例会や取組について

今期も技術者の基礎知識として必要な事項を充実させるための新たな例会を複数実施した。5月例会では、「コミュニケーションスキル」、10月例会では「プレゼンテーションスキル」をテーマに、青年委員会の内部リソースをフル活用してイベントを開催した。一方、今期では11月例会の「明日から仕事が楽しくなる！エンジニアのためのコミュニケーション講座」のように外部講師を招いたイベントも開催した。

また1月例会「グローバルエンジニアを目指して！」では、CAFEOの参加報告を兼ね、技術士会の有識者(国際委員、研修委員長)を招いたパネルディスカッションを実施し、今後の活動も見据えた新たな取組も行った。

【例会運営についての検討】

例会の実施以外の活動としては①作業の効率化、②備品整理、③マニュアルの改定である。

①において、具体的には内部アンケートの集計と名札作成の効率化である。内部アンケートはこれまで、メールで意見を徴収して整理する方法であったが、Google スプレッドシートを活用して各委員・委員補佐に記入してもらう形をとり、編集に掛かる作業を効率化した。また名札作成については例会グループメンバーの作成したツールにより、名札作成に掛かる作業を効率化した。

②においては、倉庫内に保管されている青年委員会の備品の整理を実施し、不要なものを廃棄処分し、整理した。

③においては、前期に引き続き例会運営マニュアルの改定も行った。特に現在、新型コロナウイルスの影響によって例会の中止や延期を余儀なくされている状況であるため、その対応について緊急時対応マニュアルに追記した。

4. 次年度に向けて

次年度においても、今年度の実績を基に、次年度も参加者に喜んでいただくとともに青年技術交流委員会メンバーの自己研鑽に資する例会の企画を試みる。また、例会実施を通じて新しくできたコネクション(土木若手パワーアップ小委員会、参加者、保健物理学会等)を活用し、多様なイベントの開催を目指す。

また、例会グループの基本活動である例会のサポート、負担軽減方法についても引き続き検討し、実行する。具体的には、マニュアルのさらなる改定、外部アンケートの効率化(Google フォームの使用)や、備品整理については改善の余地があるため今後も対応を継続する。

以上

2019 年度国際グループ活動報告

国際グループリーダー 田中雅人

1. グループメンバー

竹内、田中(仁)、河野、高木、水柿、大藺、明山、小和田、高瀬、田中(雅)

2. 活動目的

本グループは下記業務を円滑に進め、参加者相互の親睦を深める活動を行うことを目的とする。

- (1) 公益社団法人日本技術士会の企画立案に対する提言及び協力
- (2) 若手技術士の国際感覚の醸成に向けた研鑽事業の企画・実施
- (3) 諸外国の技術者組織間の国際交流の推進
- (4) 技術者向け国際会議への参加
- (5) 公益社団法人日本技術士会の各地域本部のメンバーに対する国際活動機会の提供

3. 活動報告

3-1. FEIAP 若手育成ワーキンググループの活動

FEIAP で若手エンジニアの育成を目的としたワーキンググループが立ち上がり活動に参加している。各国のメンバーとは WEB 会議で議論を重ねており、また、2019/6/28～30 に中国 西安で開催された FEIAP 総会、および、2019/11/20～22 にオーストラリア メルボルンで開催された FEIAP 総会に参加した。各 FEIAP 総会では、WEB 上で議論してきたガイドラインの推敲や Young Engineer Exchange(YEx)の開催についての調整を行った。2021 年度の YEx は日本での開催を予定している。

3-2. CAFE037/YEAFEO26 参加とフィリピン技術者の来日支援

2019/9/10～14 にインドネシア ジャカルタで開催された CAFE037/YEAFEO26 に IPEJ-YEC として 12 名で参加。この度は、中国本部、近畿本部からの参加もあり、海外技術者との交流に加え、日本各地域の技術者との交流も実施できた。また、メンバーの一人が CAFE0 での口頭・論文発表と、防災セミナーでの口頭発表をそれぞれ行った。その後、CAFE0 参加をきっかけに、フィリピン技術士会メンバーの来日支援を中国本部の青年メンバーと共同で実施し、日本国内での国際活動機の創出を実現した。

3-3. 日豪交流および WEC での発表

オーストラリア技術士会の青年メンバーと WEB 上で日豪の交流について議論してきた。2019/11/20～22 にオーストラリア メルボルンで開催された WEC をきっかけに渡豪し、オーストラリア技術士会の青年メンバーとの交流を実現でき、今後の日豪交流について議論を行うことができた。予算の獲得ができればお互いの国を行き来し、できなければ WEB 会議を年 1 回行うということで合意した。また、WEC では、フルペーパーの論文を提出し、Technical Oral Presentation として口頭発表を行った。

4. 今後の計画

FEIAP 総会、YEx、CAFE038/YEAFEO27 へ青年技術士を派遣予定。若年層、地方からの一般参加者を増やすことを目指し、また、内外への広報活動に工夫を行う。各国とのコミュニケーションを積極的に行い、国際社会での日本技術士会の存在感をアピールする。2021 年度の日本での YEx 開催の準備を行う。

以上

2019年度 サッカーグループ活動報告

サッカーグループリーダー 後藤 洋之

1. グループメンバー

後藤、鈴木、清水、山本(直)

2. 活動の背景と目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

3. 活動報告

1) 統括本部練習会

2019年10月に行われた日韓サッカーに向けての事前練習会とお疲れ練習会として、2019年6月と2020年1月に統括本部主催の練習会を開催した。前者の練習会では1日目にフットサル、2日目にテクノを開催し、2日目については臼井委員(テクノWG)にも協力をいただき、サッカーグループ以外の青年委員も巻き込んでの企画開催という初の試みを行い、大変好評をいただいた。後者の練習会については参加人数の都合から、練習会のみ1日開催となったが、サッカーを通じて良い交流を行うことができた。

2) 北陸本部練習会

2019年10月に行われた日韓サッカーに向けての事前練習会として、2019年9月に北陸本部主催の練習会を開催した。統括本部からは9名が参加した。1日目にサッカー、2日目にテクノを開催し、毎回変わらない北陸メンバーからの温かい歓迎と入念な開催企画により、交流を深めることができた。2020年3月には、毎年恒例の「新潟酒の陣」の開催日程に合わせ、練習会を開催する予定をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の理由により新潟酒の陣2020の中止が決まったことから、練習会も中止することを決定した。

3) 日韓技術士親善サッカー大会

2019/10/24~26に韓国高陽市で開催された第49回日韓技術士国際会議のオープニングセレモニーとして、2019/10/24に開催された日韓親善サッカー大会に、計17名が日本側選手団として参加した。今回は、日韓関係の冷え込みの影響等もあり、当初申込み段階では5人しか集まらなかったが、その後の多方面からの呼び掛けにより、フルメンバーでの試合を行うことが出来た。結果は残念ながら敗戦となってしまったが、韓国選手団からの温かい歓迎を受け、大変良い交流を行うことができた。また、サッカー大会翌日の本会議後に行われた晩餐会では、日本技術士会寺井新会長と名刺交換をする機会に恵まれ、青年メンバー主導のサッカー活動が技術士会内でも一定の評価を受けていることが確認できた。

4. 今後の活動・展開

今年10月に開催される予定の第50回日韓技術士国際会議(仙台)について、新型コロナウイルス感染拡大防止の理由により翌年に延期されることが決まったが、次回日韓戦の勝利のため、サッカーを通じた交流継続のため、引続き活動を行っていく。練習会については、例会参加者への声掛けや紹介等の宣伝を継続する他、技術士会メンバーに拘らずサッカー・フットサルに興味がある幅広い参加者を募っていきたい考えである。また、練習会の開催については今年度で得た教訓を生かし、開催案内方法等の工夫・改善を行っていきたい考えである。

以上

青年技術士交流委員会 2019 年度 広報プロジェクト活動報告

広報プロジェクト リーダー 岩部 然育

メンバー：竹内、田中(仁)、守田、田中(雅)、高木、清水、山本、岩部

1. 目的

今期より、広報グループの目的であった外部向け広報活動と、内部メンバー間の情報共有を分離し、前者を広報プロジェクト（以降広報PJ）、後者を IT 担当と位置付けて活動を行った。広報PJでは、青年技術士交流委員会（以降、委員会）の活動内容の発信、CPD 行事への集客、プレゼンスの向上を目的として活動を実施した。

2. 今期の活動と成果

1) 日本技術士会の同報メール、ホームページ、および月刊技術士誌への CPD 行事予定の情報発信

日本技術士会の広報媒体である同報メール、ホームページ (engineer.or.jp)、月刊技術士誌を使用し、例会開催情報等を発信した（行事内容の詳細は例会グループ報告参照）。日本技術士会リソースによる包括的な事前周知、およびウェブの行事参加申込機能の活用により、参加者管理業務の効率化を引き続き進めた。

今年度から建設系 CPD 協議会 (<https://www.cpd-ccesa.org/>) へ例会内容を掲示し、例会開催情報を配信した。

プログラムの詳細情報です。
「詳細情報・申込」をクリックすると、実施団体による詳細情報のページに移動します。

プログラム名	【延期】公益社団法人 日本技術士会 統括本部 青年技術士交流委員会 1 次・2 次試験合格者交流会「ベストマッチ技術士仲間を見つけよう」(ワークショップ・懇親会)		
主催者	公益社団法人 日本技術士会 統括本部 青年技術士交流委員会		
開催日	20/05/30 (1日間)		
開催場所	機械振興会館 研修-2 会議室 (東京都 港区芝公園3-5-8)		
定員	80名		
料金	無料 (懇親会参加の場合: 2,000円程度)		
CPD単位 (取得目安)	4.0CPD単位	対象者	
プログラムの形態	研修会、グループワーク	教育分野	A-11
プログラムの目標	『新型コロナウイルス感染症の拡大のため、延期(開催時期、未定)と致します。大変申し訳ありませんが、ご理解の程よろしくお願致します。』 毎年恒例、技術士第一次・第二次試験の合格者を対象とした交流会である。ワークショップ、懇親会を通じた研鑽の機会および交流の機会を提供する。特に、持続的にお付き合い可能な技術士仲間をマッチングさせることを目的とする。 主な対象：2019 年度技術士第一次・二次試験の合格者 参加資格制限なし：前年度以前の合格者、45 歳以上も参加可能。		
プログラムの内容 (講師と演題)	◆12:30受付、13:00開始、17:30終了予定、終了後18:00~20:00懇親会 (1)自己分析 コミュニケーションタイプについての講義後、自分がどのタイプか自己診断する。 (2)自己紹介 チーム内全員に総当たりでインタビューを行いあう。 (3)他己紹介 インタビューで収集した情報を用いて構成メンバー間の相性がバッチリになりうるベストマッチチームの構成メンバーを、グループワークにて提案する ◆持ち物：名刺、筆記用具		
その他 (アンケート実施の有無 など)	アンケート		
詳細情報・申込	https://www.engineer.or.jp/ippan/dmsw0211.php#month05		

記載例 (合格者交流会)

2) 委員会外部に向けた、広報活動への取り組み

昨年度に引き続き、イベント参加希望者および潜在候補者に対して「漏れなく、かつ親しみやすく分かりやすい」情報提供を目指し、各種改善を行えるように環境を整えている。昨年度から継続している取り組み、本年度新たな取り組みとして以下の4点を実施した。

①FM-FUJI ラジオ出演による、委員会の広報活動（継続実施）

昨年度に引き続き、番組名「みんなのラジオ」(FM-FUJI/78.6MHz/毎週月曜 19:30～)に出演（出演時間 10分）し、青年委員会や技術士の紹介を行った。

放送日	出演者	宣伝内容
2019/4/29	諸田委員長、守田委員	技術士、技術士試験、青年委員会について
2019/7/22	竹内委員長	技術士×コミュニケーションについて

②合格者交流会の広報チラシの配布（新規取り組み）

例年実施している、合格者に郵送物に同封する合格者交流会の広報ビラを委員・委員補佐から各所属会社、学団体の合格者へ配布し広報活動を実施した。

③青年委員会例会スケジュール入り名刺の作成・配布（新規取り組み）

今年度の新たな試みとして、委員、委員補佐の統一した名刺を作成し、裏面に例会のスケジュール、青年技術士交流委員会のHPのQRコードを記載させて例会の交流会、修習ガイダンスの懇親会で委員会の紹介、イベントのお知らせの広報活動を実施した。



年 月	行事予定(仮)	ジャンル
2019年11月	明日から仕事楽しくなる！エンジニアのためのコミュニケーション講座	ビジネススキル
2019年12月	ディベートで学ぶ話し合いの技術	ビジネススキル
2020年1月	国際活動報告会	グループワーク
2020年2月	技術士を目指そう、修習ガイダンス2020	交流会
2020年3月	帰ってきたコミュニケーション講座	ビジネススキル
2020年4月	一次、二次試験合格者交流会	グループワーク
2020年5月	デザイン思考実践 インノベーションを起こそう	ビジネススキル
2020年6月	英語ワークショップ	グループワーク
2020年7月	「孫子の兵法」でチームリーダーの考え方を字ぼう	ビジネススキル
2020年7月	親子向け理科教室	親子向け
2020年8月	インフラガイドツアー	親子向け
2020年9月	あなたの中の天才を目覚めさせる！ ストレngthスファインダー	グループワーク
2020年10月	三現主義でいこう！	工場見学

タイトルと内容は変更になる場合があります 青年技術士交流委員会HPはこちら>>

作成例（右：表面、左：裏面）

④8月例会（建設系テクノ）の雑誌掲載（新規取り組み）

8月例会（建設系テクノ）でコラボした土木学会若手パワーアップ小委員会のポケドボに関する広報記事を記載するにあたり、文中の一部にコラボ内容についての掲載依頼があり、担当メンバー、委員長にて確認と一部執筆を行った（次頁に掲載部分を参照）。

雑誌名：土木技術 75巻4号 P12-17

タイトル：ポケドボを用いた土木に関する情報発信について一遊びを通じた広報活動を事例に一

コンピュータとの2人对戦となっているので、対戦相手がいない時でもとても気軽にプレイすることができます（所要時間約2～3分）。

アプリの最大の特徴は、災害エフェクト（映像・音声効果）です。カードゲームでは災害カードを引いても当然音も動きも発生しませんが、アプリ版では、引いた災害カードの事象に応じて災害の様相を示す迫力のある映像及び音声流れます（写真-10・11）。



図-10 “津波”のエフェクト



図-11 “土砂災害”のエフェクト

このように災害のエフェクトを用いることで視覚的に災害事象を把握することができ、効率的な学習が可能であると考えます。

当誌面上ではこれらのエフェクトは再現できませんので、ぜひ「ポケドボアプリ版」をダウンロードしていただき体感してください。なお、現在はiOS版アプリのみとなっておりますが、Android版アプリも今後製作予定です。

3. 今後の展開

ポケドボの今後の展開について、現在検討中の事項も含めて紹介させていただきます。

当小委員会の思いとしては、土木に関わる様々な団体の皆様とコラボレーションさせていただき、ポケドボを通じて土木の発展のために活動をしていきたいと考えています。

3.1 各種イベントへの参加

インフラや防災対策の重要性を広く伝えるために、今まで同様に子供向け（未就学児～小学校低学年）イベントを中心にポケドボを用いた活動をしていきたいと考えています。

小委員会単独での活動だけでなく、他団体とのコラボレーションイベントも検討しております。過去の例を挙げると、2019年8月には（公社）日本技術士会青年技術士交流委員会（<https://peyec.jp/>）イベントにおいてコラボレーションさせていただきました（写真-12）。



写真-12 日本技術士会コラボイベント

本イベントは、インフラや防災について学ぶとともに、万が一大地震が発生した際にもどのように行動すべきかを学ぶ体験学習ツアーとして企画され、前半の学習セッションのなかでポケドボを披露させていただきました。なお、本イベントでは青年技術士交流委員会からご発案いただいたアイデアで、2つの「ポケドボ」を使って8人で一斉にゲームするというこれまでに試したことのない取り組みにも挑戦し、活用方法の幅を広げることができました。より大勢での「ポケドボ」は、盛り上がりも倍増したように思います。

また、「土木カード」つながりというご縁で、土木学会が作成した「土木偉人かるた」とのコラボレーションも実施し、2019年1月のプレイフルストリート2019において、「ポケドボ」と「土木偉人かるた」を共同出展いたしました。調べてみて驚きましたが、実は世の中にはいわゆる「土木系のカードゲーム」と

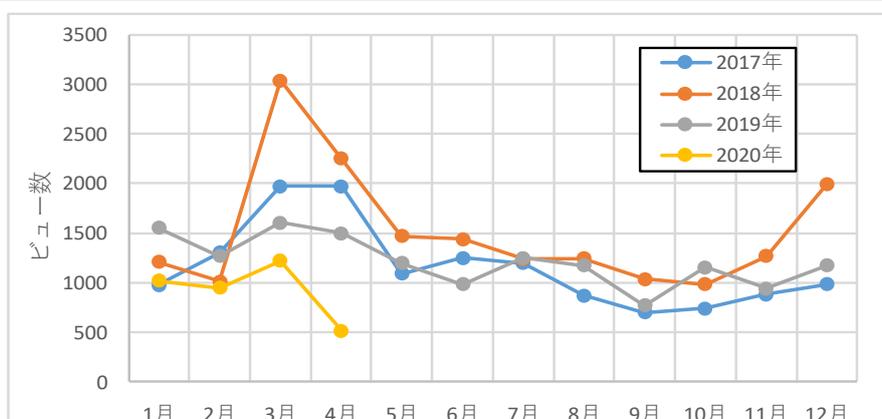
3. サイトの統計情報の分析

1) Wordpress の統計情報

■ アクセス数

Wordpress によるアクセスの統計情報を分析した。2018 年同様に合格発表の 3 月にアクセス数が多くなる傾向が例年見られる。新型コロナの影響で 4 月のアクセス数が前年の 1/3 に落ち込んでいる。

ビュー数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2017年	977	1,303	1,973	1,974	1,093	1,248	1,198	872	699	742	885	985	13,949
2018年	1,208	1,016	3,039	2,250	1,470	1,440	1,236	1,247	1,039	984	1,271	1,990	18,190
2019年	1,550	1,271	1,604	1,499	1,195	986	1,248	1,171	772	1,156	940	1,176	14,568
2020年	1,017	951	1,220	516	-	-	-	-	-	-	-	-	3,704



■ リファラの情報（全期間）

昨年同様に検索エンジンや Facebook からの移動が多いが、昨年よりも検索数が減少している。8 月例会でコラボを行った土木学会若手パワーアップ小委員会での開催報告にリンクを載せてもらった結果、若干ではあるが移動が確認された。

移動元のページ	移動数(2019)	移動数(2018)
検索エンジン	2,517	9,558
日本技術士会	1,488	3,732
Facebook	819	2,984
WordPress Android App	94	-
Twitter	71	70
DOCOMO 検索エンジン	37	73
https://ce-akimoto.com/archives/1038	13	-
秋元技術士事務所		
http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/node/72	13	-
土木学会若手パワーアップ小委員会		
http://www.ipej-chugoku.jp/seinen/	6	41
青年委員会中国支部		

■ ビュー数（全期間）

昨年とほぼ同様の傾向だがトップページにはタイムラインで新しい記事表示されるのでビュー数が多くなり、次いで、委員名簿や活動報告などのページが意外と多い。リファラと同様に、ビュー数も昨年に比べて減少している。

個別ページでは、特別例会のリスクコミュニケーションが例会のビュー数で最も多く、次いで国際活動関係や理科教室、建設系テクノのページの人気が高く、他のウェブサイトからの遷移されたものが継続的に増加していると思われる。一方、新しい記事の個別ビューは伸び悩んでいる。

ページ名	ビュー数 (2019年)	ビュー数 (2018年)
ホームページ / アーカイブ	8,154	42,197
委員名簿	694	2,489
About Us	373	1,248
活動報告	349	1,145
World Engineers Convention Australia - WEC2019 - に参加してきました！	123	-
YOUNG ENGINEERS COMMITTEE, IPEJ	109	-
ワークショップ「福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション」開催報告および参加御礼	108	-
国際交流活動	102	568
新年 1 月イベント「グローバルエンジニアを目指して」を開催します！	85	-
活動概要	72	619
【対象：小学生】8/3(土)技術士による夏休み理科教室・工作教室	67	-
新年 1 月イベント「グローバルエンジニアを目指して」の開催報告！	66	-
8 月イベント「青年委員会・建設部会 合同テクノ」のお知らせ	66	-
技術士とは	64	430
修習ガイダンス 実施報告	62	
リンク集	57	-
FAQ	33	386
8 月イベント「青年委員会・建設部会 合同テクノ」開催報告	54	-
合格者交流会開催日決定！！	54	-
CAFE037/YEAFE026 に参加してきました！	51	-
5/30(土)開催の「一次試験・二次試験 合格者交流会」に是非ご参加ください！！	50	-
【御礼】6月イベント:Can't stop talking! How to keep an English conversation flowing 及び 青年委員会国際グループ活動報告 2016年6月投稿	50	-

2) Google Analytics の分析

昨年に続いて Google Analytics による分析を実施した。
機能が若干異なってしまったため、検索キーワード分析は削除した。
国別は以下ようになった。

- ・ 海外からの検索が結びついていないのは英語ページが少ないためと考えられる。

国	ユーザー比率 (2019年)	ユーザー比率 (2018年)
日本	85%	89%
米国	8%	3%
中国	3%	1%
インド	0.3%	1%

3) Facebook のインサイト解析機能による分析

Facebook のインサイト解析機能による分析を実施した。

■ エンゲージメント率

エンゲージメント率とは、「投稿を見た人の中で、アクションを起こした人の割合がどれくらいか」を示す数値である。

Wordpress の統計情報の分析と同様に、国際活動のエンゲージメント率が高かった。2020 年開催予定の合格者交流会は、各合格発表日の投稿のエンゲージメント率が高かった。

Facebook のフォロワーが 350 人強のため、閲覧者（青年メンバー、OB・OG 含む）の割合は比較的多いため、新規フォロワー確保とエンゲージメント率を高めることが今後の課題と考える。

エンゲージメント率 = (いいね！数 + コメント数 + シェア数 + クリック数) / リーチ数

* リーチ数：実際に投稿を見た閲覧者の人数

日時	投稿内容	リーチ数	エンゲージメント率
2020年4月19日	青年技術士交流委員会を Web での会議開催の報告	259	43%
2020年2月18日	修習ガイダンス2020が開催報告	208	30%
2020年1月14日	オーストラリア青年技術士会ビクトリア州の委員長 Averil さんのアテンド報告	226	27%
2019年12月19日	技術士第一次試験の合否発表日での合格者交流会の案内	206	26%
2020年3月6日	技術士第二次試験の合否発表日での合格者交流会の案内	209	25%
2019年7月21日	facebook 写真変更(東京タワー)	208	25%
2020年2月3日	オーストラリアのメルボルンで開催された WEC2019 参加報告	186	23%
2019年5月13日	WS「福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション」の開催報告	251	22%
2020年1月13日	3月例会(帰ってきたコミュニケーション講座)の案内	188	21%
2019年11月6日	日韓技術士国際会議が開催報告	184	21%
2019年10月22日	インドネシアのジャカルタで開催された CAFE037/YEAFEO26 の参加報告	218	21%

* 2020/5/7 現在のフォロワー：353 人

3. 今後の活動・展開

既存媒体を活用した広報活動により、着実なベースアップ(知名度向上、新規参加者獲得等)とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。しかしながら、委員の名刺作成、建設系 CPD 協議会への例会企画の掲示等新たな広報活動を行ったが、2019 年度において、サイトのアクセス数、ブログの閲覧数と 2018 年度を下回った。新型コロナウイルスの影響もあるが、流行前からアクセス数の落ち込みもみられる。

今後は、委員会活動を技術士会内だけではなく、国内外の学団体、各部門に関連する協会の若手の会や委員会など、同年齢で構成されている団体と連携・コラボを行い、更なる飛躍に向けたサポートを行う。そのために、以下の項目についてプロジェクトメンバー、委員会内で議論を深めていく必要がある。

- ・ 多言語化ページを充実させ国際的な広報活動の強化を行う。
- ・ 地域本部と広報活動における連携強化を検討する。
- ・ 各委員、委員補佐の学団体、関連協会のネットワークの共有し、コラボや相互の意見交換等を検討する。
- ・ 新委員も含めた名刺の作成と各メンバーでの広報活動を行う。
- ・ ブログ・Facebook の閲覧数を増加するため見てもらえるような工夫（映え）を検討する。
- ・ 委員会のプロモーション動画等のコンテンツ作成を検討する。

以 上

青年委員会 2019 年度 IT 担当活動報告

IT 担当 守田 哲

1. グループメンバー

鈴木、清水、守田

2. 活動目的

今期より、広報グループの目的であった外部向け広報活動と、内部メンバー間の情報共有を分離し、前者を広報プロジェクト、後者を IT 担当と位置付けて活動を行った。

また、月刊技術士・CPD 行事予定の発信は例会 G、ブログの更新は各月の例会担当、同報メールは委員長と担当割りを見直したことで、IT 担当の主目的は IT 基盤の維持となった。

3. 今期活動と成果

① サーバ保守

青年ブログやマニュアルの Redmine、ファイルサーバの OwnCloud に利用しているサーバ維持のため、ドメインや証明書の更新、不要ファイルの削除、リソース使用率異常・不正アクセスの対応等を行った。これに作業に伴い、さくらインターネット、ValueDomain の契約情報も見直した。

② ML (メーリングリスト) の整理・設定見直し

用途に応じて個別に ML を開設していたが、利用率の低下や用途不明のものもあったため、セキュリティリスクも考慮して、一部の ML を凍結して管理簿を更新した。

また Gmail がフィルタ対象とする実行型添付ファイル付きのメールを複数回受信した Gmail 利用メンバーが、ML からのメール配信を受け取れなくなった。この回避策として、添付ファイルの制限を Gmail の仕様にあわせて見直した。

③ アカウント管理

メンバーの入れ替わりにともない、管理者アカウントや IT 基盤の利用者アカウントの棚卸、例会担当 ML や参加者用 ML への登録アドレスのメンテナンスを適宜行った。

④ 外部サービスの利用

既にメンバーの出欠管理には Google スプレッドシートを利用していたが、OwnCloud の容量制限もあり写真保管を Google アルバム、内部アンケートについても Google スプレッドシートを利用するよう推進した。また、保管先が毎月増えるため、スプレッドシートを利用した管理簿も用意した。Facebook や Twitter も継続して利用しているが、ブログ連携による広報用途のため、各 G リーダや副委員長を管理者登録し、適宜更新できるようにした。

⑤ マニュアルの更新

基盤の契約情報、新規サービスの利用方法、既存マニュアルへの補足等を、Redmine の IT マニュアルに追記・更新した。また関連する情報を参照していた広報マニュアルや例会マニュアルも更新し、整合性を取った。

⑥ 新規 IT ツールの導入

竹内委員長の協力のもと、Zoom を活用したリモート運営委員会を開催している。これにより、新型コロナウイルスの流行による対面打合せ・会議の自粛要請にも対応できただけでなく、OB/OG や各地域本部との交流も促進している。

また、メンバー間の情報共有の即時性向上とエビデンス管理を両立するため Slack の導入も考えているが、すでに LINE・Skype の利用メンバーも多く、Redmine/OwnCloud との棲み分けやサービス利用料といった検討が必要なため、まだ導入には至っていない。

4. 今後の活動・展開

2020 年度に入り、青年委員会を含む各委員会のサイトを技術士会 HP へ統合することが決まり、一部サイトを移行することとなった。技術士会 HP で利用するプラットフォームにもよるが、更新頻度や利用シーン・広報効果を加味して、青年 HP の移行を広報 PJ とともに進める。

また可能であれば外部サービスの活用を促進し、青年サーバの維持費用・保守作業の削減をすすめ、より青年委員会の例会・広報活動に伴う作業にリソースを割り当てられるようにしたい。

以上

例会活動報告書

行事名	5月：臨時例会 福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション
日時	2019年5月11日(土) 9:30-12:30
場所	機械振興会館 6階 会議室 D-4
担当者： (○:主担当)	○河野委員、竹内委員、田中(雅)次期委員、田中(仁)委員(記)
講師	中島氏(日本保健物理学会)、河野委員
参加者数	参加者：29名(青年13名、保物5名、外部11名)

1. 背景・目的

SNS 時代において、技術に関するリスクが不適切に評価されることで想定以上の被害を招くケースが多発している。これからの時代を背負う若手技術士として、時代に合ったリスクコミュニケーションについて考えることを図るとともに、技術士同士の交流を図る。なお、本例会から得られた情報は日豪交流の一環である WEC2019 発表に活用する。

2. 例会内容

2-1. 例会案内 田中(雅)次期委員 (9:30~9:40)

例会スケジュールおよび注意事項を説明した。

2-2. 企画趣旨説明および講演 田中(雅)次期委員、河野委員、中島氏 (9:40~10:20)

田中(雅)次期委員から、今回の企画の主旨について説明した。その後、中島氏から日本保健物理学会若手研究会の紹介を行い、河野委員から福島原発事故後に日本保健物理学会が行った取り組み（一般市民の放射線に対する不安を解消するために立ち上げたウェブサイト「暮らしの放射線Q&A」を通じて一般市民と直接的なリスクコミュニケーションを行い、そこから得られた教訓や問題提起）について説明した。

2-3. グループワークの内容説明およびグループワーク実施 田中(雅)次期委員 (10:20~12:05)

田中(雅)次期委員から、グループワークについて説明した。

グループワークでは、(1)自己紹介（リスクコミュニケーションと私）(2)問い立て、放射線分野におけるより良いリスクコミュニケーション案出し(3)自部門のリスクコミュニケーション紹介(4)リスクコミュニケーションにおける核心部抽出(5)問いを立て直す、放射線分野におけるより良いリスクコミュニケーションの提案を行い、発表（3分/グループ）を行った。

2-4. 気づきの記入 (12:05~12:15)

参加者は各テーブルの議論内容を確認した上で、気づきについての記入を行った。なお参加者の気づきシートは後日参加者全員に共有する。

2-5. 講評 三輪氏、河野委員 (12:15~12:20)

例会全体の講評を実施した。リスクコミュニケーションは1分野の専門家だけでなく、様々な人の意見を取り入れることでより多角的な視点で考えることができる等のコメントがあった。

2-6. クロージング 田中(雅)次期委員、守田委員 (12:20~12:30)

ワークショップの閉会を宣言し、守田委員から5/18例会の紹介を行った。参加者のアンケート記入後、記念撮影を行った。

3. 成果と所感

- ・ 本例会は日豪交流の一環である WEC2019 発表に資する情報収集を目的の 1 つとしており、例会開催 約 1 か月前に開催が確定した。1 か月という短い準備期間の中でも、例会担当者間、青年メンバーとの連絡を密に行うことで、概ねトラブルなく例会を開催することができた。
- ・ 事前に参加者に例会内容を伝えることで、参加者は事前に綿密な準備をした上で例会に臨むことができた。
- ・ 青年メンバーも参加者として参加したため、例会中の細かいフォローができなかった。円滑な例会運用のためには、少なくとも 4~5 人はフォローに回る必要があると感じた。
- ・ 参加者自身でニックネームを書いてネームホルダーに入れてもらうようにすることで、名札を用意する手間や受付でネームホルダーを渡す手間を省力化できた。
- ・ 短時間で 4 つのグループワークを行ったが、ファシリテーター・グループワーク発表者を青年メンバーからあらかじめ選出しておくことで、スムーズなグループワークが可能となった。
- ・ 参加者からのアンケートでは 94%(17 人中 16 人)が“イベントに満足”と回答した。一方で“グループワークの時間が足りなかった”、“議論を深めたかった”等のコメントもあった。
- ・ 1 度の短時間のワークショップでは現実的な解を導くことはできないため、続編のワークショップの開催や、ワークショップとは別のバーチャルな場など、さらなる循環的な学びの場を提供する必要がある。
- ・ 備品（模造紙やポストイット等）が不足した。今後は備品の在庫管理を行う必要があると感じた。
- ・ 臨時例会の開催可否はメール上で確定したが、今後このような臨時例会を開催する際の対応方法は事前に決めておく必要がある。

4. 実施状況

会場の様子



田中次期委員による説明



中島氏による講演



河野委員による講演



グループワーク風景



集合写真

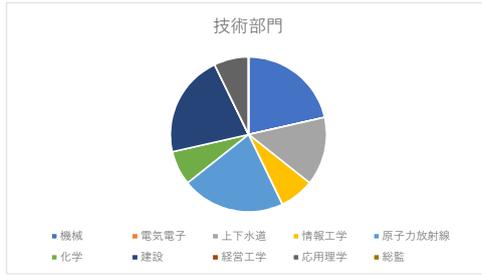


以上

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

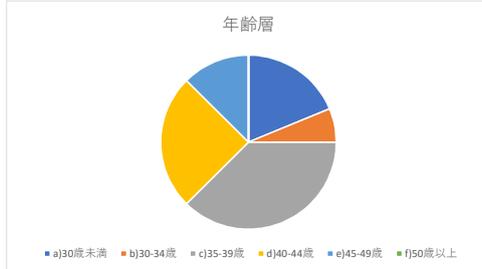
技術部門

機械	3	船舶海洋船	0
電気電子	0	化学	1
繊維	0	金属	0
資源工学	0	建設	3
上下水道	2	衛生工学	0
農業	0	森林	0
水産	0	経営工学	0
情報工学	1	応用理学	1
生物工学	0	環境	2
原子力放射線	3	総監	0



年齢層

a)30歳未満	3
b)30-34歳	1
c)35-39歳	6
d)40-44歳	4
e)45-49歳	2
f)50歳以上	0



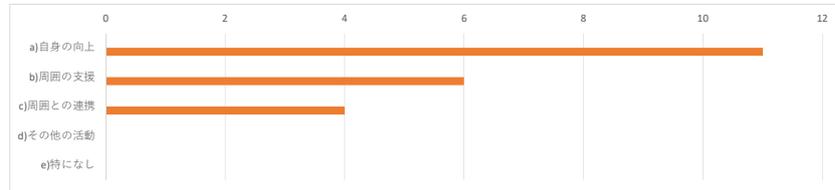
会員層

a)技術士	10
b)技術士補	1
c)修習技術者	2
d)JABEE学生	0
e)その他	3



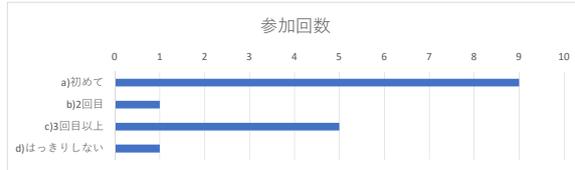
Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

a)自身の向上	11	資格取得,学会大会参加,継続研鑽,知識向上
b)周囲の支援	6	千葉科学フェスタでのアウトリーチ活動,理科教育支援,科学館ボランティア,県支部における環境教育,人のためになれば何でも
c)周囲との連携	4	保物学会若手研究会,青年委員会
d)その他の活動	0	
e)特になし	0	



Q3.青年委員会の活動について

参加回数	a)初めて	9
	b)2回目	1
	c)3回目以上	5
	d)はっきりしない	1



印象深かったテーマ

理科教室,会議のふりかえり,開業技術士による講演,サッカー,合格者交流会

開催してほしいイベント

a)情報の提供	8	講演会,講習会,時事問題解説
b)変化の提案	3	
c)楽しみの場の提供	2	懇親会
d)人脈形成の場の提供	3	国際交流
e)その他	3	工場見学



その他のご希望

Q4.今回のイベントについて

イベント全体	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	12	4	1	0	0

スタッフの対応	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	14	2	1	0	0

スタッフに伝えたいこと

よく工夫されていたと思います。素晴らしい挑戦ありがとうございます
楽しい企画をありがとうございます。

講演者の発表について

講演内容	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	11	5	1	0	0

発表者への質問、要望等

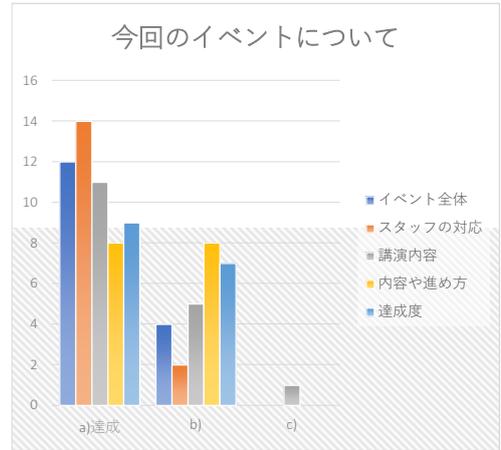
グループワークについて

内容や進め方

	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	8	8	1	0	0

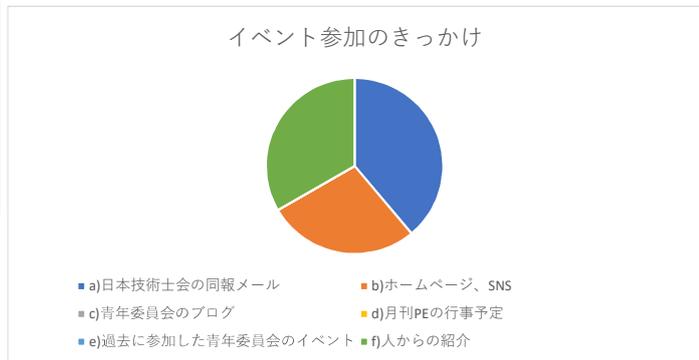
講師にお伝えしたいこと

内容が充実していましたが、もう少し時間があればと思いました。
進め方に関するスライドのプリントが欲しかった。
インストラクションのプレゼン資料をぜひ共有してください。
とても楽しかったです。楽しく学べました。社内企画の参考になりました
議論が不十分なままてんかいた点もあり、消化不良を感じました。
最初は不安だったが、技術士の方々が良い人で大変勉強になり良かった。



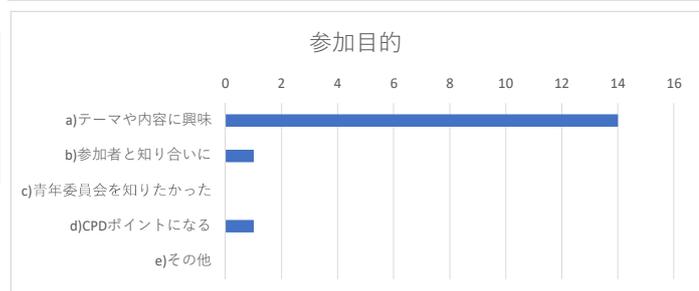
Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a)日本技術士会の同報メール	7
b)ホームページ、SNS	5
c)青年委員会のブログ	0
d)月刊PEの行事予定	0
e)過去に参加した青年委員会のイベント	0
f)人からの紹介	6
g)その他	0



Q6.参加の目的と達成度について

目的 a)テーマや内容に興味	14
b)参加者と知り合いに	1
c)青年委員会を知りたかった	0
d)CPDポイントになる	1
e)その他	0



達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	9	7			

※達成度は、本ページ一番上のグラフに統合

上記の達成度を選んだ理由について

- 他分野におけるリスコミの情報や放射線防護に対する意見をいただいた。
- 短時間で結論を導く練習になった
- 知識が向上した
- CPDになったから
- リスクコミュニケーションについて意識付けできた

行事名	5月例会:技術者のためのコミュニケーション講座
日時	2019年5月18日(土) 13:30~17:00
場所	機械振興会館 6D-1 会議室
講師、発表者	司会:守田哲(技術士(情報工学)) 発表者:清水委員補佐
担当者:(○印:リーダー)	山本(恵)、清水、下野、○守田(記)
参加者数	23名

1. 背景・目的

勤や度胸に頼りがちなコミュニケーションを、ナレッジをもとに自信を持って行うため、情報と練習の場を提供する。

2. 例会内容

2. 1. 挨拶・アイスブレイク(13:30~14:00):守田委員

例会目的と当日の趣旨を話し、あとの講義の説明を実感できるようコミュニケーションスタイル別にグループを作成し、グループごとに自己紹介と、自分が褒められること、質問されることについてどう感じるかの意見交換してもらった。

2. 4. 講義・グループワーク(14:00~16:50):守田委員、参加者

コミュニケーションスタイル別に部下や上司へのアプローチ方法、DESC 法による自他を尊重した課題解決のテクニック、エゴグラムを用いて、現在の自我状態の観察やストローク理論による交流や自我の成り立ちを説明し、グループワークを通じて体感や練習をしてもらった。

2. 4. 青年交流委員会の紹介(16:50~17:00):清水委員補佐

青年交流委員の活動内容やモットーを紹介し、一緒に活動するメンバーの募集を行った。

3. 成果と所感

- ・ 昨年と同じ内容だった3月例会に比べて、参加者数も2倍となり、2名のキャンセル待ち、3割以上の初参加者があった。リソースに対する効率化も重要だが、フレッシュなイベント提供を心がける必要があると感じた。
- ・ 外部アンケートを見ると、英会話、会話講座、コミュ力向上等のスキルアップを目指している方々が参加されていた。コミュニケーションを前面に出した行事名の成果と考える。
- ・ 参加目的として、テーマ内容を挙げた参加者が23名中19名で、全員が目的を達成できたという回答していた。また、青年委員会の活動で、印象深いテーマとして今回のテーマを挙げた方が3名いた。英語イベントと同列1位と評価されていて嬉しい。
- ・ メモ用に配った用紙がスライドの一部を利用するようにしていたため、使用感に難があった旨のコメントをいただいた。メモ用紙は、別途提供する必要があると感じた。
- ・ 講師に向けたコメントに、分かりやすかった・にくかった、講義・演習が良かった悪かった賛否あり、分かりやすく伝えることの難しさ、全員が満足する演習の難しさを、より強く認識した。
- ・ 高橋メソッドの手法を用いた青年交流委員の活動紹介により、文字主体の講義で疲れた参加者にも分かりやすく清水委員補佐のメッセージを伝えられていたと感じた。イベント後、青年委員の活動に興味を持った旨の連絡があった。
- ・ スタッフの対応によりリラックスできたという意見があった。しかし、講義中のスタッフの会話に対する苦言があった。

4. 今後の展開

- ・ キャリア系の内容を充足させることで、新規参加者への訴求を強めていきたい。

5. 活動写真
講座・グループワーク



青年委員会紹介



集合写真



懇親会

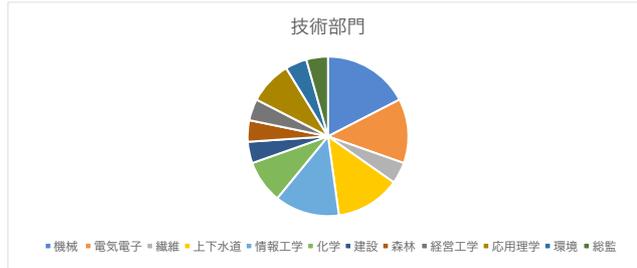


以上

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

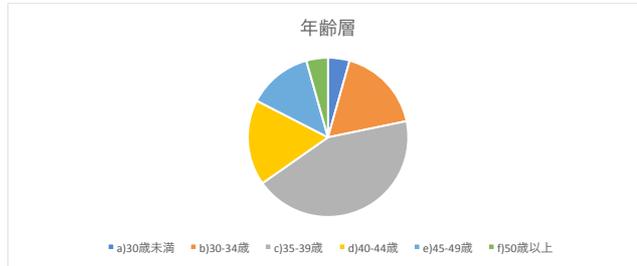
技術部門

機械	4	船舶海洋航空宇宙	
電気電子	3	化学	2
繊維	1	金属	
資源工学		建設	1
上下水道	3	衛生工学	
農業		森林	1
水産		経営工学	1
情報工学	3	応用理学	2
生物工学		環境	1
原子力放射線		総監	1



年齢層

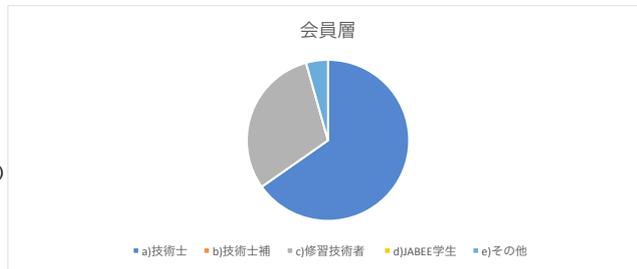
a)30歳未満	1
b)30-34歳	4
c)35-39歳	10
d)40-44歳	4
e)45-49歳	3
f)50歳以上	1



会員層

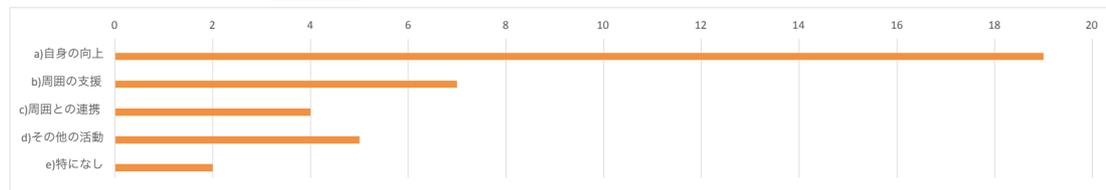
a)技術士	15
b)技術士補	0
c)修習技術者	7
d)JABEE学生	0
e)その他	1

PE(mechanical)



Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

a)自身の向上	19	資格取得、他部門受験、英会話、社労士、講演会、会話講座、修士、無線技術士、コミュカ向上
b)周囲の支援	7	勉強会開催、会社主催のキッズスクール、スペシャルオリンピックコーチ、マラソン大会ボランティア
c)周囲との連携	4	近畿本部青年委員会
d)その他の活動	5	国際交流、2020東京五輪都市ボランティア、YouTube、SNS
e)特になし	2	



Q3.青年委員会の活動について

参加回数	7
a)初めて	5
b)2回目	10
c)3回目以上	1
d)はっきりしない	



印象深かったテーマ

英語×2、ディベート、今回×3、交流会、ファシリテーション、リスコミ、合格者歓迎会、外国人講師を招いた英語

開催してほしいイベント

a)情報の提供	15	ビジネス講習会、見学会、専門技術を青年視点で解説、工場見学、様々な業種の見学会
b)変化の提案	11	スキルアップ
c)楽しみの場の提供	5	
d)人脈形成の場の提供	7	国際交流、国際交流
e)その他	1	展示会(ロボットなど)の活用方法のレクチャー

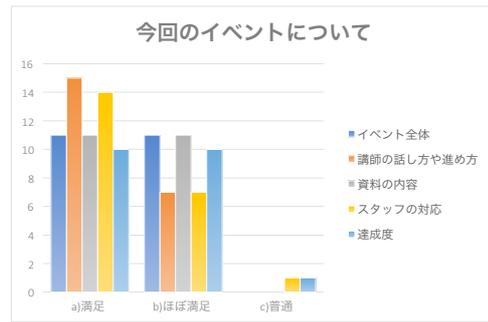


その他のご希望

野外イベント(城の構造について多角的に知りたい)、横浜駅近開催

Q4. 今回のイベントについて
イベント全体

	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)やや不満	e)不満
講師の話し方や進め方	11	11			
資料の内容	15	7			
スタッフの対応	11	11			
講師に伝えたいこと	14	7	1		



メガネをもっとアピールしてください。
メモ欄に背景色があると鉛筆の字が隠れてしまう。
参考になりました。早速使いたいと思います。
ワークのバランス・順番がもったいない。
文字が多すぎて、講師をあまり見なくなってしまう。
DISCのたとえ話が、わかりにくかった。
とても分かりやすかったです。話が聞きやすくてすごかったです。
内容は良かったものの、メモ欄に背景色があると鉛筆の字が隠れてしまう。
CSIの説明で「～らしいです」という言い方だと不安になります。グループワークのコメントは面白かったです。
とても分かりやすい講義と演習でした。ありがとうございました。

スタッフ伝えたいこと

初めてでしたが、声をかけていただいて、リラックスして参加できました。
スタッフの話し声が大きく、講義が聞き取りにくい場面がありました。もう少し音量を落とすか、外で話すべきかと思いました。

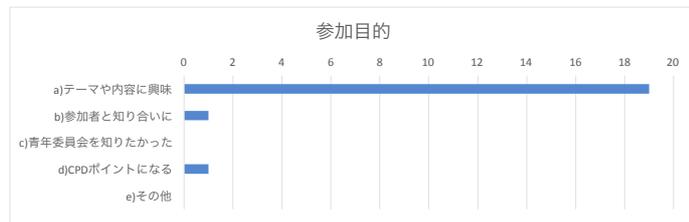
Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a) 日本技術士会の同報メール	7
b) ホームページ、SNS	8
c) 青年委員会のブログ	1
d) 月刊PEの行事予定	
e) 過去に参加した青年委員会のイベント	2
f) 人からの紹介	4
g) その他	1



Q6. 参加の目的と達成度について

目的	a) テーマや内容に興味	19
	b) 参加者と知り合いに	1
	c) 青年委員会を知りたかった	
	d) CPDポイントになる	1
	e) その他	



先輩方に今後のことについて相談するため

達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	10	10	1		

※達成度は、本ページ一番上のグラフに統合

行事名	6月：拡大委員会および懇親会
日時	2019年6月15日(土)【交流会】13:00～17:00【懇親会】19:00～【二次会】21:15～
場所	拡大委員会：機械振興会館 地下3階 研修-1会議室 大懇親会：瓦-kawara DINING 新橋店 2次会：中華料理 春夏冬
担当者： (○:主担当)	○諸田委員長、太田委員、鈴木委員、守田委員、田中(仁)委員(記)
司会、報告者等	青年総会：司会 竹内委員、議長 諸田委員長 地域本部活動報告：仁田委員長、齋藤委員長、小酒委員長、石川委員長、 宮西委員長、三角委員長、池谷委員長、永岩委員長
参加者数	青年総会：59名、本支部交流会：63名、大懇親会：70名、二次会：44名 ※懇親会にはOB/OG 11名含む

1. 背景・目的

地域本部間の意見交換および交流を目的とし、拡大委員会での青年総会、地域本部活動報告および懇親会を実施した。

2. 内容およびタイムスケジュール

13:20-14:10 青年総会

14:20-17:00 地域本部活動報告 / フラッシュ自己紹介コンテスト

19:00-21:00 大懇親会 / 映えるお土産フェスト

21:15-23:00 懇親2次会

3. 成果と所感

3-1. 青年総会

拡大委員会（総会）は、滞りなく議事に沿って進行した。昨年度の統括本部における活動内容と収支実績、および今年度の活動予定と予算に関して全委員から承認を得た。一部予算内容への質疑や、議案書の文言変更のコメントをいただいた。

地域本部からは、議事がスムーズで質疑が活発に行われて良かったとのコメントがあった。一方で、具体的な活動報告を知りたいため、本支部交流会で活動報告を行うのではなく、青年総会で行った方が良いのではという意見や、会計報告の更なる詳細報告や会計ルールの明文化文章の公表を求める声もあった。上記コメントは次回の拡大委員会に活かしていければと考える。

3-2. 地域本部活動報告 / フラッシュ自己紹介コンテスト

初めにフラッシュ自己紹介コンテストとして、参加者全員が10秒/人にて自己紹介を行った。全員が自己紹介するのは初の試みである。自己紹介は1人もしくは複数人で行い、全員が声を出すことで、互いを認識することや、交流の良

いきっかけとなった。印象に残った自己紹介について投票を行い、大懇親会にて表彰を行った。地域本部からは、全員参加型であることが良かったとのコメントがあった。一方で、参加人数の少ない地域本部には投票時は不利かもしれないとのコメントもあった。自分以外に投票するルールを加えても良かったかもしれない。

フラッシュ自己紹介コンテストの実施後、統括本部および各地域本部から昨年度の活動報告を行った。地域本部において企業とタイアップしたイベントの紹介や統括本部よりラジオによる広報活動の紹介をはじめとする新しい取り組みや施策を共有することができた。このように各地域の活動の幅を広げるための気づきを相互に与える場として、本支部交流会が今後も活用されることを期待する。地域本部からは、各地域本部の活動内容を知れる機会となり、有意義とのコメントがあった。一方で、PC 動作があまり良くなかったことや、スクリーンが小さく細部が見えなかったので資料の文字サイズ制限をしても良いかもしれないとのコメントがあった。今後は事前に PC 動作やスクリーン表示確認を行うこととしたい。

3-3.大懇親会

1 次会は地域メンバーの宿泊先と拡大委員会の場所を踏まえ、新橋近辺の会場で実施した。

地域本部の方はホテルにチェックイン後に会場に向かったが、全員集合時間に間に合うことが出来た。拡大委員会の終了時刻、移動時間、ホテルのチェックインの時間を鑑みて会場、スケジュールを決定した効果であったと考える。

大懇親会は交流を活発にするために半立食形式とした。

イベントは「諸田委員長の卒業ライブ」、「フラッシュ自己紹介の表彰」「全地域からの映えるお土産フェスト」を実施した。諸田委員長の卒業ライブでは、会場のメンバーも委員長と共に踊り、大いに盛り上がった。フラッシュ自己紹介の表彰は仮装したままの諸田委員長から行い、笑いが絶えなかった。映えるお土産フェストでは、お土産をきっかけに参加者同士が積極的に交流を図り、懇親を深めることができた。加えて、急遽各地域本部の委員長から一言をいただいた。

地域本部からは、諸田委員長の振り切れ具合が良かったことや、半立食形式で多くの方と交流できて良かったとのコメントがあった。一方で、人数の割に、お店がやや狭いように感じたことや、映えるお土産フェストのアピールタイムや順位付けがほしかったとのコメントがあった。次回の拡大委員会では事前に参加人数を確認した上でお店選びを行うこととしたい。また、企画についても順位付け有無を考慮することとしたい。

3-4.大懇親会後の 2 次会

2 次会は、大懇親会会場から徒歩 3 分程度の場所で開催した。大懇親会がイタリアンであったため、二次会は中華料理とした。会場は貸し切りで、周囲に気を使うことなく交流活動が実施された。到着順に自由に各テーブルに着席し、ほぼ時間通りの 21 時 15 分頃から横田委員の乾杯の挨拶後、2 次会がスタートとなった。2 次会は各自が積極的に他の参加者との交流を行っており、大変活発な懇親を図ることができた。

もともと終了予定時間は 24 時であったが、ラストオーダーや終電時間等を考慮して、23 時 15 分後ごろに終了した。時間管理があいまいであったため、急に終了したような感じになってしまい、その点を指摘された。時間を確認し、終了の少し前にアナウンスが必要であった。地域本部からは、貸切・着席形式で落ち着いて話せて良かったとのコメントがあった。一方で、席替えをしてより多くの人と話すことが難しかったため、座敷の方がより良かったかもしれないとのコメントがあった。次回の拡大委員会では、席替えのしやすさも考慮したお店選びを行うこととしたい。

4. 今後の展開

統括本部においては、任期が2年2期までという縛りがあり、今回は2期目委員の退任の時期にあたる。地域本部においても、今回ほとんどの地域の委員長が退任した。本会では、今後も地域本部間の交流を継続、さらに深耕することを鑑みて、統括での司会を複数名充てることや、3つのミニ企画を用意した。狙い通り、地域間の積極的な交流に繋がり、連携を深めることができた。また、各地域の活動報告を行い互いの取り組みを共有することで、多くの気付きを得た。今後は互いの情報やノウハウの共有を促進し、共に切磋琢磨し、よりよいイベント活動を実施していける体制に繋がったと感じる。今後も地域本部間の交流を継続、さらに深耕するために、交流しやすい場を提供とすることに焦点を当てて拡大委員会を開催したい。

なお、会議室の予約を2か月前に行ったことから、17時までしか会議室を借りることが出来なかった。今後は半年前から会議室の予約をすることを推奨する。また、拡大委員の担当は新旧の委員長・副委員長となっているが、引き継ぎや業務都合もあり、準備負担が偏る場面が見受けられた。担当として、準備期間中に業務都合がつきやすい委員を2~3名別途アサインすることを推奨する。

5. 実施状況

青年総会



フラッシュ自己紹介



地域本部活動報告



集合写真



大懇親会



二次会



以上

行事名	6月:拡大委員会2日目 テクノ・懇親会
日時	2019年6月16日(日) 9:30~15:00
場所	■テクノ:皇居東御苑、岩崎邸庭園、東京都水道歴史館等 懇親会:東京 MarMare
担当者: (○印:リーダー)	○田角委員、○後藤委員、守田委員、小塚委員
参加者数	■テクノ53名、懇親会45名

1. 背景・目的

拡大委員会(2日目)では、テクノツーリズムを実施した。テクノツーリズムでは、今年5月1日より令和元年となったことから、時代を振り返り、江戸期・明治期の建築・土木を主題とした街歩きツアーを行った。コースは、江戸城の遺構を巡るコース、明治期の近代建築を巡るコース、江戸時代の上水や土木事業を巡るコースの3コースを設定した。テクノツーリズム終了後は、地域間の意見交換及び交流を目的として懇親会を実施した。

2. 内容

テクノツーリズムは、全員東京駅日本橋口に9:15に集合し、9:30スタートで3コースに分かれそれぞれ実施した。テクノ終了後は各コース班長の誘導により「東京 MarMare」に移動し、懇親会を実施した。

- ① コースは班長(説明)後藤委員、副班長河野委員、吉浦委員、カメラ守田委員、②コースは班長山本(恵)委員、副班長白井委員、カメラ清水委員補佐、③コースは班長田角委員、副班長白井委員、瀧川委員、カメラ山本(直)委員補佐がそれぞれ担当した。

2-1. テクノ ①江戸城コース

①江戸城コースでは、皇居東御苑内を散策しながら東御苑内の江戸城遺構をそれぞれ見学した。東御苑散策後は、和田倉噴水公園前を經由して東京駅の赤レンガ駅舎を正面に見ながら八重洲方面に移動し、懇親会場に向かった。

[コース] 東京駅→皇居東御苑大手門→同心番所→百人番所→大番所→富士見櫓→松の大廊下跡→富士見多間→石室→天守台→汐見坂→都道府県の木→諏訪の茶屋→二の丸庭園→和田倉噴水公園→東京駅赤レンガ駅舎→懇親会会場

2-2. テクノ ②近代建築コース

②近代建築コースでは、明治期の近代建築、特にジョサイア・コンドル氏とその流れを汲む日本人建築家(辰野金吾、岡田信一郎等)の建築を、東京駅丸の内周辺を散策しながら見学、湯島の岩崎邸庭園のガイドツアーに参加し、ジョサイア・コンドルの建築について詳しく学んだ。

[コース] 東京駅→日本銀行本店(辰野金吾)→東京駅丸の内駅舎(辰野金吾)→日本工業倶楽部会館(横河民輔)→岩崎邸庭園(コンドル)ガイドツアー→明治生命館(岡田信一郎)→三菱一号館美術館(コンドル)→懇親会会場

2-3. テクノ ③土木コース

③土木コースでは、江戸期・明治期の上水道について東京都水道歴史館のガイドツアーに参加し、その後江戸期の土木事業として上水及び江戸城の外濠・内濠を散策しながら見学した。

[コース] 東京駅→神田川→東京都水道歴史館ガイドツアー→本郷給水所公園(神田上水石樋)→神田上水懸樋跡→水道橋→外濠牛込濠→牛込見附跡→飯田濠跡→神田川(平川付け替え跡)→皇居東御苑平川門→白鳥濠→天守台→懇親会会場

2-4. 懇親会

懇親会では、まず河野委員の発声により乾杯を実施した。コース3のメンバーが予定開始時刻に到着できなかったため、コース1・2の到着メンバーにて、懇親会を先行してスタートした。その後、コース3

のメンバーが無事到着し、参加者全員が揃ったため、横田副委員長・白井副委員長の発声の下、本乾杯を実施し、交流を深めた。懇親会途中には田角委員によるクイズ企画を行ったほか、終盤に各地域本部新委員長(新委員長が不在の地域は代理委員)からの挨拶を行い、大いに盛り上がった(司会:後藤委員・守田委員)。

3. 成果と所感

3-1. テクノ ①江戸城コース

拡大委員会 1 日目は雨天だったが、2 日目は好天に恵まれ、安心して本番に臨むことができた。事前に東御苑のコースを下見し、ルートと凡その時間を把握することで、迷う等のトラブルがなく誘導が行えた。当日は子連れの参加者もいたため、時間の余裕を持たせておいたことで、ほぼ時間通りに散策をすることができた。

コース①に関しては他のコースに比べて時間的な余裕もあったようで、12 時頃には東御苑を出て懇親会場に向かった。懇親会の幹事をしていた手前、時間前に懇親会場に行くことを優先してしまい、一部の方は二重橋も観に行きたいと言っていたため、立ち寄っても良かった。また、本番前に体調を崩してしまい、声も十分に出ない拙いガイド説明となっており、班長の役割を十分に果たすことが出来ず、その点に関しては申し訳ないと思っている。

3-2. テクノ ②近代建築コース

コース②については、岩崎邸の見学時間まで時間が余りそうであったため、日本銀行本店を見学コースに加えた。しかし、思いのほかツアーに時間を要し、岩崎邸のガイド開始時間に間に合わない恐れがあったため、予定していたニコライ堂の見学を取りやめた。岩崎邸のガイドは、とても専門的なもので、参加者からは好評であった。一方で、休日であったことからガイドツアーの所要時間が下見時よりも20分近く長くなったため、その後の明治記念館の見学は外部からのみとして、懇親会に直行した。

地下鉄運行時間などを考慮した細かなタイムスケジュールを組んでいたおかげで、臨機応変に見学場所の取りやめ判断を行うことができたが、もう少し行程に余裕にあるスケジュールを組んでおいた方が、ゆったりと参加者同士で交流を図りながらガイドを楽しんでいただけたのではないかなと思う。

3-3. テクノ ③土木コース

コース③は、前半部を東京都水道歴史館におけるガイドツアー、後半を街歩きツアーとしてコースを設定した。テーマを江戸期の土木事業とし、江戸期の上水(下水)、江戸城外濠・内濠を電車+徒歩で見て歩き、現地で説明を行う形式としたが、見学ポイントが皇居を中心に分布しているとはいえ、電車を使ってもそれなりに移動時間がかかり、何度か下見を重ねたが、限られた時間内に収めるのが難しく、当日の1週間前に最終的にコースを決定した。

当日はやや気温も高く、子連れの参加者もあり、各ポイントで予定より少しずつ時間がかかっていき、最終的に懇親会会場への到着が30分以上遅れてしまった。

ガイドツアー・街歩きツアーおよび配布資料ともいずれも好評ではあったが、時間がかかりすぎる等の指摘が相次いだ。特に子連れ参加者には長い時間歩き回って大変だった模様であり、コースの見直しや、あらかじめ他のコースへ誘導するなどの配慮が必要だったと思われ、反省すべき事項が多かった。

3-4. 懇親会

今回は、昨年や一昨年に行ったBBQ 懇親会には拘らず、東京駅周辺にて4,500円/人程度の予算で2時間以上の飲み放題メニューによる実施が可能な会場を4箇所抽出し、関係者間で最も賛成意見の多かった「東京 MarMare」を選定した。お店のジャンルはスペイン料理の他にイタリアン料理のメニューが含まれており、標準飲み放題コースでのメイン料理はパスタとなっていたが、お店との交渉でメインをパエリアに変更し、大懇親会と料理が被らないように配慮した。お店の担当者は大変丁寧な対応をしてくれたため、メニュー変更も柔軟に行うことができ、オプションとなっていた瓶ビールから生ビールへのグレードアップとフォカッチャ食べ放題を付けた状態で、4,500円/人ちよどの予算とした。

キャンセル規定について、最終的な人数の変更は拡大委員会1日目(前日)の大懇親会終了までに行えばよい条件であったため、拡大委員会前までに暫定的な人数を把握し、1日目の段階での参加費の集金と、最終的な人数確定の連絡を前日の夜に行った。

また、懇親会の形式は半立食形式として、壁沿いのソファー+椅子と、中央にはテーブルの島をいくつか配置し、立食と座りながらの交流の両方を楽しめる形とした。

以上の準備を行った結果、懇親会の方は予算の過不足等のトラブルもなく行うことができ、半立食とすることで、1日目とテクノで疲れた足を休めていただいたりしながら、交流を楽しんでいただくことができた。

2日目懇親会については、乾杯と終わりの挨拶の担当を事前に決めた以外、特別に企画等は考えていなかったが、クイズ企画、各地域本部新委員長等からのスピーチなどを途中に取り入れたことで、盛り上げることができた。

4. 今後の展開

4-1. テクノ全体

統括本部では、毎年行われる拡大委員会時のテクノについて、これまで工場見学やガイド付きミュージアム見学を主に行ってきたが、全国大会等で他地域本部主催のテクノに参加すると、街歩きや離れた見学ポイントを巡る形式があり、今回統括本部で新たな試みとして取り入れた。これは、従来の拡大委員会時テクノの開催にあたっての課題であった、日曜日に見学可能なガイド付き見学先がかなり限られること、予約の難しさ等に対し、今後有効なテクノ実施手段として活用できると考える。

今回もう一つのテーマは、「東京ならではの史跡・技術をみてもらう」ことであり、この点については成功したと思う。昨年度の千葉県現代産業館見学でも、千葉県の主要技術産業である電気・石油・鉄鋼をテーマとした展示を見学してもらえた。今回は時代をさかのぼって江戸・明治期が主題であったが、江戸城遺構等、東京でしかみられない史跡を見学することができた。首都圏は経済・文化の中心地であり、最新の技術などもみることができるが、拡大委員会では全国から委員が集合するので、全国他地域でもみられるものでなく、首都圏各都県固有のものにこだわることで独自性や面白さを出せるのではないかと考えている。

テクノ実施上での今後の課題としては、まず全国から集まって全国へ帰る参加者のために、飛行機や新幹線等の予約の都合により早退する人もいるので、移動に支障がないよう配慮した場所やルートの計画を行うことである。これは今後も毎回、参加者のうち早退する人の離脱時刻や移動ルートを詳しくヒアリングし、問題なく帰れるよう配慮を行う。また、今回は子連れ参加者が2組あった。1組は事前に連絡を受けていたが、もう一人は把握していなかったため、事前にアレルギー対応のお菓子の用意など準備が足りないところがあった。より多くの人に家族連れでも参加してもらえるよう、事前の周知と参加予定の把握を行い、家族連れでも楽しめる見学内容や配慮を行えるとよい。

4-2. 懇親会

テクノコース3のメンバーの到着が遅れ、一方でコース1・2の到着メンバーからは早く飲みたいという待望論なども多く、今回は先行して飲み放題をスタートという判断に踏み切った。コース3のメンバーが到着した頃にはある程度の料理も出てしまい、先行メンバーで食べきってしまったため、少し料理が少ないという意見も出ていた。テクノにおける時間と巡回コースの優先度やその後の懇親会開始時間との連携等については、見直す必要があると感じた。また、テクノに関しては田角さんへの負荷が集中しすぎている感じがしたため、複数コースでの企画を考える場合は、それに相応した担当メンバーを割り振る等も必要であると感じた。

喫煙所について、1階のお店入り口の方の喫煙所の椅子が撤去されていたという意見があり、踊り場での喫煙状況は確認していたものの、1階の喫煙空間の状況までは自身でも確認を怠ってしまったため、喫煙者への配慮が不足していたと反省している。

また、2日目懇親会については、BBQを期待していた人が複数いた。BBQをやりたい、昨年よりインパクトが薄かったという意見も出ていたため、来年以降はBBQ懇親会を復活させ、拡大委員会締めイベントとしての定番にする必要があると感じた。

5. 実施状況

テクノ ①江戸城コース



テクノ ②近代建築コース



テクノ③ 土木コース



懇親会



以上

行事名	7月例会: Dreams Project 令和元年 夏休み子供理科教室 テーマ:「ガリレオ温度計を作ろう!」 キャッチコピー:「モノのうきしずみで温度が分かる?—エウレカエウレカ!—」
日時	2019年8月3日(土) 13:30 - 16:30
場所	滝野川会館(北区) 301+302 集会室
講師・発表者	清水委員補佐、吉浦委員、山本(直)委員補佐
担当者: (○印:リーダー)	○山本(直)委員補佐、吉浦委員、清水委員補佐、鈴木委員、河野委員、高木委員、吉岡委員、後藤委員、杉山委員補佐、太田委員、竹内委員長 山本(恵)元委員、中川元委員、下野元委員、白井元委員 ・協力者として4名参加 ・Dreamsの開催は委員の任期後となるため、満了となった委員は元委員とした。
参加者数	・参加者:45名(児童24名、保護者21名)、キャンセル2名(児童1名、保護者1名) ・スタッフ:18名(委員7名、委員補佐3名、元委員4名、協力者4名)

1. 背景・目的

- ①子どもたちに工作実験を通じて科学の面白さを伝える。
 - ②組織外との交流により、技術士の知名度向上を図る。
- 会場が7月中に押さえられなかったため、8月に行くこととなった。

2. 例会内容

2.1 はじめに(13:30~13:50)

- ・山本(直)委員補佐より、配布物の確認、諸注意を行った。
- ・竹内委員長より、技術士に関する説明を行った。

2.2 解説「密度・温度」(13:50~14:10): 清水委員補佐

- 清水委員補佐より、密度および温度についての解説を実験を交えながら行った。
- ・重さ: 材質によって重さが異なることを実験を通して確認した。
 - ・密度: 大きさや重さによって、密度の高い・低いをまとめた。
 - ・温度: 温度によって体積が変化し、密度が変わることを実験を通して解説した。

2.3 解説「浮力」(14:10~14:40): 吉浦委員

- 吉浦委員より、浮力に関する解説を行った。
- ・水圧: 水深の深いところほど周りからの水圧が高いことを説明した。
 - ・浮力: 水圧と重力の釣り合いから浮力の解説と密度の異なる液体を使つての浮力の違いを天びんで実験した。
 - ・アルキメデスの原理: ローマ昔話として紹介。

2.4 休憩(14:40~15:00)

- ・解説が予定より早くなったことから、休憩時間を多めにとった。
- ・休憩中に種類の異なる油での層を作成、サラダ油中に食紅で着色した水をスポイトで注入し、水玉を作成する実験を行った。
- ・ほか展示物や解説で行った実験を再度行った。
- ・保護者の方からの熱心な質問があった。
- ・休憩時間を利用し、解説の資料、工作の資料、8月イベント資料、薬包紙の配布を行った。

2.5 工作(15:00~16:30): 山本(直)委員補佐

- ・工作を始めるにあたり、備品の確認、注意事項、手順の説明を行った。
- ・工作開始前に、スタッフで最初の工程で使用する水の配布を行ったことで、混むことなく順調にすすめることができた。

- ・まず、常温の水を使用し、小びん(浮沈子)の調整を行い、温水で沈む様子、1L 容器に移し、冷水を加えて浮かぶ様子を観察及び温度の測定を行った。
- ・スタッフには水がこぼれないようにすること、小びんの調整の補助、温水・冷水の配布をお願いした。

2.6 おわりに

- ・集合写真及びアンケートを実施した。
- ・8月のイベントを後藤委員より紹介した。
- ・山本委員補佐より、講評、終了の挨拶を行った。

2.7 最終収支

収入		
項目	金額	備考
参加費	¥23,000	¥1,000/児童
合計	¥23,000	
支出		
項目	金額	備考
※会場費(プロジェクター含む)	¥17,280	青年の予算から(3月支払い済み)
レク保険	¥3,635	
解説備品	¥1,787	
工作備品	¥16,835	
合計	¥22,257	
収入-支出		
	¥743	

3. 成果と所感

- ・今回の募集は、過去参加者への案内メール、HP、小学校へのチラシ配布を実施し、チラシからの参加は約50%と新規の参加者が多かった。
- ・過去参加者のリピーターは約2割程度であった。
- ・テーブルに養生シートと新聞紙を敷いたこと、およびコップをトレーに固定、最初の水をスタッフで準備したことにより、水をこぼすことはなかった。
- ・スタッフ1人につき児童2名となったが、もう少しスタッフが多いほうが良かった。
- ・温度計の測定ミス(先端のキャップを外さなかった)により、温水が60℃程度と高温で配布されることがあった(配布は50℃以下としていた)。
- ・実験ノートの説明を伝えそびれてしまったが、各々の判断で記入を開始している姿が見られた。
- ・今回の内容は密度、温度、浮力が相互に関係しているものであり、浮力に至っては中学校1年生で習う内容であることから、とてもレベルの高いものであった。そのため、推奨の学年以下の参加者には、退屈に感じる部分があるのではないかと不安があったが、熱心に取り組んでいる姿をうかがいしれた。
- ・今回の体験を通し、身近にあるものへの興味、科学を楽しんでいると感じてもらえることができたと期待する。

4. 今後の展開

- ・開催するにあたり、会場をどこにするのが最も課題となった。周辺施設への聞き込みを行い、理科教室に使えるであろう場所が1、2ヶ月前でしかできない場所、液体の使用など制限のある場所をおおよそ知ることができた。
- ・施設で夏休みに様々な団体を招いて行っているところもあったが、すでに年間の予定が決まっていることもあり、そこに入り込むことはできなかったが、興味を持って聞いてくださった方もおり、早めに相談することで、開催することに希望が持てた。
- ・他の理科教室と異なり、技術士としての特徴を生かし、内容が如何に実社会において開発、利用さ

れているのかにつなげ、将来の夢を実現するための道標となればと思う。

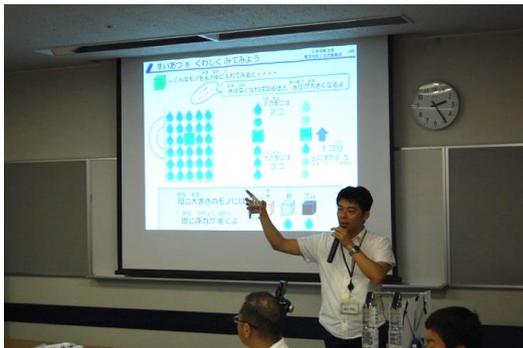
5. 実験の様子



技術士説明(竹内委員長)



密度・温度の解説(清水委員補佐)



浮力の解説(吉浦委員)



展示態中)



工作 1



工作 2

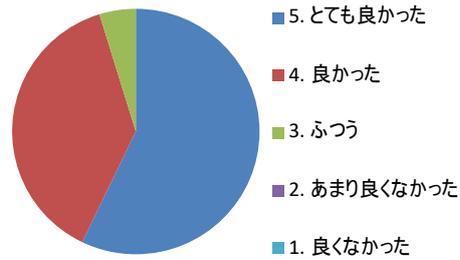


集合写真

以上

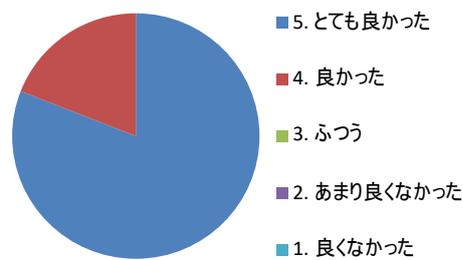
Q1. 今回の理科教室は全体的にどのように感じましたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	12	57.1
4. 良かった	8	38.1
3. ふつう	1	4.8
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	21	100.0



Q2-1. スタッフの対応はいかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	17	81.0
4. 良かった	4	19.0
3. ふつう	0	0.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	21	100.0

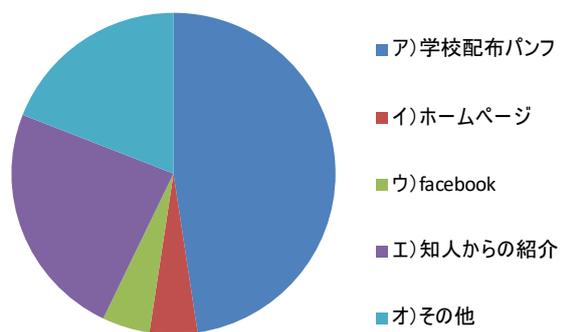


Q2-2. Q2-1で1または2とお答えの方、具体的に良くなかった点をお聞かせ下さい。

わかりやすい説明で楽しく実験が出来たと思う
 説明がわかりやすい 若干、レクチャーが長かった。子供には少々飽きたかも。
 アドバイスのタイミングなどサポートが良かった

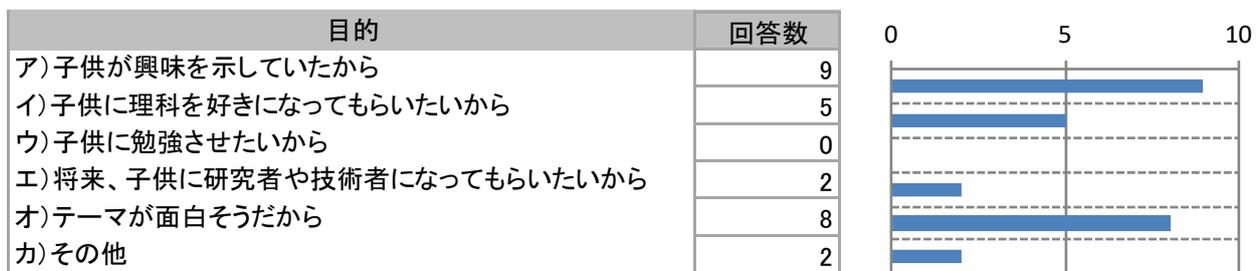
Q3. この教室を知ったきっかけを教えてください。(複数回答あり)

きっかけ	人数	割合 (%)
ア) 学校配布パンフ	10	47.6
イ) ホームページ	1	4.8
ウ) facebook	1	4.8
エ) 知人からの紹介	5	23.8
オ) その他	4	19.0
合計	21	100.0



滝野川第二 4 滝野川第五 2
 港区立東町 2 赤坂 1
 東十条 1
 パンフレットを見た人の内訳

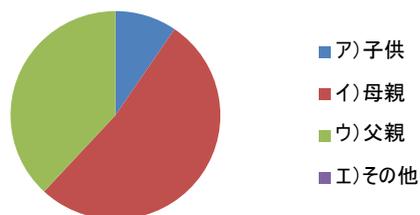
Q4. なぜこの理科教室に参加したいと思いましたか。(複数回答可)



- ・夏休みの自由研究に良いと思ったから
- ・家から近かった。

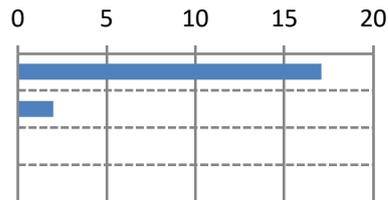
Q5. はじめに参加をしようと思ったのは誰ですか。

	人数	割合 (%)
ア) 子供	2	9.5
イ) 母親	11	52.4
ウ) 父親	8	38.1
エ) その他	0	0.0
合計	21	100.0



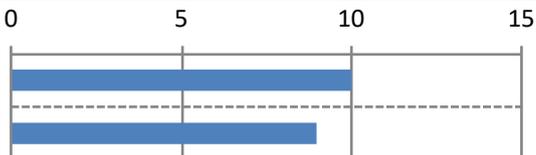
Q6. 申し込み方法はわかりやすかったですか。

パンフ	回答数
わかりやすく安心して申し込み出来た	17
わかりにくかったが安心して申し込めた	2
わかりやすかったが不安・不満を抱えて申	0
わかりにくく不安・不満を抱えて申し込んだ	0



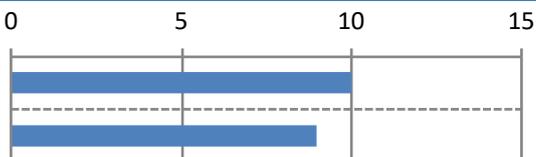
Q7.パンフレットは安心して申し込むための必要な情報は記載されていましたか。

	回答数
ア)十分だった	19
イ)不十分だった	0



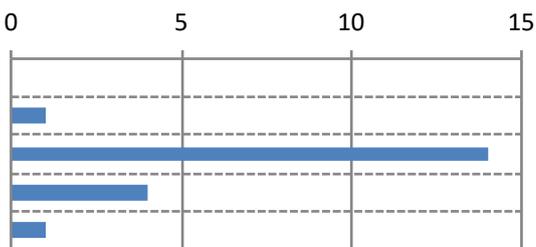
Q8. 「技術士」という資格を以前から知っていましたか。

	回答数
ア)知っていた	10
イ)知らなかった	9



Q9-1. 参加費について教えてください。

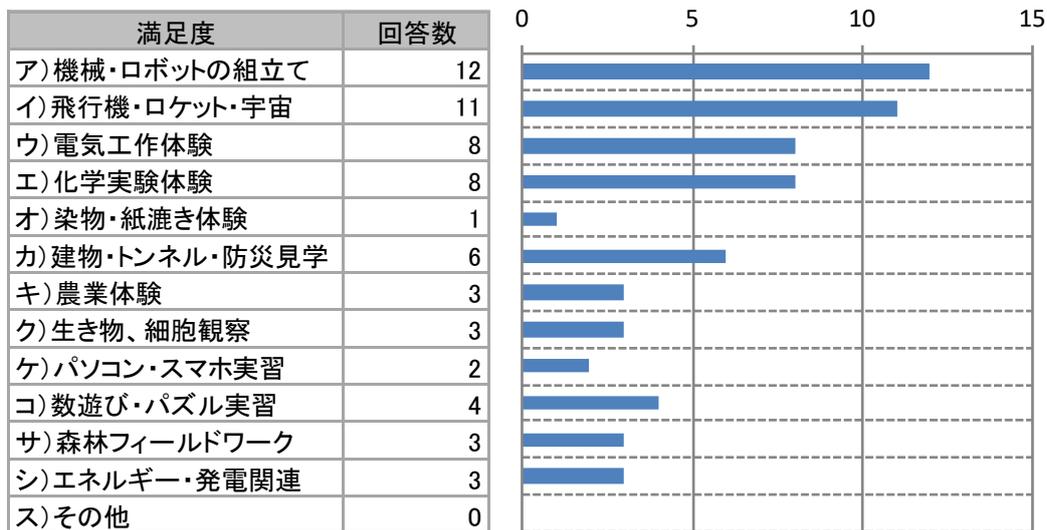
満足度	回答数
5. とても高い	0
4. 高い	1
3. 妥当	14
2. 安い	4
1. とても安い	1



Q8-2. Q8-1で3以外とお答えの方、妥当な参加費はいくら位だと思いますか。

- ・1,500円 2名
- ・500円 1名

Q9. 今後、どのような内容の理科教室を希望されますか。(複数回答可)



Q10. 今後も技術士会が主催する理科教室に参加したいですか。



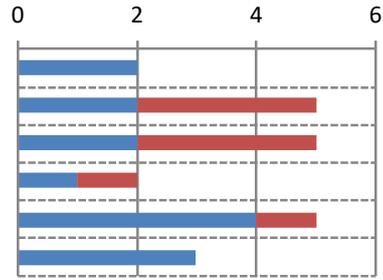
Q11. この教室へのご意見、ご感想をご自由にお書きください。

上手くできてよかった
珪砂の量の調整が難しかったです。
温度が高くなるとピンが浮かび楽しかったです。
親の自分が苦手とする分野なので、こういう機械で子供に触れさせることができるのはとてもありがたいです。
割りばしを使った橋の作り方、建造物のしくみがとてもよくわかり楽しかったです。
横田さんに宜しくお伝えください。

裏があるのに気付いていない？ 裏全面白紙 2名

Q1. あなたの学年と性別を教えてください。

参加者	男の子	女の子
6年生	2	
5年生	2	3
4年生	2	3
3年生	1	1
2年生	4	1
1年生	3	



Q2-1. 今日の教室は、おもしろかったですか？

満足度	回答数	割合 (%)
5. すごくおもしろかった	12	54.5
4. おもしろかった	9	40.9
3. あまりおもしろくなかった	0	0.0
2. つまらなかった	0	0.0
1. すごくつまらなかった	0	0.0
0. わからない	1	4.5
合計	22	100.0



Q2-2. こんなところがおもしろかった、つまらなかった、あれば教えてください。

温度計を使って温度を測ったところが面白かった。
 温度を測るのが楽しかった。 水とお湯を調節したところがおもしろかった。
 お話しがおもしろかった 珪砂を入れるところが、おもしろかったです。
 珪砂の量を調整するところ。浮き上がった時がおもしろかった。
 実験など 全部 へんなどこ
 いろいろな道具があっておもしろかった 実験が成功したこと
 砂を入れたり取ったりするところがおもしろかった。 浮いたり沈んだりするところ
 実際に温度計を作れたこと 失敗したところや入れなおしたとこ
 小びんが、浮いたり沈んだりしたのが、おもしろかったです。

Q3. スタッフのお兄さん、お姉さんはどうでしたか？（複数回答あり）

印象	人数	割合
ア)親切だった	12	44.4
イ)やさしかった	11	40.7
ウ)おもしろかった	4	14.8
エ)こわかった	0	0.0
オ)その他	0	0.0
合計	27	100.0



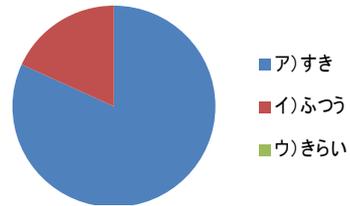
Q4. どうしてこの教室に参加しようと思いましたか？（複数回答あり）

目的	人数	割合
ア)理科が好きだから	6	21.4
イ)工作が好きだから	7	25.0
ウ)夏休みの自由研究になりそうだから	6	21.4
エ)親に言われたから	6	21.4
オ)学校で紹介されたから	3	10.7
合計	28	100.0



Q5. 理科や科学は好きですか？

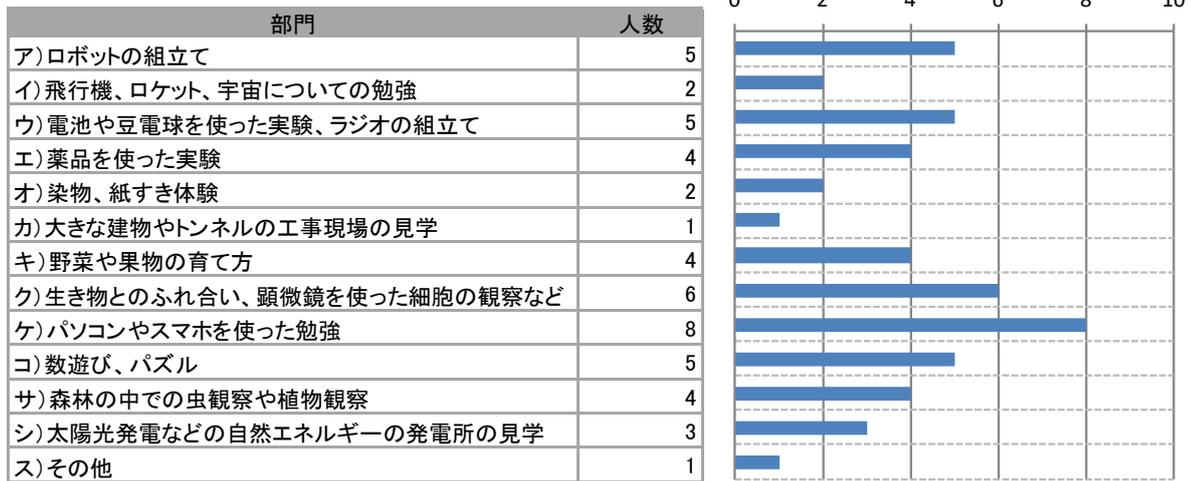
	人数	割合
ア)好き	18	66.7
イ)ふつう	4	14.8
ウ)きらい	0	
合計	22	81.5



理由があればおしえてください。

工作はいろんなものを作れるから 成功したら嬉しいから
 実験が楽しいから
 実験するのがおもしろいから。
 実験が好きだから
 ない

Q6. 今、興味があることや、これから知りたいことを教えてください。(複数回答あり)



車が好き

Q7. 意見や感想、将来の夢など自由に書いてね。

新幹線の運転手
 密度や浮力のことを知れて嬉しかったです。
 とても楽しかったのでまた来てみたいです。
 また来てみたいです。
 電池で同線の中を走るやつがすごいと思いました。
 自由研究でやってみたいです。
 たのしかったです！！
 実験が成功してよかったです！！^^
 夢が広がった。失敗したけど成功したのでよかったです。
 楽しかったです。
 ない
 また来たい。
 すごく楽しかったです。 夢はサッカー選手

裏があるのに気付いていない？ 裏全面白紙 7名

以上

行事名	青年委員会・建設部会合同テクノ
日時	2019年8月18日(日) 13:30~17:00
場所	東京臨海広域防災公園(有明) レクチャールーム2, 3及び館内体験施設
講師、発表者	司会:後藤 講師:パシフィックコンサルタンツ:光安氏、東京大学:鶴岡氏
担当者: (○印:リーダー)	青年委員会:○後藤(記)、河野、臼井、岩部、守田 建設部会:森田氏・大久保氏 パシフィックコンサルタンツ:光安氏・堀口氏・田中氏 東京大学:鶴岡氏 土木学会若手パワーアップ小委員会:小池氏・前田氏
参加者数	■例会参加者:36名(青年OB/OG、青年家族含む) 交流会参加者:9名

1. 背景・目的

私たちの身近なところに存在して、生活を陰から支えてくれている「インフラ施設」の役割を学ぶ他、私たちが暮らしている東京周辺においてもいつ発生するか分からない大地震に遭遇した際のタイムライン防災等について学ぶ。

2. 内容

2. 1. 挨拶・イベント概要説明(13:30~13:40):後藤

イベント会場やイベント実施中における注意事項について説明後、本例会の目的と実施内容について説明を行った。私たちの身近なところに存在するインフラ施設について、カードゲームを使いながら学んでいくことと、万が一大地震に遭遇した際のタイムライン防災について、体験学習を通じて学ぶ全体の流れを説明した。

2. 2. 青年委員会の活動紹介(13:40~13:50):竹内

青年技術士交流委員会の組織編成と統括本部の活動内容について紹介し、毎月の継続研鑽イベント、国際活動、地域本部や各委員会との連携等、幅広く活動していることを説明した。最後に今後の予定について紹介し、また青年イベントに参加していただけるよう宣伝を行った。

2. 3. カードゲームを楽しみながらインフラについて学ぶ(13:50~14:55):光安氏・鶴岡氏

土木学会若手パワーアップ小委員会が企画・製作を行った「ポケドボ」について、カードゲーム製作の背景からその経緯について紹介された。そして、各グループに配置したファシリテーターの誘導によりゲームを行った。その後、事前対策とは何かについて改めて光安氏より説明を行い、事前対策を意識しながら再度カードゲームを行った。最後に、現在開発中のポケドボのアプリ版について、鶴岡氏より概要を説明し、子供を中心にアプリを使いながらゲームを行った。

2. 4. 10月例会の紹介(14:55~15:00):清水

10月に予定している青年イベント「プレゼンの9割は準備で決まる!話し下手の必勝法、初心者編」について、イベント概要の紹介と宣伝を行った。

2. 5. 体験学習を通じてタイムライン防災について学ぶ(15:30~16:50):後藤

東京臨海広域防災公園が企画・提供をしている「東京直下 72h TOUR(80分、ガイド付き)」に参加し、いつ発生してもおかしくない大地震に遭遇した際のタイムライン防災について学ぶ体験学習を行った。体験学習は全体を2班に分けて行い、各班に専属のガイドが付いた。大地震の模擬体験や防災に役立つ知識やグッズの紹介、オペレーションルームの紹介、アニメ映像を通じた学習等を80分間かけて行った。

2. 6. アンケート記入・記念撮影(16:50~17:00):臼井・清水

参加者に外部アンケート用紙の記入をしていただいた後、施設入口の広場において集合写真の撮影を行った。

2. 7. 交流会(18:00~20:00):河野

ゆりかもめ線の青海駅近くにあるヴィーナズフォート 3F の「タントタント」において、懇親会を行った。

3. 成果と所感

3. 1. 例会について

<良かったことなど>

- ・昨年 8 月に実施した「インフラガイドツアー」に引き続き、建設部会の協力による合同イベントを 2 年連続で実施することができた
- ・昨年の「インフラガイドツアー」で多大な協力をいただいた日本大学の阿部先生について、今年は長期海外出張のために参加できないということになり、昨年とは異なる形での合同イベントということで、年度明けより準備に着手した。
- ・7 月下旬に CPD 行事予定表へのアップと同報メールをようやく発信でき、最終的には 40 名近くの方より参加申込みを貰えた。
- ・建コン協の若手メンバーを通じてイベントに参加してくれた方がいた。青年例会以外にも積極的に広報することで新たな繋がりが出来るという発見ができた。
- ・土木学会若手パワーアップ小委員会の協力もあり、「ポケドボ」を通じて子供から大人まで幅広い年齢層にイベントを楽しんで貰うことができた。また、新たな学協会との繋がりができたこと、今後の連携についても話し合えたことが大きく、双方のブログ開催報告に団体名と URL をアップする等、WINWIN の関係ができた。
- ・準備が思うように進まず、当初は開催も危ぶまれたが、粘り強い調整を進めた結果、参加された多数の方より満足したとのアンケート結果をいただき、最終的には大盛会とすることができた。

<課題点>

- ・建設部会と長期間連絡が付かなかったり、打合せ日程も合わなかつたりなどで、実際に準備に着手できたのは 6 月以降であり、2 か月以上の期間を要した。また、その後も連絡が中々つかず、イベント前半の内容を決めることができたのは、イベント開催の 1 か月前だった。
- ・名札を回収するタイミングを決めることを忘れてしまっていたため、イベント終了時に急いで回収する等、バタついてしまった。
- ・施設の閉館時間が 17 時 00 分であることを伺っていなかったため(思い込みによる確認不足)、後半の体験学習の終了時間を少し早める等、緊急の調整が必要となってしまった。
- ・ポケドボのプレゼント対象は、子連れの家族全員と参加者にする等にした方が良かったと後悔した。
- ・ドタキャン者(連絡なしの不参加)が数名いたため、グループ編成や予算に狂いが生じてしまった。また申込み締め切り後のキャンセルによっても参加人数が減ってしまった。

3. 2. 交流会について

<良かったことなど>

- ・例会の施設周辺(徒歩圏内)に捉われず、少し範囲を広げて会場の選定をすることで、良い懇親会場を選定することができた。
- ・料理がとても美味しく、ボリュームもあって良かった。
- ・個室を利用することにより、他団体等の声を気にすることなく、楽しく交流ができた。マイクも使えたため、スピーチをする場も作り易かった。
- ・参加者に一言ずつ話す機会を設けることで、更に交流の輪が広がり盛り上がった。

<課題点>

- ・ドタキャン者が複数いたことにより、予算に狂いが生じた(今回は運よくクーポンも利用したため、300 円程度のマイナスであった。)。徴収する会費については当日の参加人数等によって変動する可能性があることを通知し、固定しない形とする等、今後の案内の仕方や会費の設定の仕方等を工夫する必要があると感じた。
- ・今後は本人から明確な参加の回答がない限り、参加としないルールとするべきだと思う。同報メールでは懇親会参加の欠けに関する連絡を記載した人は、半分くらいであったため、個別に確認するのに時間と労力を要した。

4. 今後の展開

- ・建設部会や土木学会等の新たな学協会とのコラボイベントは、今後も実施を続けていきたい。
- ・次年度は、森田、大久保氏が建設部会研修委員を外れるため、次年度もコラボを検討する場合、後任の方を確認する必要がある。
- ・コラボイベントを通じ、双方にとって WINWIN となるようなものが得られると良い。
- ・有料イベントについては、参加者の把握を慎重に行う必要があると感じた(例えば過去にドタキャンを複数行っている参加者は、参加申込み後に再度確認の返答をもらうようにし、返答が無ければ欠席扱いにするなど)。
- ・今回は幸い無かったものの、家族参加型のイベントについては、子供の急な体調不良等により直前レベルでキャンセルを行う参加者が生じる可能性があることを踏まえての予算組みも必要であるとする。

5. 実施状況





以上

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

技術部門

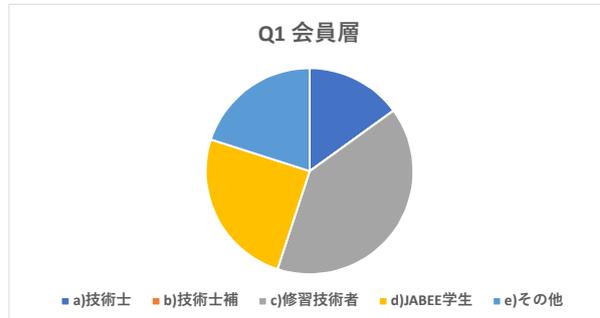
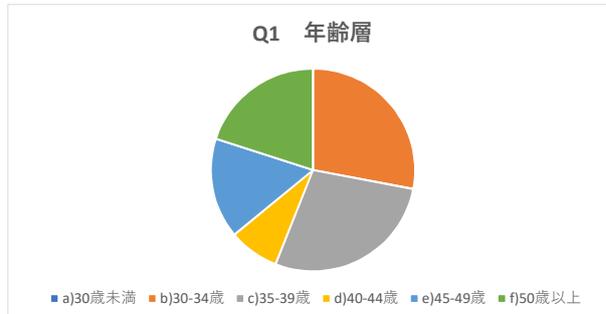
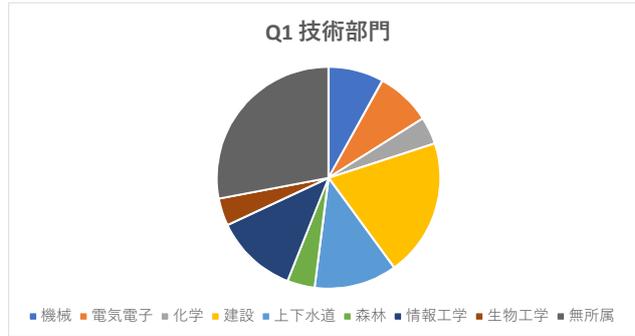
機械	2	衛生工学	0
船舶・海洋	0	農業	0
航空・宇宙	0	森林	1
電気電子	2	水産	0
化学	1	経営工学	0
繊維	0	情報工学	3
金属	0	応用理学	0
資源工学	0	生物工学	1
建設	5	環境	0
上下水道	3	原子力・放射線工学	0
		無所属	7

年齢層

a)30歳未満	0
b)30-34歳	7
c)35-39歳	7
d)40-44歳	2
e)45-49歳	4
f)50歳以上	5

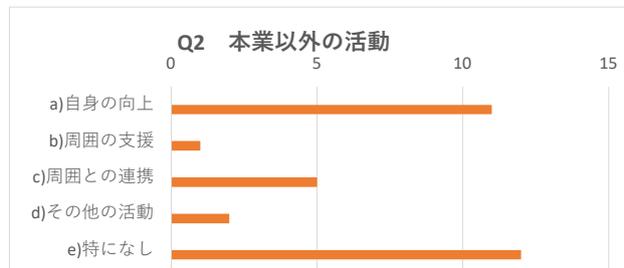
会員層

a)技術士	3
b)技術士補	0
c)修習技術者	8
d)JABEE学生	5
e)その他	4



Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

a)自身の向上	11	資格取得,資格取得、コミュニケーション能力の構築、情報収集
b)周囲の支援	1	
c)周囲との連携	5	NPO活動、講習会
d)その他の活動	2	受験指導、サッカー
e)特になし	12	

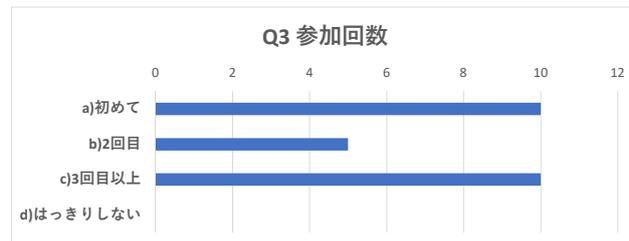


Q3.青年委員会の活動について

参加回数	a)初めて	10
	b)2回目	5
	c)3回目以上	10
	d)はっきりしない	0

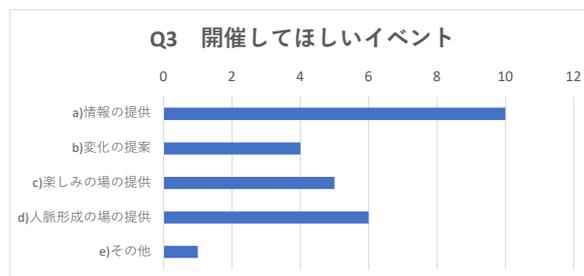
印象深かったテーマ

コミュニケーション
インフラガイドツアー
防災、減災



開催してほしいイベント

a)情報の提供	10	ビジネススキル
b)変化の提案	4	
c)楽しみの場の提供	5	子供参加型のイベント
d)人脈形成の場の提供	6	親子勉強会 国際交流
e)その他	1	子供参加型



Q4. 今回のイベントについて

イベント全体	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	19	6	0	0	0

スタッフの対応	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	18	7	1	0	0

スタッフに伝えたいこと

よく工夫されていたと思います。素晴らしい挑戦ありがとうございます
楽しい企画をありがとうございます。

講演者の発表について

講演内容	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	21	5	0	0	0

発表者への質問、要望等

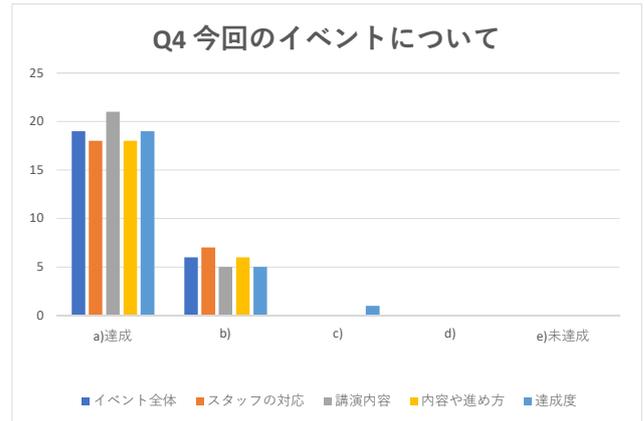
後半の体験型ツアーについて

内容や進め方

	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	18	6	2	0	0

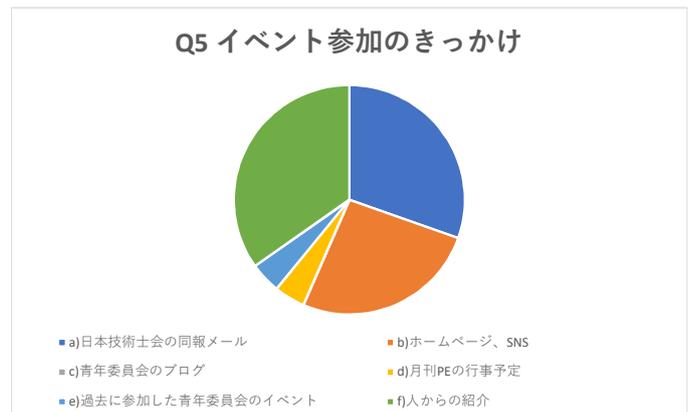
講師にお伝えしたいこと

とても楽しく参加できました
すぐ聞きやすかった
わかりやすい説明をありがとうございました。ポケドが面白かったです。
分かりやすかったです。ありがとうございました



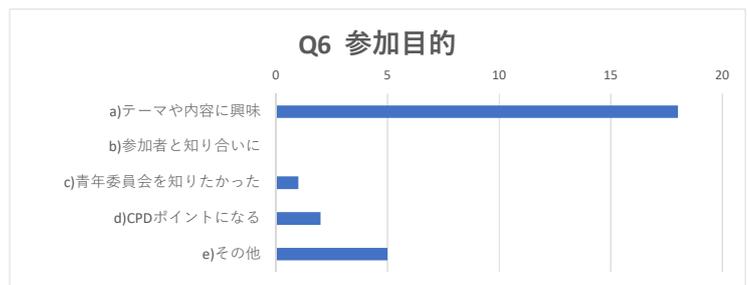
Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a)日本技術士会の同報メール	7
b)ホームページ、SNS	6
c)青年委員会のブログ	0
d)月刊PEの行事予定	1
e)過去に参加した青年委員会のイベント	1
f)人からの紹介	8
g)その他	0



Q6. 参加の目的と達成度について

目的	a)テーマや内容に興味	18
	b)参加者と知り合いに	0
	c)青年委員会を知りたかった	1
	d)CPDポイントになる	2
	e)その他	5



達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	19	5	1	1	0

※達成度は、本ページ一番上のグラフに統合

行事名	「みんなを知ろう！」
日時	令和元年9月21日(土)13:00~17:00
場所	機械振興会館 6階 6D-4号室
講師、発表者	講師:なし 発表者:参加者全員
担当者: (○印:リーダー)	○小塚、山本
参加者数	19名

1. 背景・目的

- ・ 青年メンバーの自己紹介をとおり、各自の専門領域を共有する。
- ・ 新体制における青年メンバー間の親睦を深める。

2. 内容

2-1. スケジュール

12:00~13:00	会場セッティング・プレゼン順番決め
13:00~13:05	概要説明
13:05~14:55	自己紹介プレゼン-1
14:55~15:05	休憩
15:05~16:35	自己紹介プレゼン-2
16:35~16:45	休憩・アンケート集計
16:45~16:50	委員長講評
16:50~17:00	片付け
17:30~	懇親会

2-2. プレゼン内容

- ・ プレゼンテーション方法は自由
- ・ プレゼンテーション時間は10分/人
プレゼン5分、質疑応答3分、入替2分
- ・ パワーポイントなどを使用する場合、形式は自由
- ・ 発表順は立候補制とし、休憩時間にホワイトボードに記入してもらう。
- ・ 以下を含めること
 - 自分をよく示す写真1枚
 - 参加者や技術士会に対してどう貢献したいか所信表明、動機づけ
 - 所属部門、技術士資格取得の動機
 - 経歴、現在の業務内容(話せる範囲で)
 - 趣味
 - 技術士資格をどのように活用するか
 - 青年委員で活躍できそうなスキルは??

3. 成果と所感

3-1. 成果

各自の専門領域を共有と青年メンバーの親睦を深めることを目的としておりましたが、これらについては達成できたと感じております。

3-2. 所感

- ・新体制となって初めての内部企画だったので、メンバー同士の親睦が強くなったと感じました。これから先のイベントに向けて、全員で一致団結していけると確信しました。
- ・アンケートにありました、メモシートの活用について、もう少し簡単？？使いやすいように工夫が必要だと感じました。(時間を考えるか、様式を考えるか…)
- ・本例会を実施するにあたり、担当を頂いた山本さんをはじめ、みなさま、色々ありがとうございました。

以上
文責 小塚

【添付資料 1:例会状況】



写真 1 発表順番記入



写真 2 例会写真撮影



写真 3 自己紹介(竹内さん)



写真 4 自己紹介(臼井さん)



写真 5 自己紹介(後藤さん)



写真 6 例会写真



写真 7 例会後の集合写真



写真 8 懇親会

行事名	10月例会:プレゼンの9割は準備で決まる 話下手の必勝法 初心者編
日時	2019年10月19日(土) 13:30-17:30
場所	機械振興会館 6-66 会議室
講師	清水委員補佐 吉岡委員
担当者: (○印:リーダー)	佐藤委員、高木委員、守田委員、吉岡委員、○清水委員補佐
参加者数	参加者:29名

1. 背景・目的

業務や技術士会活動の中で避けては通れない、プレゼンテーション。
しかし、プレゼンテーションについては見様見真似で行っているだけで、正しい手法を学んだことがある方も少ないかと思われる。
そこで、初心者向けに“正しく”、“効果的に”伝えるをキーワードに例会を実施した。

2. 例会内容

2. 1. ストーリー作成方法:清水委員補佐

プレゼンを準備する際、一番大切になるストーリーの作り方を解説した。
ただ、いきなり作るのではなく、そもそもプレゼンをする目的の設定の仕方やプレゼンをする環境の分析をしたうえでのストーリー作成方法を説明した。

2. 2. 高橋メソッド:吉岡委員

吉岡委員より、高橋メソッドについて講義した。
高橋メソッドは使う場を選ぶものの、使った時のインパクトが強く、効果的なプレゼンをするのに有効である。情報工学分野では知名度が高い反面、その他の分野では、知名度が低いことが多いため、多くの人に知ってもらうために説明した。
また、休憩明けの再オープニングとしての効果も狙い、このタイミングにした。

2. 3. スライド作成方法:清水委員補佐

見やすく、伝わるスライド作成に必要な考え方やテクニックについて講義した。

2. 4. デリバリー技術:清水委員補佐

プレゼンの主役はプレゼンターであるという原則のもと、いかに話引き込み、要点を強調することができるか講義した。

2. 5. プレゼン大会:参加者全員

出身地をテーマに6グループに分かれて、スライド無のプレゼンを行ってもらった。
グループ内で点数をつけてもらい、各グループの代表者には、全参加者の前で、お手本としてプレゼンをしてもらった。

2. 6. 講評:竹内委員長

竹内委員長より講評をおこなった。
参加者へ練習の大切さを改めて実感してもらえる講評となっており、講義の内容をより強調させることができた。

2. 7. 青年紹介:吉岡委員

吉岡委員より青年の紹介を行った。

2. 8. 11月例会広報:佐藤委員

佐藤委員より11月例会の広報を行った。

2. 9. 懇親会(17:00~19:00):

参加者及び青年スタッフで懇親会を行った。

3. 成果と所感

プレゼン初心者を対象に例会を準備したものの、参加者の要求レベルが高かった。
参加費を徴収するため、参加費や拘束時間に見合った内容の例会を準備する必要があると感じた。

また、アウトプットの時間を多くとることにより、参加者の満足度の高い例会となった。

4. 今後の展開

プレゼンは目的や状況によって、使えるテクニックや考え方が変わってくる。

今回は、どのような状況でも共通する汎用的な内容として例会を行った。

今後、プレゼン例会を行うとすれば、それぞれの状況ごとにフォーカスを絞った例会にしていければと思う。

5. 実施状況



講義



高橋メソッド



グループ内発表



全体発表



集合写真



懇親会

以上

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

技術部門			
機械	4	衛生工学	0
船舶・海洋	0	農業	1
航空・宇宙	0	森林	0
電気電子	7	水産	0
化学	3	経営工学	1
繊維	0	情報工学	3
金属	0	応用理学	1
資源工学	0	生物工学	0
建設	5	環境	2
上下水道	0	原子力・放射線	0

年齢層	
a)30歳未満	2
b)30-34歳	2
c)35-39歳	7
d)40-44歳	4
e)45-49歳	5
f)50歳以上	5

会員層	
a)技術士	10
b)技術士補	3
c)修習技術者	12
d)JABEE学生	0
e)その他	1

Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

a)自身の向上	20	資格取得、CPD稼ぎ、iNARTE
b)周囲の支援	3	パソコン活用のクラブ、信用金庫の無料相談会
c)周囲との連携	3	国際交流、大学技術士会
d)その他の活動	4	
e)特になし	4	

Q3.青年委員会の活動について

参加回数	a)初めて	12
	b)2回目	3
	c)3回目以上	10
	d)はっきりしない	1

印象深かったテーマ

キリンビール工場見学
コミュニケーションスキル
プレゼン,英語イベント
新合格者研修,ディベート

開催してほしいイベント

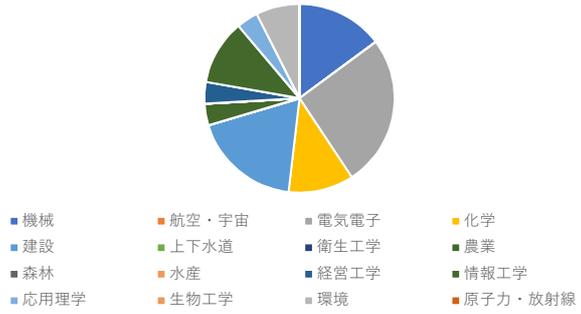
a)情報の提供	12	講演会
b)変化の提案	6	コミュニケーション能力
c)楽しみの場の提供	7	語学関係、懇親会、
d)人脈形成の場の提供	9	
e)その他	1	遊園地のバックヤードの見学

その他のご希望

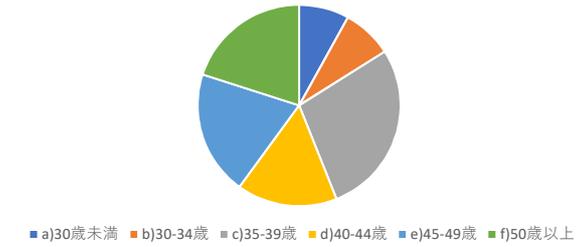
参加者がもっと増えるといい

2019.11.17 白井

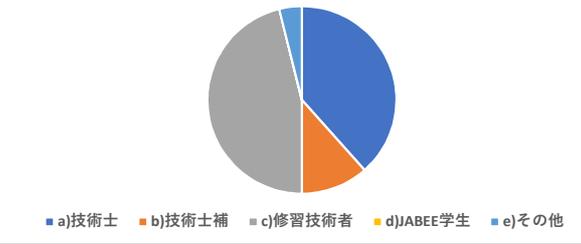
Q1 技術部門



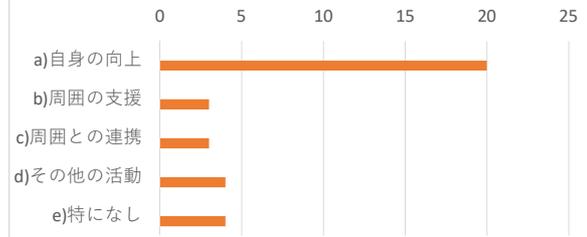
Q1 年齢層



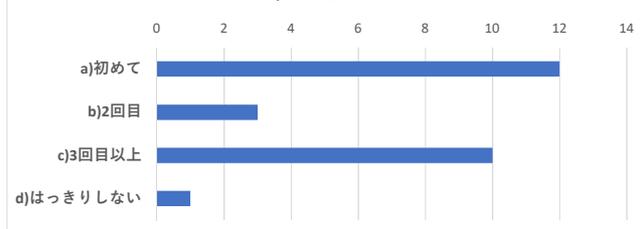
Q1 会員層



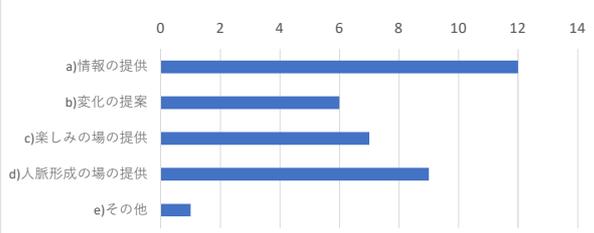
Q2 本業以外の活動



Q3 参加回数

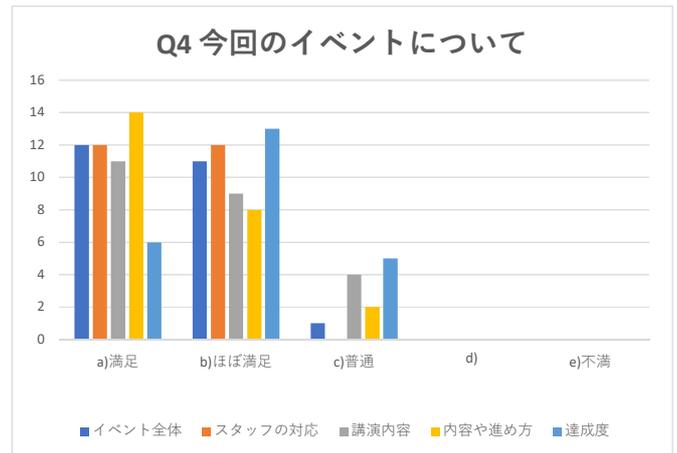


Q3 開催してほしいイベント



Q4.今回のイベントについて

イベント全体	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	12	11	1	0	0
スタッフの対応	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	12	12	0	0	0
講演者の発表について					
講演内容	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	11	9	4	0	0
内容や進め方					
内容や進め方	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	14	8	2	0	0



講師にお伝えしたいこと

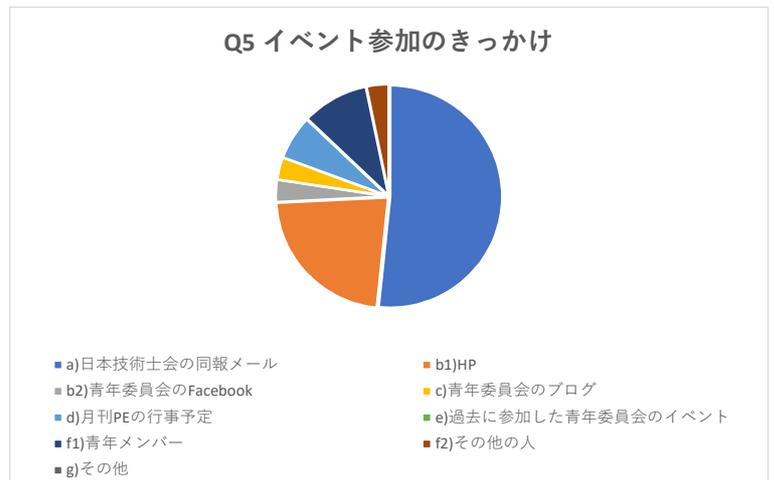
苦手からのスタートということで共感できる内容でした。
 わかりやすい説明でした
 興味深く楽しかったです。
 セミナーとプレゼンの違いを最初に提示してもらえたら親切だった
 資料に時間を多くかけるより、もっと話し方に時間をかけているように思えてよかった

スタッフに伝えたいこと

スムーズな運営ありがとうございます。
 室内が暑かった

Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a)日本技術士会の同報メール	16
b1)HP	7
b2)青年委員会のFacebook	1
c)青年委員会のブログ	1
d)月刊PEの行事予定	2
e)過去に参加した青年委員会のイベント	0
f1)青年メンバー	3
f2)その他の人	1
g)その他	0

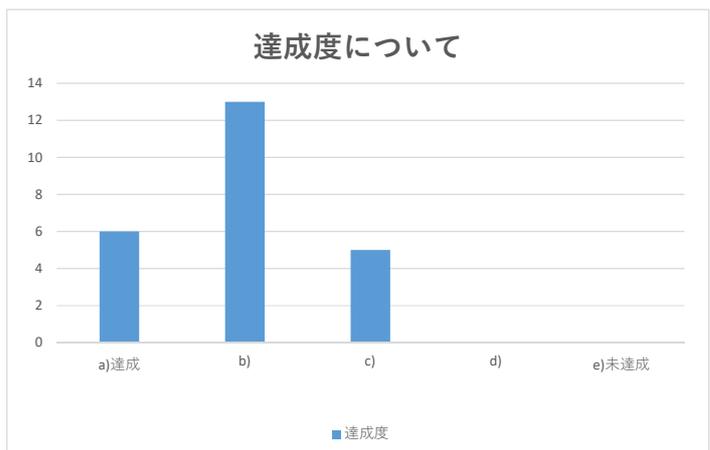


Q6.参加の目的と達成度について

目的	回数
a)テーマや内容に興味	21
b)参加者と知り合いに	7
c)青年委員会を知りたかった	3
d)CPDポイントになる	1
e)その他	0



達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	6	13	5	0	0



行事名	11月例会:明日から仕事が楽しくなる! エンジニアのためのコミュニケーション講座
日時	2019年11月17日(日) 13:30-17:30
場所	機械振興会館 研修-2
講師	亀山 雅司氏 及び そのスタッフ6名
担当者: (○印:リーダー)	○佐藤委員、山本委員補佐、竹内委員長、守田委員、清水委員補佐
参加者数	参加者:44名

1. 背景・目的

技術士に求められる資質能力(技術士 PC)項目 5. コミュニケーションの継続研鑽の場を提供することを目的に実施。

技術者が陥りやすいコミュニケーションの問題に気が付き、話し方や伝え方を変えるための講座及びグループワークを行った。

2. 例会内容

2. 1. 講義及びグループワーク: 亀山講師

講師による講義、アンケート(挙手方式)、グループワーク、及び講師側スタッフによる寸劇などを実施した。青年スタッフも、作業のないメンバは講義やグループワークに参加した。

講義の内容としては、技術士の現実を知り、各自の人生設計について考えるところから開始して、コミュニケーションの基本や、エンジニアが「正しいことにこだわる」ことによりコミュニケーション上の問題が発生することを理解したうえで、何が目的でコミュニケーションを行うのかを認識して話すことを学んだ。

2. 2. 講評: 守田副委員長

守田副委員長より講評をおこなった。

講評を受けて講師より追加のコメントもあり、講義及びグループワークの内容をさらに反芻することができる講評となった。

2. 3. 青年紹介: 鈴木委員

鈴木委員より青年の紹介を行った。

2. 4. 12月例会広報: 杉山委員補佐

杉山委員補佐より12月例会の広報を行った。

2. 5. 懇親会(17:30~19:30):

講師、講師のスタッフ、参加者及び青年スタッフで懇親会を行った。

3. 成果と所感

日曜日にもかかわらず多数の参加があり、講義やグループワークに主体的に参加する参加者が非常に多く見られ、繰り返し実施しているテーマであっても技術士の多くがコミュニケーションに課題を感じていると認識できた。多くの参加者から満足した声が聞かれたほか、懇親会でも講師よりさらに学びを得ようとする参加者も多くみられ、充実した例会となった。

4. 今後の展開

外部講師による講演は青年委員会としては久しぶりであり、また、日曜日の機械振興会館での開催も久しぶりであったことにより、いくつか講師との連絡や会場誘導などに課題が残った。ただし、準備段階から講師と青年スタッフによる明確な役割分担を行うことで、短期間かつ省力化した対応ができたので、今後は今回の課題に対する改善策を検討したうえで、積極的に外部講師を活用してもよいと考える。

5. 実施状況



亀山講師



ハートビート



グループワーク



講師側スタッフによる寸劇



集合写真



懇親会

以上

Q1.あなた自身についてご記入ください。

技術部門

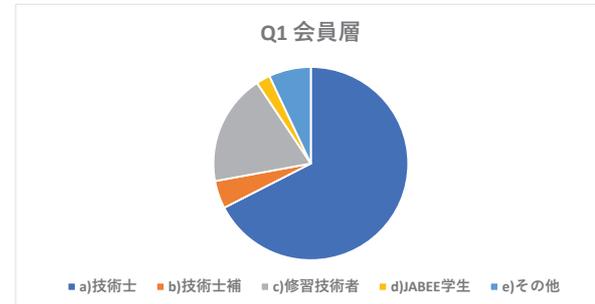
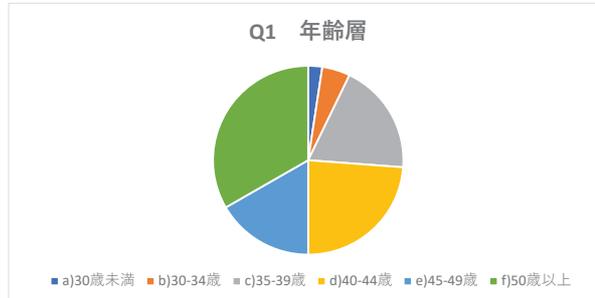
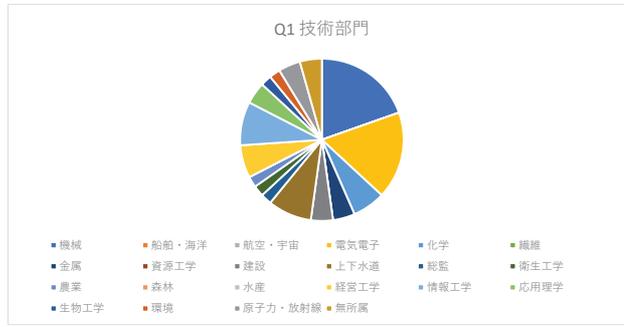
機械	9	衛生工学	1
船舶・海洋	0	農業	1
航空・宇宙	0	森林	0
電気電子	8	水産	0
化学	3	経営工学	3
繊維	0	情報工学	4
金属	2	応用理学	2
資源工学	0	生物工学	1
建設	2	環境	1
上下水道	4	原子力・放射線	2
総監	1	無所属	2

年齢層

a)30歳未満	1
b)30-34歳	2
c)35-39歳	8
d)40-44歳	10
e)45-49歳	7
f)50歳以上	14

会員層

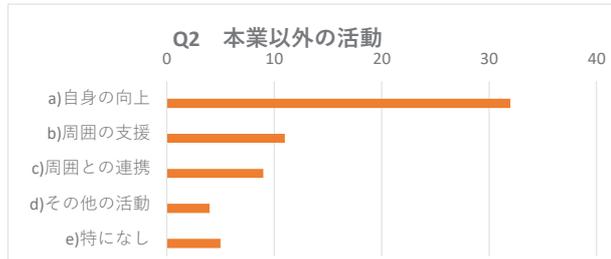
a)技術士	29
b)技術士補	2
c)修習技術者	8
d)JABEE学生	1
e)その他	3



Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

a)自身の向上	32
b)周囲の支援	11
c)周囲との連携	9
d)その他の活動	4
e)特になし	5

資格取得×6	学協会との交流
職場の英語研修	学会支援
セミナー参加×3	交流会
社内技術士会活動×2	SNS
大学講師	環境カウンセラー
二次試験	OJT
資格取得の支援	総監受験×2
SNSでの発信(土木)	クリーンエネルギーへの投資
TOEIC×2	原子力学会の技術士試験支援のWG
研究発表	技術の確認のための資格取得
部会活動	まちづくりNPOでの活動
工業英検	技術士CPD



Q3.青年委員会の活動について

参加回数 a)初めて	15
b)2回目	8
c)3回目以上	16
d)はっきりしない	3

印象深かったテーマ

インフラ見学	合格者歓迎会×2
CAFEO	亀山先生の講義
見学会	コミュニケーション×3
ディベート×3	ワークショップ
講演会	英語×3

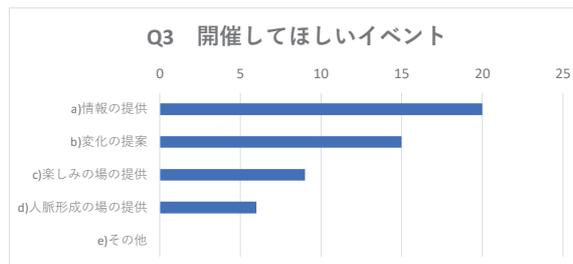
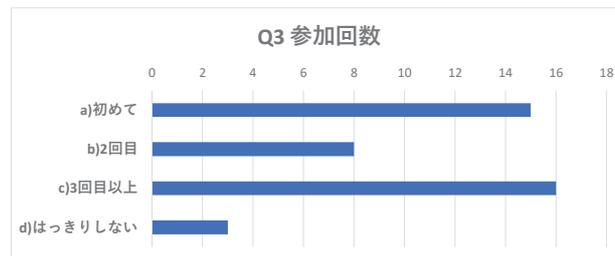
開催してほしいイベント

a)情報の提供	20
b)変化の提案	15
c)楽しみの場の提供	9
d)人脈形成の場の提供	6
e)その他	0

特許分析	講演会
官民連携	工場見学
遊園地、動物園等々のレジャーランド	のバックヤードツアー
技術者倫理	現場見学会
駅近くでの懇親会	テーマごとの交流会
異業種との懇親会	スポーツイベント
人間関係改善	

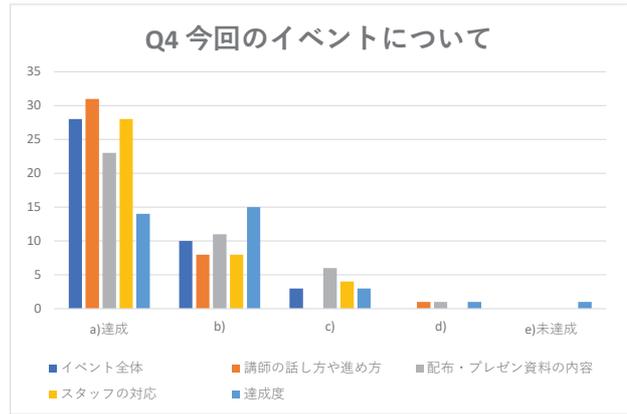
その他のご希望

広告に開催日を追加してほしい。
土日開催で
可能であれば翌日が休みの日に実施してほしいです。
青年委員会については以前から興味はあったが、年齢が気になって参加できずにいました。共産化できてよかったです。



Q4.今回のイベントについて

イベント全体	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	28	10	3	0	0
講師の話し方や進め方	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	31	8	#REF!	1	0
配布・プレゼン資料の内容	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	23	11	6	1	0
スタッフの対応	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	28	8	4	0	0



講師にお伝えしたいこと

<p>ありがとうございました。×2 あの娘が笑顔にする。 話の内容が頭に入りやすかったです。 印象に残る講義、ありがとうございました。 とても楽しくお話しを聞くことができました。 講師のアンケートで5以外に○をつけた人はセミナーの趣旨に反することになりますよね。 とても楽しく、ためになりました。お話しありがとうございます。</p>	<p>ありがとうございました。勉強になりました。 本を読むだけでは得られない体験ができました。 本を読んで、理解を深めようと思います。ありがとうございます。 自分で研究している内容と所々リンクしていて興味深かったです。 店員さんを笑顔にすること、周囲への承認(fact)など実践していきたいと思っています。</p>
--	---

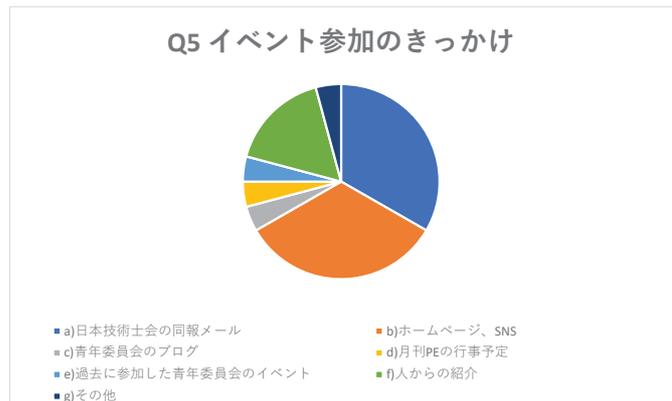
スタッフに伝えたいこと

<p>今回のイベント とても楽しく勉強になりました。ありがとうございます。 休日にお疲れ様です。ありがとうございました。 お疲れ様でした。 それ、すごいですね。 高齢者を受け入れていただき、ありがとうございました。 素晴らしい企画ありがとうございました。</p>	<p>休日にかかわらず、素晴らしい研修をありがとうございました。 準備お疲れ様でした。 いつもありがとうございます。そのボランティア精神見習います。 演技に魂込めないと。 ありがとうございました。</p>
---	--

Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a)日本技術士会の同報メール	16
b)ホームページ、SNS	16
c)青年委員会のブログ	2
d)月刊PEの行事予定	2
e)過去に参加した青年委員会のイベント	2
f)人からの紹介	8
g)その他	2

会内研修
青年のオブザーバとして



Q6.参加の目的と達成度について

目的 a)テーマや内容に興味	32
b)参加者と知り合いに	1
c)青年委員会を知りたかった	2
d)CPDポイントになる	2
e)その他	1

亀山先生の催しに参加したかったから。



達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	14	15	3	1	1

※達成度は、本ページ一番上のグラフに統合

行事名	12月例会:ディベートを知らう!
日時	2019年12月21日(土)
場所	械振興会館 6D-3 会議室
講師、発表者	-
担当者: (○印:リーダー)	○杉山委員補佐、守田委員、臼井委員、
参加者数	8名

1 背景・目的

技術士に求められる資質能力(技術士PC)の内、以下の継続研鑽を目的にディベートを企画した。

2. 問題解決
4. 評価
5. コミュニケーション

2 例会内容

2.1 例会担当挨拶(13:30~13:32):杉山委員補佐

杉山委員補佐より、本例会の趣旨及び論題選定の理由説明を行った。

ディベートは3種類の論題があるが、今回は価値論題としテーマは、技術士もしくは、技術士を目指している人にとって、各自の経験や知識等から必要な情報を短時間で収集・共有しやすく、各自の経験等から立論、反論、反駁等を考えやすいと考え、「技術士二次試験の資格要件の実務経験年数(4年)は妥当である」としたことを説明した。

2.2 青年委員会の紹介(13:33~13:35):高瀬委員補佐

高瀬委員補佐より、本例会の主催する青年委員会の紹介を行った。

2.3 ディベート説明(13:35~14:05):守田委員

守田委員より、ディベート説明を行った。

「バナナはおやつ(300円まで)に入れるべきである!」を例にあげ、ディベートの流れを説明した。立論、質疑、反論、反駁の各パートの説明をする際に、どのような論点や応答が考えられるか、参加者に意見を挙げてもらいながら進めた。

2.4 グループワーク(14:10~15:00):参加者

試合に向けて作戦会議を行った。

参加者が8名であったため、2人チームを4つ作り、論題に対する理念、論点、理由付け、反論プラン、時間を区切りながら肯定、否定の両観点について、各自で作成した上で、反駁プランや試合運びについてチームで検討した。

2.5 試合(15:20~17:15):参加者、守田委員(司会)

試合前に、各チームに対し肯定派、否定派を決めるくじ引きを行った。

ディベートは本戦40分、ジャッジ15分の時間割で、2試合を実施した。

ディベート経験者を第一試合へ割り当て、試合に参加していない参加者にジャッジ役として、評価基準を記載した採点表をもとに点数付けをもらい、各自に勝敗と理由を説明してもらった。

2.6 講評、閉会の言葉(17:15~17:25)

ディベートの内容についての講評を臼井委員、全体講評を杉山委員補佐、閉会の言葉を竹内委員長が行った。

2.7 2020年1月例会の紹介(17:25~17:30)

水柿委員より、来月の例会について紹介し、参加者を募集した。

2.8 意見交換会(18:00~20:00)

参加者4名と青年スタッフで本例会の意見交換会を「ねじべえ大門口」で行った。

3 成果と所感

昨年の課題であった「初心者への説明不足・不理解による試合の不成立」「参加者・担当者の事前リサーチの負担軽減」については、今年は、以下の解決策を講じ、一定の成果が得られたと感じる。

- ・ ディベートの流れを説明する際、ビデオを用いた説明を止めて、簡単な例を用いて参加者と一緒にディベートのデモを進めた。合わせて、ディベート経験者に第一試合で手本を示したことで、初心者による第二試合は、スムーズな試合運びと感じられた。
- ・ 昨年は、例会担当者が事前に論題に対する参考資料を収集し、まとめた資料を作成して参加者へ提供していたが、大半の参加者が目を通せていない傾向が見られたため、今回は参加者の人生経験・知識をもとに議論できる技術士に関連する価値論題のテーマとしたことで、担当者・参加者双方の負担が軽減できた。

あわせて、政策論題においてはジャッジにも事前学習やディベートの経験値が重要となるが、今回は価値論題をテーマに参加者の価値観をもとにジャッジを行ったため、担当者の負担を軽減しつつ、参加者の目的達成・納得感が得られたと考える。

昨年のディベート例会経験者の臼井委員に、各試合のジャッジ後にコメントをしていただき、参加者だけでは判断が難しい点や良かった点や次回に向けての改善点について補うことができたと思う。

4 今後の展開

今回は、参加者にとって、事前に資料配付等を行わず、当日までの負担を最小限にしたディベートを行ったが、本来は証拠作成、データ収集等の事前準備が重要と考える。そこで、ディベート開催月の前月に、リサーチ(情報検索等)に関する例会を実施し、その成果をディベートで活用するという手段も一つであると考えたため、今後の企画で提案していく。

5 実施状況



ディベート説明時に参加者を巻き込む守田委員



ディベート経験者によるディベート第一試合



試合後お互いを称え合う肯定派・否定派



第一試合を踏まえた、ディベート第二試合



青年が誇る名司会 守田委員
青年が誇るブックマン 白井委員



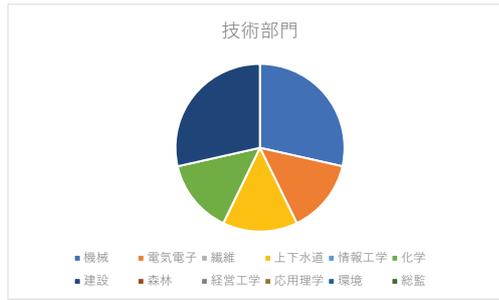
2019 年例会最後の集合写真

以上

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

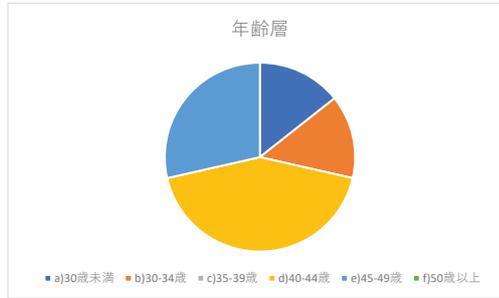
技術部門

機械	2	船舶海洋航空宇宙	
電気電子	1	化学	1
繊維		金属	
資源工学		建設	2
上下水道	1	衛生工学	
農業		森林	
水産		経営工学	
情報工学		応用理学	
生物工学		環境	
原子力放射線		総監	



年齢層

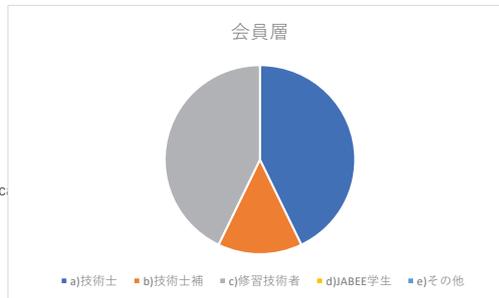
a)30歳未満	1
b)30-34歳	1
c)35-39歳	
d)40-44歳	3
e)45-49歳	2
f)50歳以上	



会員層

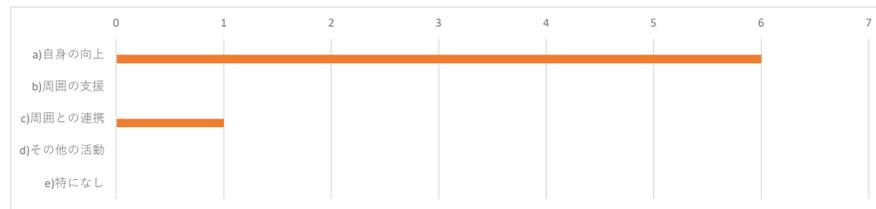
a)技術士	3
b)技術士補	1
c)修習技術者	3
d)JABEE学生	
e)その他	

PE(mechanic)



Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

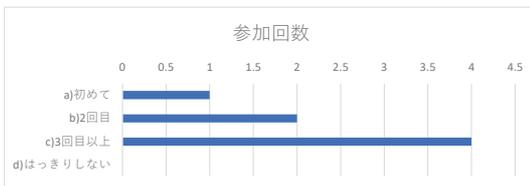
a)自身の向上	6	語学力の向上、学会での発表、資格取得、理科教室、交流会、知財検定2級、3DCAD・プリンター
b)周囲の支援		
c)周囲との連携	1	
d)その他の活動		
e)特になし		



Q3.青年委員会の活動について

参加回数

a)初めて	1
b)2回目	2
c)3回目以上	4
d)はっきりしない	



印象深かったテーマ

英語、技術者のコミュニケーション

開催してほしいイベント

a)情報の提供	3	講演会、見学会
b)変化の提案	2	
c)楽しみの場の提供	2	
d)人脈形成の場の提供	2	
e)その他		

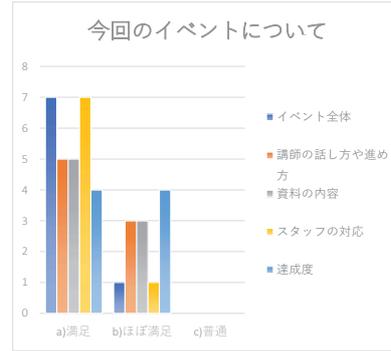


その他ご希望

平日でも構わないので、見学会を実施して欲しい

Q4.今回のイベントについて

	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)やや不満	e)不満
イベント全体	7	1	0	0	0
講師の話し方や進め方	5	3	0	0	0
資料の内容	5	3	0	0	0
スタッフの対応	7	1	0	0	0



講師に伝えたいこと

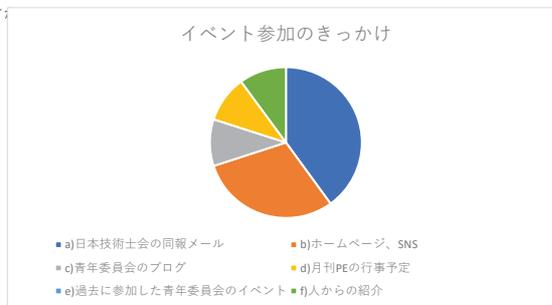
初めてですが楽しかったです。
 ディベートのルールについても少し学びたかった
 短くても良いのでデモンストレーションをして欲しい
 疲れました

スタッフ伝えたいこと

疲れました

Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a)日本技術士会の同報メール	4
b)ホームページ、SNS	3
c)青年委員会のブログ	1
d)月刊PEの行事予定	1
e)過去に参加した青年委員会のイベント	0
f)人からの紹介	1
g)その他	1



Q6.参加の目的と達成度について

目的	a)テーマや内容に興味	8
	b)参加者と知り合いに	2
	c)青年委員会を知りたかった	3
	d)CPDポイントになる	3
	e)その他	0



達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	4	4	0	0	0

※達成度は、本ページ一番上のグラフに統合

行事名	1月例会:グローバルエンジニアを目指して!
日時	2020年1月18日(土)
場所	械振興会館 6D-1、6D-2 会議室
講師、発表者	坂井国際委員、境研修委員長、松田氏、竹内委員、河野委員、高木委員
担当者: (○印:リーダー)	○水柿委員、田中雅人委員、吉浦委員、竹内委員、河野委員、高木委員、大藺委員
参加者数	42名 (講演者・パネリスト除く)

1 背景・目的

- ①青年技術士交流委員会における国際交流活動の紹介や、有識者によるパネル討論、参加者全員でのワークショップを通じ、青年委員会による国際交流活動の内容を日本技術士会に周知することを目的とし、ひいては予算の確保、国際交流活動の機会の確保を狙う。
- ②本例会では、参加者にとって、技術者としての国際交流活動を行うきっかけ作りとしたい。講演やパネルディスカッション、グループワークを通して、今後、グローバルエンジニアになるための自己研鑽手法について考えてもらうことを第2の目的とする。同時に、将来、共に国際交流活動を行う青年仲間の拡充を図る。

2 例会内容

2.1 例会担当より確認事項、タイムスケジュールの説明(13:30~13:40):水柿委員

水柿委員より、確認事項、本例会のテーマおよびタイムスケジュールの説明を行った。

2.2 青年委員長による挨拶(13:40~13:45):竹内委員長

竹内委員長より、本例会のテーマと目的を伝えていただき、開催の挨拶とした。

2.3 第一部 講演(13:45~14:35):講演者5名<司会:水柿委員>

下記、講演者(題目)による講演を実施した。

講演① 坂井国際委員長(グローバル人材に求められる資質)

講演② 高木委員(CAFEO/YAFEO 参加報告)

講演③ 竹内委員長(香港/FEIAP 参加報告)

講演④ 河野委員(WEC/日豪交流 参加報告)

講演⑤ 境研修委員長(資源工学から見えてきた SDGs)

2.4 第二部 パネルディスカッション(14:55~15:40):パネリスト6名<モデレーター:水柿委員>

パネリストは、第一部の講演者5名に、青年委員OBの松田みゆき氏を加えた計6名とした。パネルディスカッションでは、以下のテーマをもとに、パネリストに意見・見解等をいただいた。

テーマ①:グローバルエンジニアとは?(パネリスト全員が回答)

テーマ②:技術者として、どのように研鑽を積んだらよいのか(坂井委員長、境委員長が回答)

テーマ③:今後、技術者としてどのような形で国際交流を進めていきたいか(パネリスト全員が回答)

なお、上記のテーマ②では、パネリスト同士の自由討論の場を設けた。自由討論では、高木委員、竹内委員長、河野委員が、坂井委員長および境委員長に質問や意見を行い、回答をいただいた。最後に、参加者からの質問を受け付けた。1名の参加者から意見をいただきパネルディスカッションを終了した。

2.5 第三部 グループワーク(15:50~17:05):参加者全員<モデレーター:田中雅人委員>

グループワークは、1班 5~6名で実施した。グループワークのテーマは、「Young Engineers Exchange を日本で開催!」とし、日本で青年技術者国際交流フォーラムを行うなら、どんな

イベントにするかについて、各班で討論し、一つの企画を作成した。

まずは、各自、自己紹介を1分程度で行った後、各班で、リーダーと発表者を決めた。つづいて、以下(1)~(4)の流れでグループワークを進行した。

- (1) 【目的】 なんのためにやる？その理由は？ (10分)
- (2) 【手段】 どんなイベントを実施する？ (10分)
- (3) 【目的の追求】 目的を達成するためのひと工夫 (10分)
- (4) まとめ、グループワークシートへの記載 (10分)

上記終了後、それぞれの企画について班ごとに発表を行った。(発表時間：3分間)

2.6 講評(17:05~17:15):坂井国際委員長、境研修委員長

グループワークの発表内容について、坂井国際委員長および境研修委員長から講評をいただいた。

2.7 総括(17:15~17:20):竹内委員長

竹内委員長より、本例会全体の総括をいただいた。また、日本技術士会の岩熊副会長をご紹介いただいた。

2.8 懇親会(17:40~19:40)

例会と同じ部屋で、ケータリングサービスを利用した懇親会を実施した。懇親会には、参加者、両委員長に加え、岩熊副会長も参加された。

3 成果と所感

本例会の目的とテーマについて、準備段階から何度も打ち合わせを行い、方向性を明確にすることにより、例会全体としての一体感が強まったと感じた。

第一部の講演、第二部のパネルディスカッションでは、講演者やパネリストが実際に行ってきた国際交流の貴重な体験を聞くことが出来たものと思われる。その後のグループワークでは、これまでの内容を参加者各自でかみ砕き、グローバルエンジニアとして、どのような企画を立ち上げることが望まれるかの意見を出し合い、グループごとに一つの企画をまとめあげた。各グループの発表は、先着順としたが、すぐに手が上がり、それぞれ熱の入った素晴らしい発表をしていただいた。

良かった点として、講演者・パネリストの方々が、型通りの報告ではなく、国際活動で実際に苦労した経験談などを話していただいたことで、これから国際交流を行っていきたいと考えている参加者が刺激を受け、今後、グローバルエンジニアとしての第一歩を踏み出すためのきっかけづくりとして貢献できたものとする。

反省点として、時間の関係もあり、参加者と講演者・パネリスト間での意見交換の場を持つことが出来なかったことが悔やまれた。

なお、本例会の目的として、①日本技術士会へのアプローチ及び②参加者への国際交流へのきっかけづくりを設定したが、①②の両方とも、一定の成果があったものとする。

4 今後の展開

今回のような国際交流に関する例会は、今後も継続して実施していきたいと考えている。なお、本例会終了後に開催された研修委員会において、研修委員から後押し等サポートをするので、青年委員会主催で若手技術者国際交流イベントを進めてもらいたい旨の要望があった。今後は、研修委員会、国際委員会、技術士会本部とも情報共有しつつ、青年委員会としての国際交流活動を更に推進していく予定である。

5 実施状況写真



竹内委員長より例会開催の挨拶



坂井国際委員長による講演



高木委員による講演



境研修委員長による講演



パネルディスカッション



グループワーク



グループワーク（発表）



懇親会

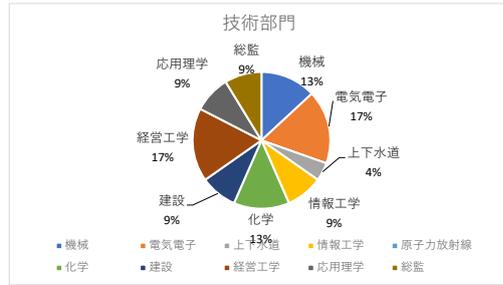
以上

2020年1月例会アンケート集計 (1/2)

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

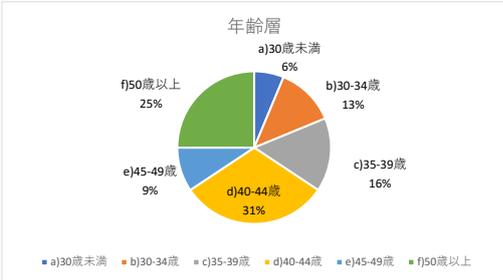
技術部門

機械	3	船舶海洋航	1
電気電子	4	化学	3
繊維	2	金属	4
資源工学	0	建設	2
上下水道	1	衛生工学	0
農業	2	森林	0
水産	0	経営工学	4
情報工学	2	応用理学	2
生物工学	0	環境	0
原子力放射線	0	総監	2



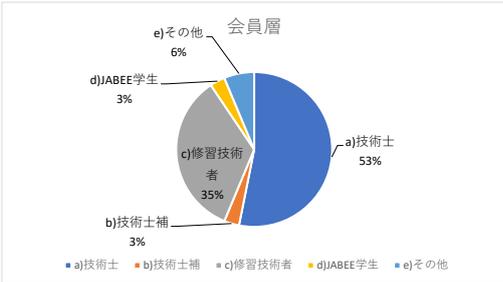
年齢層

a)30歳未満	2
b)30-34歳	4
c)35-39歳	5
d)40-44歳	10
e)45-49歳	3
f)50歳以上	8



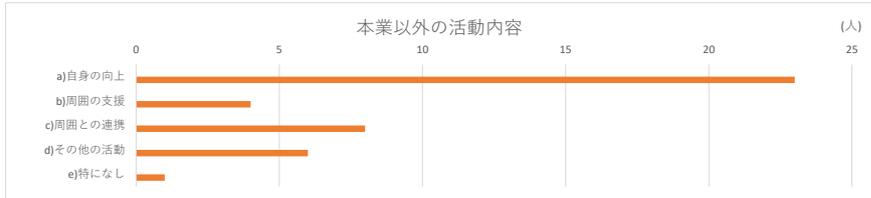
会員層

a)技術士	17
b)技術士補	1
c)修習技術者	11
d)JABEE学生	1
e)その他	2



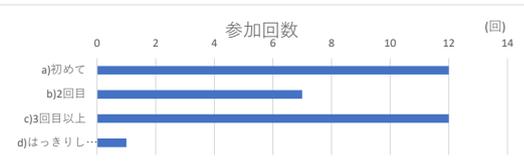
Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなされていますか。

a)自身の向上	23	例会参加、資格取得、TOEIC、英語力向上
b)周囲の支援	4	技術士受験者講師、企業開発支援
c)周囲との連携	8	地域貢献、YES-Metals、国連フォーラムオフ会、シンポジウム講師、大学技術士会
d)その他の活動	6	国際ボランティア
e)特になし	1	



Q3.青年委員会の活動について

参加回数	a)初めて	12
	b)2回目	7
	c)3回目以上	12
	d)はっきりしない	1

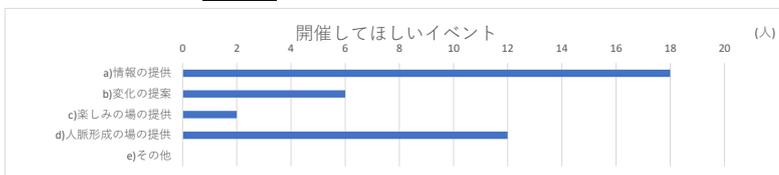


印象深かったテーマ

1次2次試験合格交流会、国際交流の講演会、エンジニアのためのコミュニケーション講座、プレゼン能力向上
若手の独立技術士講演会、小学生向けワーク、建設テクノ、国際語学系イベント、ディベート

開催してほしいイベント

a)情報の提供	18	見学会、工場見学、技術開発の見学
b)変化の提案	6	ディベート、プレゼン
c)楽しみの場の提供	2	
d)人脈形成の場の提供	12	国際交流、外国人、学生との交流、工博との交流、オープンイノベーション
e)その他	0	



その他のご希望

土日開催、技術士シニア会の開催

2020年1月例会アンケート集計 (2/2)

Q4.今回のイベントについて

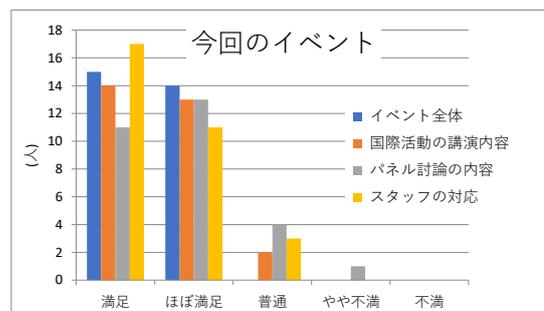
	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満
イベント全体	15	14	0	0	0
国際活動の講演内容	14	13	2	0	0
パネル討論の内容	11	13	4	1	0
スタッフの対応	17	11	3	0	0

講師やパネリストに伝えたいこと

- ・経験豊富で多岐に渡る専門を有する方々のお話を聞けて勉強になりました
- ・現地の活動の話をもっと長く聞きたかったです
- ・経験のある人の話が参考になった
- ・時間内に発表をまとめて報告して頂き感謝します
- ・勉強になりました ・参加者が幅広くないと良いですね
- ・国際交流活動の報告が多かったので、もう少しご自身の業務での経験等を聞けるとよかったです
- ・今回良い企画でした

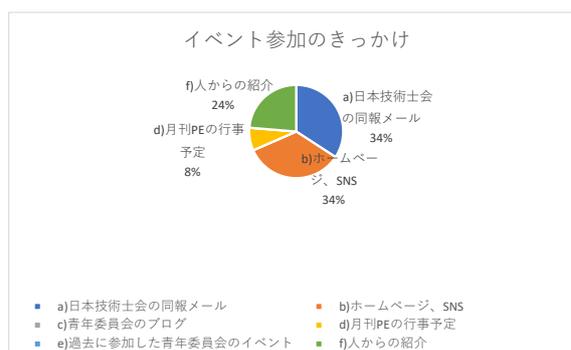
スタッフに伝えたいこと

- ・企画運営頂きありがとうございます。引き続き宜しくお願い致します。
- ・音が控えめなタイマーとベルを使ってほしい



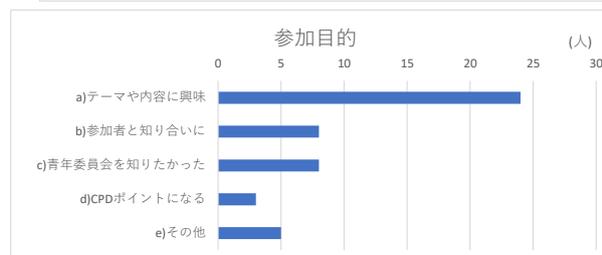
Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a)日本技術士会の同報メール	13
b)ホームページ、SNS	13
c)青年委員会のブログ	0
d)月刊PEの行事予定	3
e)過去に参加した青年委員会のイベント	0
f)人からの紹介	9
g)その他	0



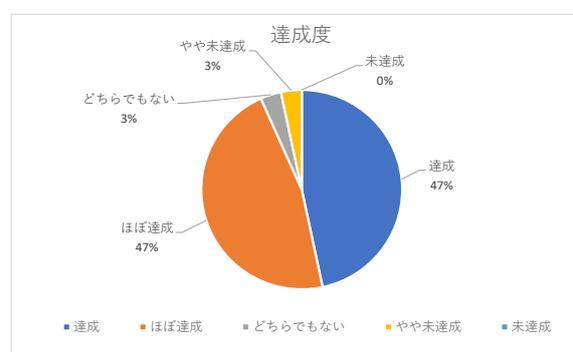
Q6.参加の目的と達成度について

目的 a)テーマや内容に興味	24
b)参加者と知り合いに	8
c)青年委員会を知りたかった	8
d)CPDポイントになる	3
e)その他	5



達成度

達成	ほぼ達成	どちらでもない	やや未達成	未達成
14	14	1	1	0



行事名	技術士を目指そう、修習ガイダンス 2020
日時	平成30年2月9日(土) 13:00~16:30
場所	機械振興会館 6階6-65、66
講師、発表者	コーディネーター: 臼井朗*(農業) 修習技術者パネリスト: 中丸裕美(上下水道)、山本直樹*(農業) 技術士パネリスト: 向井健朗(機械) 高木真人*(電気電子) 佐藤律子(環境・建設・総合技術監理)、後藤洋之*(水産・建設) PC操作担当: 岩部然育*(建設) *は、青年委員/補佐
担当者: (○印: リーダ)	後藤、高木、井口、山本、○臼井、小塚(アドバイザー)
参加者数	約85名(参加申込者数)

1. 背景・目的

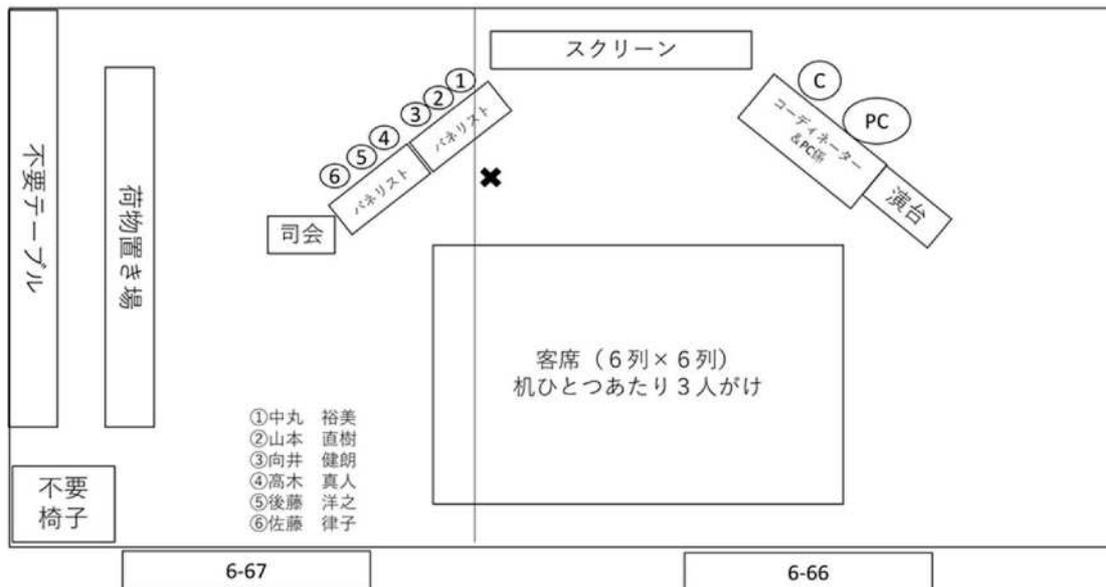
修習技術者支援実行委員会(修習委員会)が主催する第一次試験合格者/JABEE 認定課程修了(見込)者を対象とした「技術士を目指そう、修習ガイダンス 2020」において、パネル討論を青年技術士交流委員会(青年委員会)にて例年通り担当した。パネル討論の主な目的は以下2点である。

- 1) 修習技術者に向けて第二次試験受験および日本技術士会参加への動機づけを図る。
- 2) パネリストの実体験共有、技術士試験突破への意欲の増進、および技術士としての将来像を認識頂く。

また今回は台風19号の影響により、修習ガイダンスを2回実施することとなった。また参加者の対象を「技術士2部門を目指す方」とし例年よりも対象範囲を広げ、それに応じてパネル討論の内容も検討した。

<会場図>

パネルディスカッション机配置・照明図



2. 当日の動き

2-1 修習ガイダンス全体

当日の動き

時間		内容	担当者及び動き
12:00	12:30	6階会議室集合 (6-66) 会場設営開始	運営委員会が終わり次第6-66へ 会場設営 青年全員
12:30	13:30	受付開始～	白井は事前にデータを修習委員会の担当者へ渡し、スライドの調整。
13:00	13:05	ガイダンスの開会	特になし
13:05	13:10	日本技術士会より祝辞	//
13:10	14:10	阿部委員長講演 (技術士2次試験制度改定等)	//
14:10	14:25	休憩	講演が終了次第、レイアウト変更 青年全員
14:25	16:05	パネル討論	パネリスト (青年：後藤、高木、山本) コーディネーター (白井) パソコン係：岩部 マイク係 (河野、杉山) カメラ係 (吉岡、明山)
16:05	16:10	閉会の挨拶	
16:10	16:40	情報交流会用の会場設営	ガイダンスが終了次第、一旦外へ参加者を案内、その後会場レイアウト変更 青年全員
16:40	18:40	情報交流会 司会進行	司会進行 高瀬、井口
18:40	19:00	会場の片付け & 2次会先導	片付担当 (白井、井口、杉山、小塚、吉浦、鈴木) 2次会先導 (水柿、田中、河野、後藤、山本)
19:00	21:00	場の片付け & 2次会先導	

2-2パネル討論内容

タイトル:「技術士試験への挑戦と技術士として歩む道」

No.	時間(分)	内容	説明
1	5	オープニング	・ コーディネータ挨拶 ・ パネリスト紹介 ・ パネル討論の目的と流れ
2	10 (5×2)	修習技術者パネリスト講演	・ 技術士受験動機 ・ 第二次試験に向けた現在の取組み ・ 第二次試験に向けた不安、悩み
3	5	討論テーマ 1-1 第二次試験に向けた不安・ 悩み	・ 不安や悩みの顕在化
4	20 (5×4)	技術士パネリスト講演	・ 受験動機 ・ 第二次試験突破の工夫 ・ 受験勉強中の悩みと解決方法 ・ 技術士資格の活用
5	20	討論テーマ 1-2 第二次試験に向けて	・ 第二次試験への取組み ・ 勉強時間の確保・自信 ・ 新方式への対応 ・ 勉強方法 ・ コンピテンシー ・ 独力での頑張り方
6	15	討論テーマ 2-1 技術士に求められる役割	・ 各業界での技術士の役割 ・ 技術士取得後の変化
7	10	討論テーマ 2-2 取得後の活動	・ 取得後の活動 ・ 2部門目の挑戦 ・ 日本技術士会の紹介と活用
8	10	質疑応答	
9	5	クロージング	・ 修習技術者の決意表明 ・ 技術の激励 締めの挨拶

3. 成果と所感

<当日の準備>

- ・青年委員、委員補佐、修習委員会の皆様の協力により、滞りなく準備ができた。
- ・当日、コーディネーターの臼井委員の PC を使用することを想定していたが、技術士会で用意していたプロジェクターHDMI 非対応のものであり、予備 PC の使用を余儀なくされた。今後は事前に確認しておく必要がある。

<パネル討論>

- ・パネル討論は修習委員やパネリストの意見も合わせて検討して作り上げ、良いものとする事ができた。パネリストの年齢層が幅広く、様々な観点で討論することができたと考える(参加者の反応等から判断)。

- ・予めシナリオを作成したことで時間管理が容易になるため、今後ともシナリオの大枠を作っておくことが望ましい。しかし台本を意識しすぎると、参加者に良くない印象を与えかねないため、囚われすぎないことも重要である。

- ・前年のコーディネーターが引き続きアドバイザーとしてつく現体制は、細かい部分での見落としなどの防止になるため非常に有効である。

<その他>

・第1回目のパネリスト顔合わせの際、竹内委員長の発案により、パネリストとともに昼食をとった。これにより担当者間の親睦が深まったと思われる。

・今回会場を機械振興会館の6階の会議室へと変更したことによって、パネリストと参加者の距離感が近くなり関わりやすくなったと思われる。特に質疑応答の際に会場からの質問も出やすい雰囲気となったと思われる。

・今回、台風19号の影響によって受験できなかった東京及び神奈川の受験者に配慮し、6月に2回目の修習ガイダンスを開催する運びとなったが、日程の決定等にあたって一方的に決められてしまった。重要事項の決定の際は積極的に関与する必要がある。

4. 今後の展開

・パネル討論は今後も修習委員会の担当者と作り上げていくことが考えられる。担当者間(特に青年委員会に所属していない方)で、積極的にコミュニケーションを図るため、打ち合わせ以外の機会を作ることが有効である。

・例年ガイダンスの参加者が減少傾向にあると思われるが、今回のように「2部門目にチャレンジする人」や「すでに技術士を取得していても活用先に迷っている人」に対象範囲を広げても良いと考える。

以上

【添付資料 1: パネル討論の開催状況】



写真 1 パネル討論全体図



写真 2 パネリストの中丸さん



写真 3 パネリストの山本委員補佐



写真 4 パネリストの向井さん



写真 5 パネリストの高木委員



写真 6 パネリストの後藤副委員長



写真 7 パネリストの佐藤さん



写真 8 質疑応答時

以上

行事名	技術士を目指そう、修習ガイダンス 2020 情報交流会
日時	平成30年2月9日(土) 16:40~18:40
場所	機械振興会館 6階6-65、66、67
祝辞・挨拶・三本締め担当者	祝辞 修習技術者支援委員会 委員長 乾杯の挨拶 日本技術士会 副会長 閉会の挨拶 修習技術者支援委員会 副委員長 三本締め 青年技術士交流委員会 委員
司会・担当者(○印:リーダー)	井口、○高瀬
必要物品	マイク3本
参加者数	約85名(参加申込者数)

1. 背景・目的

修習技術者支援実行委員会(修習委員会)が主催する第一次試験合格者/JABEE 認定課程修了(見込)者を対象とした「技術士を目指そう、修習ガイダンス 2020」において、情報交流会を青年技術士交流委員会(青年委員会)にて例年通り担当した。情報交流会の主な目的は以下2点である。

- 1) パネリストおよび技術士と修習技術者の交流
- 2) 継続参加者・委員補佐候補の獲得

また今回は台風19号の影響により、修習ガイダンスを2回実施することを予定しており、参加者が少ないことが予測されたため、参加者の対象に「技術士2部門を目指す方」も含み例年よりも対象範囲を広げた。

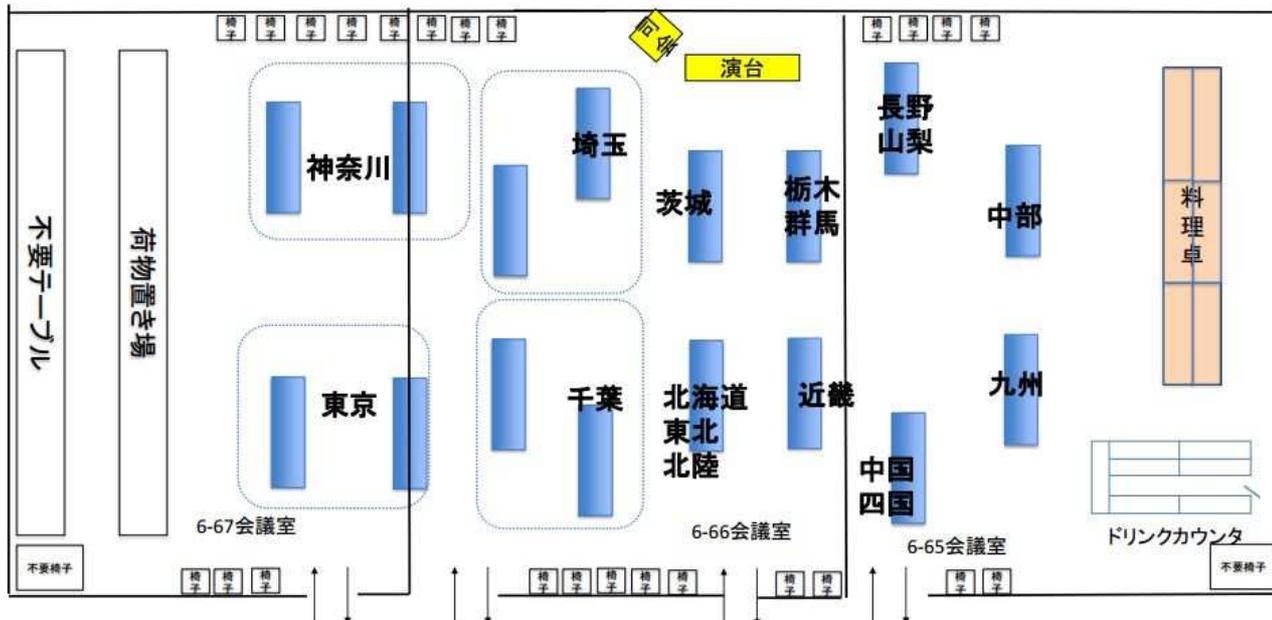
※2回目の修習ガイダンスはコロナウィルス感染拡大の影響を受け、中止。

<会場図>

例年同様、会の前半は地域別のテーブル配置、後半は部門別のテーブルの配置とした。

修習ガイダンス2020 情報交流会(地域別) 16:40~17:30

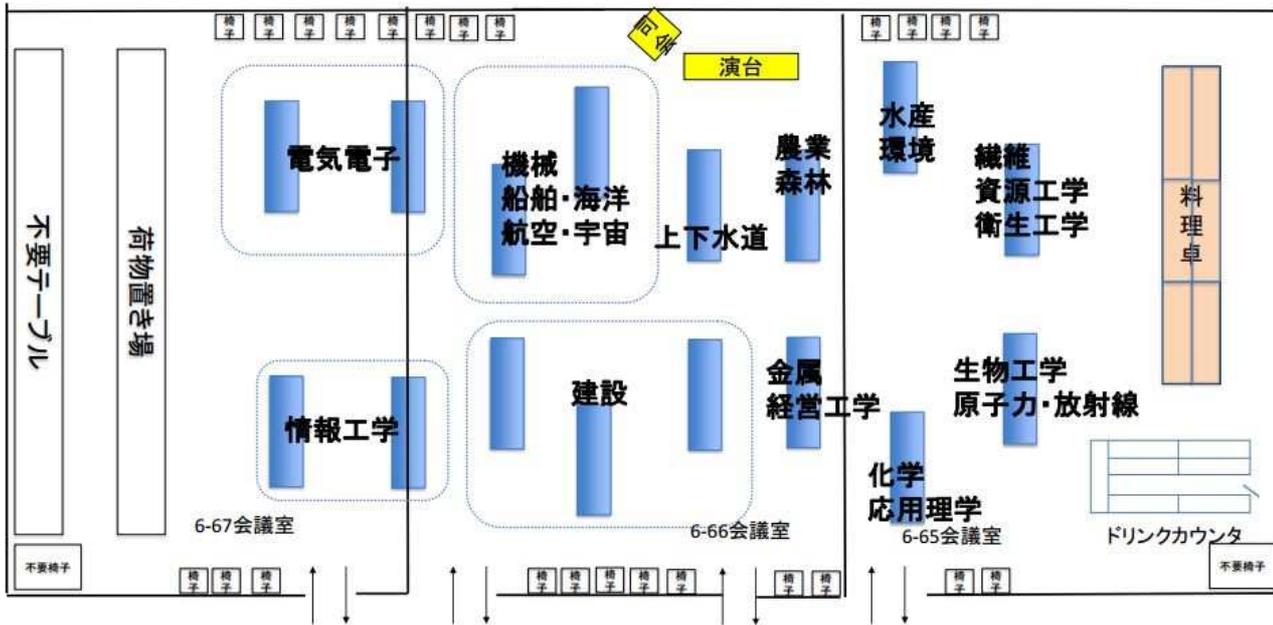
日時: 2019年2月8日(土) 16:40~18:40 会場: 機械振興会館 6階 6-65、6-66、6-67
会場内では、テーブルが居住地・出身地別に分かれております。地域別での交流を進めてください。



修習ガイダンス2020 情報交流会(部門別) 17:30~ 18:30

日時: 2019年2月8日(土) 16:40~18:40 会場: 機械振興会館 6階 6-65、6-66、6-67

会場内では、テーブルが部門別に分かれております。部門別での交流を進めてください。



2. 当日の動き

2-1 修習ガイダンス全体

当日の動き

時間		内容	担当者及び動き
12:00	12:30	6階会議室集合 (6-66) 会場設営開始	運営委員会が終わり次第6-66へ 会場設営 青年全員
12:30	13:30	受付開始～	白井は事前にデータを修習委員会の担当者へ渡し、スライドの調整。
13:00	13:05	ガイダンスの開会	特になし
13:05	13:10	日本技術士会より祝辞	//
13:10	14:10	阿部委員長講演 (技術士2次試験制度改定等)	//
14:10	14:25	休憩	講演が終了次第、レイアウト変更 青年全員
14:25	16:05	パネル討論	パネリスト (青年：後藤、高木、山本) コーディネーター (白井) パソコン係：岩部 マイク係 (河野、杉山) カメラ係 (吉岡、明山)
16:05	16:10	閉会の挨拶	
16:10	16:40	情報交流会用の会場設営	ガイダンスが終了次第、一旦外へ参加者を案内、その後会場レイアウト変更 青年全員
16:40	18:40	情報交流会 司会進行	司会進行 高瀬、井口
18:40	19:00	会場の片付け & 2次会先導	片付担当 (白井、井口、杉山、小塚、吉浦、鈴木) 2次会先導 (水柿、田中、河野、後藤、山本)
19:00	21:00	場の片付け & 2次会先導	

2-2情報交流会内容

No.	時間(分)	内容	説明
1	8	情報交流会開始	・祝辞 ・乾杯の挨拶 ・ストラップの色の違いを説明する
2	32 (17:20 まで)	歓談	・17:20 に青年委員がテーブル表示を地域別から部門別へ変更する ・参加者にテーブル移動を促す
3	(18時20分までに終える)	インタビュー	・司会がパネリストと参加者との元に行き、今日の感想や今後の展望について質問をする。参加者に対しては、自己紹介もお願いする。
4	(3の終了後、18時20分まで)	歓談	
5	18時20分から	閉会に向けて	・閉会の挨拶 ・行事案内 ・三本締め
6	(流れ)	懇親会終了	・以降の交流は場所を変えて行っていただきたい旨を伝える ・ストラップ回収のアナウンス ・懇親会のアナウンス

3. 成果と所感

<当日の準備>

- ・青年委員、委員補佐、修習委員会の皆様の協力により、滞りなく準備ができた。

<本番>

- ・盛り上げて下さる方の協力により円滑な運営ができた。
- ・交流に対して消極的な姿勢を見せていない参加者に対してインタビューを実施し、さらに協力して盛り上げる必要があるとわかった。

<改善>

- ・例年、パネリストが前に出て挨拶をするが誰も見ない。
↓
- ・改善策としてパネリストと距離が近くなれば参加者も注目するだろうという狙いから突撃インタビュー形式をとる。
↓
- ・しかし輪ができるどころか、パネリストの隣にいる人すら反応しないような状態。
↓
- ・青年スタッフ一同でなんとかその場を盛り上げたものの、なかなか参加者の話を中断させてまで注目を惹きつけるのは難しい。
↓
- ・最後の3本締めの前に一人ずつ簡単に挨拶をもらう形を取るほうが手としては有効

<その他改良のための議論>

- ・各技術部門及び地域からコメントを頂く時間を設定することを検討した。提案して議論した結果、話が長くなってしまったときに止める手段がないということで、実施しないことになった。

4. 今後の展開

- ・会の内容及びタイムスケジュールは既にかかなり練られているため、少しの改良やその年の特殊性を意識しつつも、基本的には前回の踏襲で良いのではないかと感じた。
- ・前年度の議論の結果を実施報告書に記載しておくことで、改良の案を検討する際に役立つと感じた。

以上

国際活動報告書

会議名	FEIAP The 27 th General Assembly and The 5 th Convention Mutual Recognition of Engineering Education
日時	2019年6月28日(金)～6月30日(日)
場所	Shangri-La Hotel Xi'an, China (中国：西安)
参加者	国際委員：稲垣副委員長、鈴木委員 青年委員：竹内将人
参加者数	総勢 200名

1. 目的

2018年11月、シンガポールにて開催されたFEIAP理事会にてYouth Talent Development WGが設立された。本WGへは国際委員会の要請を受け、WG立ち上げから日本技術士会として参画するため竹内委員、田中委員がメンバーとなり参加している。

今回はWGメンバーそれぞれのエコノミーにおける課題と、それを基にWGで行う活動の方向性を議論するために参加し、日本のIPDに関する原状をメンバーと共有することでWGでの取り組みに示唆を与え、日本のプレゼンスを向上させることを目的とした。

なお、ここでは当該WG参加についてのみ報告する。

2. WG参加者

Yeoh Su Hong 氏※1	IEM (マレーシア)	
Richard Moh 氏※1	CIE (台湾)	
Zaw Min Aung 氏	MEngC (ミャンマー)	
Tresna Priyasa So 氏	PII (インドネシア)	
竹内将人※1	IPEJ (日本)	※1：WGメンバー

3. WG活動詳細

【Pre-meeting】

Yeoh Su Hong 氏 (IEM)、Richard Moh 氏 (CIE)と3名で各自資料を持ち寄りWGの目指すべき方向性について討議を行った。

日本からは、現在IPD-WGで検討されている内容(※2)に関して個人的な理解と思いを元に7つのコンピテンシーの説明を行った。

IEMから、TalentsをAttitude、Management Skill、Communication Skill、Technical skillの4つにカテゴリー分けし、それぞれのカテゴリーについて資質向上のためのガイドライン作成を行いたいとの提案があった。これに対してワークボリュームが大きくなることから、日本、CIEより、よりユニークなカテゴリーであるAttitudeについて特化すべきとの提案を行ったが、形だけでもそろえたいとのIEMの意向を否定するまでにはいたらなかった。

CIEからは、資質向上のための企画として、2018年にIEM-CIEで行った国際交流イベントの企画であるSDGs-Competitionのようなコンペを企画してはどうかと提案があった。

※2：IPDについてはIPD-WGにて議論が継続されており、ここで説明したものはあくまで個人の見解である。

【Official meeting】

Pre-meetingでの討議内容を報告した。また、前回の課題であったYEAFFEOとの違いについて、各国代表は基本的に固定でメンバーの確認を持って交代すること、代表に年齢制限は設けないことなどの確認がなされた。

その他特記事項は以下のとおり。

- ・WGへの参加国増加をめざしてYEAFFEOとの連携を強化するため、双方の加盟国は参加費に関して配慮する枠組みとしていく。具体的には、36歳以下のエンジニアのYEAFFEO参加費を100USDとするなど、調整を行う。
- ・資質向上に向けた企画として国際交流イベントを、2018年のIEM-CIEの例、2019年の香港の例を参考にしたい(香港の国際交流には青年委員として参加している)。そこで2020年には日本で開催できないか打診があり、可否判断は要調整と回答した。

4. 成果

WG は立ち上がったばかりで成果と呼べるようなものが出てくる段階にはないが、IPD という考えに根ざした日本の仕組みづくりや、ユニークな点に特化すべきといった目的志向が日本の存在感を際立たせたように感じた。また、来年度の国際交流企画を日本で開催できないかとのオファーを得たことはひとつの成果ともいえる。

CAFEO/YEAFEO への参加は日本が ASEAN 加盟国ではないことから関与できる範囲が限られるが、FEIAP においては日本技術士会が主導権を持って技術者の資質向上のための国際標準化を進めていくことができるという可能性を示すことができた。

5. 所感

今回の総会・会議は開催地が中国・西安であったが、FEIAP でありながら本会議のテーマは一带一路を中心としたものとなっており、中国の強引とも言える国際社会の主導権獲得に対する積極姿勢をうかがい知ることができた。西安は技術者教育に注力した地域でもあり、技術者教育のワークショップも開催されていた模様。今後各国の技術士資格の相互認証が進み各国技術士資格の国際通用性の議論がなされたとき、日本が不利なものとならないように Talents やその向上のための取り組みに関して積極的に関与していく必要があると感じた。

本件は青年技術士交流委員会の設置目的である国際交流の範囲を超えてきつつあり、日本技術士会の組織体制においては、国際委員会の元、IPD-WG と連携しながら、国際活動における国益を鑑みつつ取り組んでいく必要があると感じた。

以上



写真 1. Official meeting の様子



写真 2. 事務局と共に記念撮影

会議名	CAFE037/YEAFEO26
日時	2019年9月11日(水)～9月14日(金)
場所	JIExpo Kemayoran Jakarta, Indonesia
参加者	青年(統括本部)：●河野(記)、●高木、●竹内 青年(中国本部)：金高、立山 一般：伊藤、小椋、園家、力石、塚越、長谷川、松山 (●：公費派遣者、五十音順・敬称略)
参加者数	12名

1. 目的

- ・若手技術者の国際感覚の育成
- ・ASEAN 諸国の技術者との人脈構築
- ・当該会議への継続参加による日本のプレゼンス強化
- ・国際交流に関心を持つ日本人参加者同士の交流

2. 概要

会議名：CAFE037 (37TH Conference of the ASEAN Federation of Engineering Organizations)
 YEAFEO26 (26TH Young Engineers of the ASEAN Federation of Engineering Organizations)

期間： 2019年9月11日(水)～14日(金)

場所： JIExpo Kemayoran Jakarta, Indonesia

3. メンバーが参加した主日程 ※ 基本的に YEAFEO プログラムへ参加し、空いた時間は CAFE0 プログラムへ参加。

Date		Program
9月10日	PM	Welcome Dinner
9月11日	AM	[YEAFEO] Opening [YEAFEO] Board Meeting
	PM	[YEAFEO] Office visit [YEAFEO] Technical visit "SOSROBAHU"
9月12日	AM	[YEAFEO] Gift exchange [CAFE0] Oral Presentation for CAFE0 and for Disaster Preparedness WG
	PM	[YEAFEO] Country Report [CAFE0] Technical tour to AHA center for Disaster Preparedness WG
		[YEAFEO] GALA Dinner
9月13日	AM	[YEAFEO] Technical visit "gojek"
	PM	[YEAFEO] Technical visit "MRTJ", "Ministry of Public Works" Closing ceremony and dinner
9月14日	AM	[YEAFEO] Technical visit "Menara Astra Tower"
	PM	[YEAFEO] BIDADARI Island Tour

4. 成果

4. 1 若手技術者の国際感覚の育成

海外の若手技術者とともに各プログラムに参加し、意見交換を行うことでインドネシアを含めた各参加国の文化、宗教、価値観、そして科学技術にまつわる課題（特にSDGsを今後ASEAN諸国にどのように取り入れ、それらを各国（ASEAN諸国間の国際協力も含める）の技術力でどう解決に導いていくのか等）認識を共有することができた。その結果、参加者が常日頃思考のベースとしている日本の常識にとらわれない一段高い視点で物事を捉える素養を培うことができた。また、発表や議論を通じて、英語を用いた国際コミュニケーションの重要性を再確認できた。

4. 2 ASEAN諸国の技術者との人脈構築

各国とプログラムを共にすることでSNS（主にFacebook）にて技術者との繋がりを築くことができた。その繋がりが一時的なものとならないよう、国際交流の継続に引き続き務める。特に一部の参加者にてフィリピンやミャンマーとルームシェアや観光を共にすることで従来に比べ、より親密な関係を築くことができた。

4. 3 継続参加による日本のプレゼンス強化

CAFEOにて2件の口頭発表を行ったことで、日本の存在感を大きく示すことができた。特に防災セミナーでの発表においては、子供に対する防災教育の取り組みが高く評価され、地震を始めとした自然災害の多い日本における防災意識と高さと、遊びながら学ぶ教育方法に対して高い関心が寄せられた。Welcome Dinner および Closing ceremony and dinner では空手演武や日本の人気グループのダンスの披露、袴や浴衣を着用して出席することで、文化面においても日本の存在感を大いに示すことができた。

4. 4 国際交流に関心を持つ日本人参加者同士の交流

参加者は海外での技術交流に関心を持った技術者である。YEAFFOプログラムへの参加だけでなく、移動や懇親会にて意見交換や議論を通じて、交流することができた。特に国際交流を通して海外に日本の技術者が貢献をしていくために、日本として何ができるのか、語学はどのように学習するか等、意欲的な議論が散見された。今年のYEAFFOには統括本部以外に、近畿本部、中国本部からも参加頂いたことから、個人間の交流だけではなく、青年技術士交流委員会間の交流も促進することができた。

5. 活動詳細

主な参加イベントに関して、以下に報告する。

5. 1 9月10日 (Welcome Dinner)

CAFEO、YEAFFO 合同での盛大な歓迎会が開催され、本歓迎会では、各出席者が座席に着席し、コース料理を頂く形式であった。昨年と同様、大会前日の夜に開催された。

余興として空手演武と日本の人気グループのダンスを披露した。各国の参加者の中には、昨年踊ったことを覚えていた方も多く、一緒に踊ることで非常に盛り上がった。余興は毎年変える必要は無く、各国の参加者が振り付けを覚えてくれるまで続けるというのが良いという所感を得た。



5. 2 9月11日

(1) YEAFEO meeting

当日急遽大幅な時間変更があり、なかなか足並みがそろわない中、YEAFEO のミーティングが行われた。

YEAFEO への各国の参加状況に関して温度差があることに、事務局を中心として議論がなされた。毎年参加する国もあれば、そうでない国もあり、また参加者数もまちまちである。(マレーシア、ミャンマー、カンボジア等は参加者が多く、ベトナムは不参加であることも多い。)事務局は継続的、積極的な参加を呼びかけたい考えで、CAFEO 事務局からの補助金等の仕組みがあることの説明等がなされた。

CAFEO/YEAFEO は ASEAN 諸国の友好交流の場でもあり、公式な立場での積極的な参加を呼びかけたい模様。

また、FEIAP (Federation of Engineering Institutions of Asia and Pacific) での Youth Talents Development WG の設立に関する紹介も行われた。YEAFEO とは参加費を互いに減免する連携を行っており、今回は非 ASEAN 加盟国でありながら FEIAP 加盟国である香港、日本の 36 歳以下の参加者は参加費を 100USD に減免された。(今回からの試み)

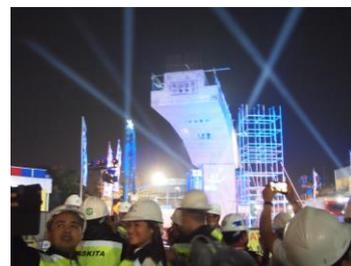
YEAFEO 及び FEIAP-WG ではマレーシアが中心的存在感を示しており、アジア・太平洋地域での求心力を高めたい意欲が伺える。



(2) Technical visit "SOSROBAHU"

深夜、SOSROBAHU と呼ばれる橋脚のピア施工技術のデモンストレーションが行われた。

本技術は橋脚上のピア部を道路と並行に施工した後、90 度回転して据え付けを行うもので、インドネシアの技術者 Tjokorda Raka Sukawati 氏により開発された。本技術は既設主要道路上に道路を新設する際、既設道路の規制を最小限に抑えることができることから、常に渋滞が発生するジャカルタの交通事情に適した技術である。



5. 3 9月12日

(1) Gift exchange

日本の Gift として和扇を持参した。武士が描かれている日本的なデザインだけではなく、厚みがなく、かつ軽量である点が好評であった。Gift 交換の際には、「実際に飛ばすことができるのか?」といった質問があり、文化的な交流の一助となった。



(2) Country Report

各国の 1 年間の活動報告がなされた。日本は青年技術士交流委員会の 1 年の活動報告と代表的な技術 (東京オリンピックの開催を控え、AI、IoT 技術や、バイオ燃料の技術開発) の紹介を行った。発表は 3 名 (竹内氏、高木氏、長谷川氏) で分担して行った。



(3) Oral Presentation for CAFEO and for Disaster Preparedness WG

AFEO の事務局 Ms. BE Ooi 氏の講演依頼を受け、CAFEO 内の Disaster Preparedness Working Group で日本代表として、日本における代表的な災害対策を発表する機会を得た。

本発表は、8 月イベント「青年委員会・建設部会 合同テクノ」の内容をまとめたものである。本イベントでは、東京臨海広域防災公園を開催場所として、東京直下で大地震が発生した場合のインフラ施設の役割、そして自らの命を守るための防災教育について学んだ内容について講演した。

本発表には約 100 名程度の聴講者が参加しており、聴講者からの関心の高さを感じるとともに、報告者の講演後、多くの聴講者から良い発表だったとお褒めのお言葉を頂いた。特に「ポケドボ」を用いたカードゲームは子供も含め、防災教育を楽しく学べるものとして、聴講者からの大きな興味を得られた。

本イベントを CAFEO37 で講演できたことは大変貴重な機会であり、また日本土木学会若手パワーアップ小委員会が制作した「ポケドボ」を海外の技術者にアピールできたことも良い機会であったと感じている。本発表への参加を通して、日本のプレゼンスを大きく示せることができた。



(4) Technical tour to AHA center for Disaster Preparedness WG

Disaster Preparedness WG のテクノツアーとして、本 WG 参加者はバスで AHA センターに移動した。AHA センターは、2011 年 11 月の第 19 回 ASEAN 首脳会議において設立協定が結ばれ、インドネシア（ジャカルタ）に設立された施設である。AHA センターには、ASEAN 地域の防災拠点としての機能が想定されており、平常時には、ASEAN 域内の災害時のリスク評価を行うとともに、継続的に ASEAN 域内の状況を監視すること、また災害が発生した際は、ASEAN 各国と災害情報を共有し、緊急対応の調整の中心的な役割を担っているとのことであった。

特に台風や竜巻等といった自然災害時における緊急時においては、本センターの役割は非常に重要であり、実際にどのように自然災害を事前に予測し、万が一、災害が発生した際にはどのように対応しているのかを間近で知ることができた。



(5) YEAFEO GALA Dinner

夕食は YEAFEO による懇親会が行われた。会場は郊外レストランの一部を貸し切っており、ビュッフェ形式であった。インドネシアはイスラム圏であるため飲酒に厳しいが、ここではビールを注文可能であった。

また会場には舞台があり、そこで歌手と奏者によって、様々な国の曲が演奏され、会場は大いに盛り上がった。本会の最後には、Welcome Dinner での日本の余興と同じ楽曲を流して頂き、全員で踊ることで海外の方との懇親を大いに深めることができた。



5. 3 9月13日

(1) Technical visit "gojreck", "MRTJ", "Ministry of Public Works"

個人タクシー配車をはじめとした輸送・配送・決済サービスを提供する gojreck は、インドネシアを代表する IT 企業の一つである。gojreck が提供するサービスは多くの市民が利用しており、AI や機械学習を用いて常に最適化がなされている。2019 年 3 月に開業した MRTJ はジャカルタの交通渋滞の緩和を目的とした鉄道路線であり、日本製の車輛の使用、また日本の鉄道会社が保守コンサルタントを請け負うなど日本の協力が伺えた。Ministry of Public Works では、



パーティによる歓迎を受けたことから、インドネシアでは技術者が政府より高く評価されている状況が垣間見えた。

(2) Closing ceremony and Dinner

CAFEQ、YEAFAQ 合同でお別れ会が開催された。ドレスコードはスーツ or 民族衣装ということで、半数以上の方々が色鮮やかな民族衣装や民族舞踊の衣装を身にまとい、各所で文化交流がなされていた。

日本は参加者メンバー全員が空手道着、袴または浴衣で参加したところ、各国の参加者



(老若男女問わず) から写真を一緒に撮って欲しいとの依頼が多く、コミュニケーションのきっかけとして有効であった。このように日本の文化に興味を持って頂けるよい機会であるので、来年以降も浴衣等の衣装での参加を続けていきたい。

5. 4 9月14日

(1) Technical visit "Menara Astra Tower"

午前中は Menara Astra Tower を訪れた。このビルは日建設計が意匠設計、清水建設とインドネシアの建設会社の JV によって建設された。雨水を利用した節水技術、室温を一定に保ち、かつ清浄機能を備えた空調を有する等、環境に配慮した超高層ビルである。



(2) Bidadari Island Tour

午後は Bidadari Island に移動し、ランチパーティが開催された。その後、記念撮影やバレーボール等を通じて参加者同士の親交を深めた。



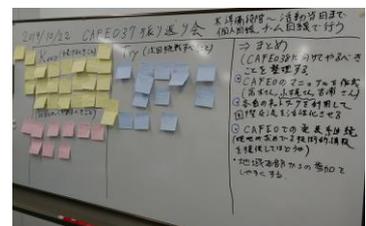
6. 帰国後の振り返り

日本へ帰国した後、振り返り手法の一つである「KPT」を使用して振り返りを実施した。ここでは青年委員だけでなく一般からの参加者にも参加いただいた。今回の振り返り結果を活かし、来年以降、CAFEQ/YEAFAQ の参加準備から参加当日までの対応について、更なる効率化、高密度化を図る。

振り返りの結果、来年度取り組むべき内容は以下の通りとなった。

- ・CAFEQ のマニュアルを作成する。
- ・各自のネットワークを活用して、更に国際交流を活性化させる。
- ・CAFEQ への発表を継続すること。(特に各自の口頭発表)
- ・地域本部から参加しやすい雰囲気を作る。

振り返り自体も帰国後の参加者同士の交流のきっかけになるため、とても有意義であった。



7. 今後の展望

- ・ASEAN 諸国の技術者とのつながりは SNS 等を活用して継続していき、来年以降の CAFEQ/YEAFAQ の人脈構築、信頼関係の深化につなげていく。
- ・地域本部を通して全国の若手技術者へ研鑽機会を提供できるよう、連携をより強化していく。

- ・帰国後も振り返りなどのイベントや、その他青年委員の CPD イベントなど一般参加者同士が交流できる場を提供し、継続参加しやすい環境を作る。
- ・会期中、積極的に英語で発言を行うことをひとつの目標とし、そのために事前に英語学習を行うことも検討していく。
- ・今までの事前勉強会は政治、文化、教育体制など大きなテーマであったが、実際の会話に活かせるような技術的な内容（特に日本での SDGs の取り組みなど）などもテーマに入れることを検討する。
- ・今回、CAFEO で青年の取り組みを口頭発表したことはとても好評であったため、来年度も発表することを検討する。



以上

会議名	FEIAP ^{※1} EXCO (Executive Committee)
日時	2019年 11月 21日 (木)
場所	Engineers Australia Office (31F), 600 Bourke Street, Melbourne (豪州)
参加者	国際委員：山口副委員長、鈴木委員 青年委員：河野副委員長、竹内 (文責)
参加者数	約 30名

※1 FEIAP：(Federation of Engineers Institutions of Asia Pacific：アジア太平洋地域技術者協会連合)

1. 目的

2018年 11月、シンガポールにて開催された FEIAP 理事会にて Youth Talent Development WG が設立された。本 WG へは国際委員会の要請を受け、WG 立ち上げから日本技術士会として参画するため竹内委員、田中委員がメンバーとなり参加している。

WG のメンバーを代表して、FEIAP EXCO (執行理事会) にて WG の活動状況を報告することで FEIAP の中での日本技術士会の存在感を示すこと、また積極的な参画により当該 WG にて推進する Young Engineers Exchange (YEx) を将来的には日本技術士会会員にとっても有意義な CPD の場としていくことを目的とした。

なお、ここでは当該 WG の活動報告についてのみ報告する。

2. 報告内容

WG 活動として報告した内容は以下のとおり。

(1) Meeting with YEAFEO

9月にジャカルタで行われた CAFE037 での YEAFEO ミーティングにて、国際交流や研修事業において当該 WG との連携することで合意を得た。これにより本 WG 加盟国の 36 歳以下のエンジニアは、YEAFEO 参加費を 100USD に減免されることとなった。(ジャカルタではやや流動的ながらもこの枠組みが適用され、参加費は公式 HP からの振込額 600USD (非 ASEAN) のところ大幅な負担軽減となり、日本からの参加がしやすくなった)

(2) Guideline of FEIAP Young Engineers Exchange (YEx)

実践の場としての交流活動-YEx-のガイドラインを作成し、大学や技術的な見学会、ワークショップや開催国のベテランエンジニアとの交流、その他円卓会議などを盛り込むことを基本とした。

(3) FEIAP YEx in Kuala Lumpur 2020

第一回の YEx は 2020 年 4 月 15 日(水)~17 日(金)の間、マレーシアのクアラルンプールにて IEM (The Institution of Engineers, Malaysia) の支援のもと開催する。各国より、3 名 (若手 2 名、リーダー 1 名) の参加を呼びかける。渡航費用等は各参加者負担。

⇒EXCO にて承認された。

(4) FEIAP Youth Talents Innovation Competition

2021 年にフィリピンで行われる第 6 回の FEIAP 会議において、イノベーションコンペを行いたい。SDGs をテーマに、5 名~7 名でチームを組みコンペを行う。チームの半数以上は若手技術者とするが、他業種もメンバーとするなど大枠の構想は検討中。

本コンペの企画検討のため、ミャンマーで行われる次回の FEIAP 会合でミーティングを行う。

⇒FEIAP 事務局は会議室の手配を行い支援することとなった。

3. 成果

WG を代表して活動報告を行うことで、日本技術士会の存在感が高まった。

また、第 1 回の YEx がマレーシアで行われることが決まり、日本技術士会としては CAFE0/YEAFEO に並ぶ国際活

動 CPD 事業の拡大が具体的になった。

今後 WG 主催の各種研修事業への参画や日本での開催誘致等により、日本技術士会会員への CPD の場の提供に貢献していきたい。

4. 所感

当該 WG は 40 歳前後のメンバーで構成されているが、少人数ながら積極的な活動が高く評価されていると感じた。

質疑応答においては参加国・参加者数の見通しなど難しい問いを投げかけられる場面もあったが、まずやってみること、新しいことに挑戦すること自体に価値があると、マレーシア、シンガポール等の FEIAP でプレゼンスの大きい国から選出された FEIAP 理事の多くからコメントをいただき、後押ししてくださったことが非常に印象的であった。

今の日本では何かをやる前に考えすぎて動けなくなってしまっていないだろうか、と、ハッとさせられた。今回の会議に参加することで、経済成長の目覚ましい東南アジア諸国のリーダーたちの姿勢を知ることができた。このような国際交流で得られる刺激や気づきは多く、技術士コンピテンシーの向上に非常に有効と感じる。今後、多くの日本技術士会会員に国際交流の場を提供し、研鑽の機会を創出したいと思う。

以上



写真 1.EXCO での質疑応答の様子

会議名	日豪交流打合せ (Interaction meeting)
日時	2019年 11月 21日 (木) 17:30~19:30(AEST)
場所	Jacobs Engineering Office (オーストラリア/メルボルン)
参加者	青年(統括本部)：河野(記)、竹内
参加者数	2名

1. 目的

World Engineers Convention2019(WEC2019)への参加を通して、本会議の参加期間中に日豪間のミーティングを開催することで、今後の本格的な日豪交流の実現に貢献する（国際委員会依頼案件）。

2. 概要

会議名：日豪交流打合せ (Interaction meeting)

期間： 2019年 11月 21日(木) (WEC2019 開催期間：11月 19日 (火) ~22日 (金))

場所： Jacobs Engineering Office, 452 Flinders Street, Melbourne

3. 経緯

2015年に日豪友好協定が締結されてから、Engineers Australia（以下「EA」）及び公益社団法人 日本技術士会（以下「IPEJ」）間で相互交流を深めることが約束された。それ以降、IPEJ国際委員会が主導となり、日豪交流に向けた調整が行われてきたが、その実現が難航していたことから、2018年度以降、国際委員会から青年技術士交流委員会（以下「青年委員会」）へ日豪交流への協力が要請された。そこで、青年技術士交流委員会が主として日豪交流の本格的な実現に向けて、2018年度からSkype会議を通して準備を行ってきた。その結果、EAから青年委員会に対し、WEC2019への招待講演（詳細は別項目に後述する）に加え、開催期間中に日豪交流に関する打合せが開催されることとなった。

4. 成果

前項「3.経緯」を受け、WEC2019の開催期間中に今後の日豪交流に関する打合せが行われることとなった。IPEJとEA関係者（参加者内訳：IPEJ：4名、EA：12名）が一同に集まり、今後の日豪交流に向けて、和やかな雰囲気の中で自由に意見交換を行った（詳細な打合せの議題は別添資料の通り）。本打合せでEAとIPEJの参加者同士で意見交換を行った結果、以下が日豪間の合意内容となった。

【日豪間合意内容】

- ・今年度あるいは来年度より、年に一回、日豪間(IPEJ-EA間)のWeb会議を開催し、情報交換を行う。
- ・予算が出れば、お互いの国を行き来する。

これまでIPEJの検討事項であった日豪交流の本格的な活動に向けて、今回の打合せを通じて、日豪間の基盤を構築することが出来たことは、大きな成果であると言える。また、EAから依頼を受けて、WEC2019において青年委員会の成果も発表することもできたことも大変良い機会であった。

なお、本会議には国際委員会から山口第3小委員会委員長、鈴木委員の2名も参加しており、以下の日豪間合意内容については同意済みであるが、今後国際委員会とも密に連携を取り、具体的に日豪交流をどのように進めていくか検討する必要がある。



5. 今後の展望

・WEC2019 期間中に開催された、Young Engineers Event において、EA 青年技術士委員会代表者の Nicole Brown 氏からの講演があり、そこで Nicole 氏は今後、世界の様々な国の若手技術者と交流を続けていきたいこと、特に日本もその 1 つの国として積極的な活動を継続していきたいと発言は今後の日豪交流を強く印象付けるものであった。また、WEC2019 での青年委員会の活動成果を発表することができたことで、日本のプレゼンスを大きく示せた。これらのことから、報告者としては、今後 IPEJ 国際委員会を通じた連携が円滑に進むことを確信した。

・国際委員会から依頼を受けた日豪交流について、青年委員会としてのミッションは達成できた。今後は国際委員会とも密に連携し、本格的な日豪交流に向けて動いていきたいと考えている。

・日豪交流を本格的に進める上で、具体的に何を行うのか、お互いの国にとって有益なものとなるように国際委員会と青年委員会が連携を取りながら、検討を進めていく必要がある。



日豪交流打合せ後の集合写真

【参考情報】

報告者は日豪交流打合せに合わせて、WEC2019に参加してきたため、以下に本会議における主な参加報告をまとめる。

1. 目的

- ・青年委員会の活動成果に関する本会議への論文及び口頭発表
- ・当該会議への参加による日本のプレゼンス強化

2. 概要

会議名： World Engineers Convention 2019(WEC2019)

期間： 2019年11月19日(火)～22日(金)

場所： Melbourne Convention and Exhibition Centre

3. 報告者が参加した主日程

Date		Program
11月19日	PM	The University of Melbourne: Australian Integrated Multimodal EcoSystem (AIMES) Technical Tour
		WEC Young Engineers Event
	AM	Keynote 1-4
11月20日	PM	Technical Oral Presentation in WEC 2019
		WEC Welcome Reception
11月21日	AM	Keynote 5-8
	PM	FEIAP Executive meeting (※別レポートで報告)
		Interaction meeting between EA and IPEJ
11月22日	AM	Keynote 9-11

4. 成果

4.1 青年委員会の活動成果に関する本会議への論文及び口頭発表

本会議の Technical Oral Presentation の Theme 2: Engineering for humanity: responsive design for greater livability (SDGs 1, 2, 3, 4, 10, 11, 12 の6項目)のセッションにおいて、東電福島事故後のリスクコミュニケーションの活動経験を他分野の技術者と共有し、より良いリスクコミュニケーションの方法を検討することの重要性及び今後の活動展開について論文及び口頭発表を行った。(※論文発表は、本会議前に事務局に提出し、Peer-Reviewerの査読審査は通過済。)

4.2 当該会議への参加による日本のプレゼンス強化

WEC2019にて、東電福島事故後のリスクコミュニケーションに関する口頭及び論文発表を行ったことで、日本の存在感を大きく示すことができた。特に本テーマは原子力分野の専門家のみならず、技術者全般に共通するテーマということもあり、会場の聴講者の人数(100名程度)からも関心の高さが伺えた。

5. 活動詳細

報告者が参加した主な開催イベントに関して、以下に報告する。

5.1 11月19日

(1) The University of Melbourne: Australian Integrated Multimodal EcoSystem (AIMES) Technical Tour)

メルボルン大学で実施している、Australian Integrated Multimodal EcoSystem (AIMES)に関するテクニカルツアーに参加した。AIMES は 2016 年に設立され、より安全で、クリーンな都市部における持続可能な道路状況を提供することを目的に、実道路環境において様々な輸送技術を試験的に組み合わせることによって開発されたものである。実際に現地道路状況を可視化できる機器を拝見したところ、自動車が道路上における動きの確認を容易に行うことができ、また、その流れを分析し、検証することで、持続可能な交通システムの構築を目指しているとのことであった。今後、このような技術を用いることで、道路上の渋滞の発生防止や、また交通事故の発生低下にも貢献できるのではないかと個人的に思った。



(2) WEC Young Engineers Event

EA オフィスにおいて、WEC Young Engineers Event が開催された。これは WEC2019 に参加する若手技術者が一堂に集まり、交流するイベントである。少なくとも 100 名以上の若手技術者が本イベントへ参加しており、若手技術者同士間で積極的に交流しようとする姿勢を強く感じることができた。報告者自身も参加者として本イベントに参加し、多くの若手技術者と交流することができた。

本イベントでは EA 代表者の Opening Speech に始まり、EA 青年委員会代表者の Nicole Brown 氏からの講演があった。Nicole 氏が今後、世界の様々な国の若手技術者と交流を続けていきたいこと、特に日本もその 1 つの国として積極的な活動を続けていきたいとの講演には報告者自身、大きく胸を打たれた。なお、Nicole 氏は 2018 年度から日豪交流の連絡窓口として対応調整を行ってきており、メールや Skype 会議で連絡を取り合ってきたものの、この場で初めて面と向かって話をすることができ、改めて感慨深い気持ちとなった。



5. 2 11月20日

(1) Technical Oral Presentation in WEC2019

東電福島事故後のリスクコミュニケーションに関する活動経験は、放射線防護の専門家のみで共有されているため、多様な専門性を有する青年技術士交流委員会とのワークショップ（2019年5月11日開催）を通じて得られた内容をまとめて、口頭発表を行った。

その主な具体的な発表内容としては、各専門分野の技術者が東電福島事故といったクライシス時において、一般住民に対してどのように向き合っ対応するのか、また、日本保物学会の事故当時の対応についてどう感じたかについて、自由に意見を述べてもらい、最終的に今後、東電福島事故後のリスクコミュニケーションを教



訓として、各分野の専門家がどのように一般住民に対応していくべきなのかについて、教育的な観点でグループワークを通してディスカッションを行った旨を報告した。本発表後、聴講者から、本活動を継続的に取り組むことで、特に若手研究者・技術者を対象に教育的な観点から学んだことを伝え、自身ならどのように行うかを考える機会を設けてはどうかといった貴重なアドバイスを聴講者の方から頂いた。本発表を通して、世界中の多くの技術者に東電福島事故後の放射線のリスクコミュニケーションから得られた教訓を共有できたことは大変有意義な機会であり、また、発表後に得られた質問やコメントは青年技術士交流委員会、日本保健物理学会へもフィードバックし、今後の活動に役立てたい。なお、本発表内容でまとめた論文は近日中に、Journal of Australia Education に掲載される予定である。本発表への参加を通して、日本のプレゼンスを大きく示せることができた。



(2) WEC Welcome Reception

Melbourne Convention and Exhibition Centre 内の機器展示場において、WEC 参加者の Welcome Reception が開催された。参加者は会場で用意された飲食物を食べながら、各参加者や各ブースの機器展示の説明者と自由に意見交換をすることができた。報告者は会場内で日本人参加者を含め、多くの参加者と意見交換を行うことができ、大変有意義な機会であった。



6. 今後の展望

- ・WEC2019 といった世界最大規模の国際会議で、日本保健物理学会と連携して、青年委員会の成果を発表出来たことは大変良い機会であった。今後も WEC のような国際会議では、可能な限り、青年委員会の成果をまとめて発表することで、日本のプレゼンスを大きく示せるだけでなく、若手技術者の国際感覚の醸成やアウトプット力向上に大きくつながるため、今後も継続的なチャレンジを期待したい。
- ・WEC2019 への参加経験は大変貴重であるため、青年委員会だけでなく、関係者への情報共有も可能な範囲で行っていく。

以上

行事名	フィリピン若手技術者との交流
日時	2020年2月24日(月)、26日(水)～2月29日(土)
場所	東京都内、京都府内、大阪府内
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・PTC- YES (Philippine Technological Council, Young Engineers Section) Kevin Glean 氏、BM B. Tamashi 氏 ・青年委員会(IPEJ-YEC) 委員：竹内委員長、高木、田中(仁)、田中(雅)、村上、金高(中国本部)、立山(中国本部)、三角(中国本部) 委員補佐：明山、山本(直) ・一般：滝口、小椋、林
参加者数	PTC- YES: 2名、青年技術士交流委員会:12名

1. 背景と目的

フィリピン若手技術者2名が日本の青年技術士交流委員会(以下、青年委員会)メンバーとの交流を目的に来日した。これは2018年にシンガポールで開催されたCAFEO36 /YEAFFEO25参加以降、フィリピン若手技術者達と親交があり、帰国後もグループメッセンジャーにて継続的にメッセージの交換交流を行ってきた経緯がある。

青年委員会では、二国間交流の促進、青年委員会メンバーの国際交流機会の創出、日本アピールを目的に、国内各地へのアテンドを実施した。なお、今回はCAFEO/YEAFFEOでの交流がきっかけであると同時に個人的な交流の機会でもあるため、参加対象はCAFEO /YEAFFEOへ参加経験のあるメンバーを中心とした。

2. スケジュール

2/24(月)

成田空港にてお出迎え → 上野公園入口の桜を鑑賞 → 秋葉原散策 → 東京駅丸ノ内駅舎視察
→ 懇親会(和膳坊 日本橋本店:塩ちゃんこ鍋コース)

2/26(水)

都内観光スポットおよび映画「君の名は。」の舞台となった都内各地への案内
ソラマチ → 浅草寺 → 四ツ谷駅周辺 → 須賀神社 → 信濃町駅周辺 → 国立競技場[オリンピックメインスタジアム]
→ 上野駅周辺にて懇親会

2/27(木)～2/29(土)

京都伏見稲荷大社や大阪道頓堀等、京都・大阪の主要観光スポットへのアテンド、回転ずしやたこ焼きなどのご当地グルメを紹介
3/1(日) 帰国

3. 予算

本件は予算対象となるものではなく、経費計上はしていない。

4. 成果及びよかった点

- ・CAFEO/YEAFFEOで交流した海外の若手技術者達と継続的にメッセージ交換を行ってきたことで、今回の2国間交流が実現した。
- ・フィリピン若手技術者との交流を深めることができ、技術者間同士の交流関係をより強固なものにすることができた。
- ・統括本部と地域本部の青年委員会メンバー間で国内アテンド対応を連携することで、海外技術者達に都内だけでなく地域への関心を持ってもらう機会を作ることができた。(地域本部にもCAFEO/YEAFFEOへ一緒に参加したメンバーがおり、メッセンジャーで連携できていた。)また、統括本部と地域本部の連携強化にもつながった。
- ・地域本部メンバーは宿泊を共にし、互いの郷土料理を振る舞い、更なる親交を深めることができた。
- ・国際交流に興味があるが、渡航する時間や金銭的余裕がない等の理由で海外への国際会議へ参加出来ない国内メンバーにも、国際交流の場を提供することができた。

・文化や宗教上などの理由で、来日するフィリピン若手技術者が食べられない物を事前に確認することで、懇親会会場の検討時に配慮することができた。(結果的に、彼らが食べられない食べ物は無かった。)

5. 反省・改善・注意点など

・成田空港から宿泊施設まで行くルートは複数あるが、彼らにとって行きやすく安いルートを事前に調べておくことで、都内へよりスムーズに異動することができたと感じる。(当日は成田空港でフィリピン若手技術者と再会後にルートを調べ、結果的に京成スカイライナーを利用した。)

・初日の懇親会は事前にコースを予約していたが、懇親会までの時間が1時間程度空いてしまい、時間をつぶす必要が出てきた。フィリピン若手技術者達のお腹が空いている中で、予約時間を前倒しできないか等の調整も発生した。今後は臨機応変に対応できるようなスケジュール計画と懇親会会場の検討が望ましい。

・百貨店など大型商業施設内にある免税店にて購入した商品の免税手続きを行うためには、専用の免税カウンターまで行く必要がある。(←普段日本人は利用しないため当日まで気づかなかった。) 今後の来日対応を行う際には、免税カウンターの場所などを事前に調べておくことで、来日者がスムーズにお土産の購入と免税手続きができるよう配慮したい。

・フィリピン若手技術者たちは東海道新幹線を利用して京都へ移動した。今回は特に問題はなかったが、東海道新幹線では2020年5月20日(水)以降に手荷物の大きさが制限され、事前に「特大荷物スペースつき座席 事前予約」が必要となるため今後は要注意である。

<https://railway.jr-central.co.jp/oversized-baggage/>

・アテンドの際に通勤ラッシュに遭い、アテンド先を変更する必要が生じた。今後は通勤ラッシュ状況も鑑みたアテンドスケジュール策定することが望ましい。

6. 今後の方針

・引き続き、フィリピン若手技術者とのメッセージ交換・交流を継続し、次回のCAFEO/YEAFEOへの参加に向けて更に交流を深めていきたい。

・海外技術者と気軽に直接交流することは大変貴重な機会である。今後も積極的に国際交流活動を継続していき、各国との2国間交流の推進を行っていきたい。

・今回の交流はCAFEO参加メンバーを中心としたものであったが、今後はテクノツアーや自国の活動紹介・意見交換を行い、CPDの場として広く参加者を受け入れられるものにしていきたい。

7. 写真





以上

サッカー 活動報告書

行事名	日韓サッカー練習会
日時	■フットサル:2019年6月1日(土) 14:00~17:00 ■交流会 :2019年6月1日(土) 19:00~21:00 ■テクノ :2019年6月2日(日) 10:00~13:00
場所	■フットサル :ロスター春日部 ■交流会 :柚柚~yuyu~越谷駅前店 ■テクノ :首都圏外郭放水路
講師、発表者	■首都圏外郭放水路立坑見学会
担当者: (○印:リーダー)	○(サッカー)後藤洋之、鈴木利治、高橋義也、清水雄太(記) ○(テクノ)臼井朗(記)
参加者数	■フットサル:22名(統括9名、北陸8名、中部1名、その他4名) ■交流会 :23名(統括9名、北陸11名、中部1名、その他2名) ■テクノ :20名(統括9名、北陸10名、その他1名)

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、2019年10月に韓国高陽で開催される日韓親善サッカー大会の練習会として、統括本部主催のサッカー合同練習会を企画した。

2. 例会内容

■フットサル

- ・14:00~17:00 全員を3つのチームに分け、1ゲーム7分でリーグ戦を実施。
その後、チーム替えをし、1ゲーム7分でリーグ戦を実施。

■交流会

- ・19:00~21:00 練習会の参加者で交流会を実施。

■テクノ

- ・10:00~13:00

テクノWGとのコラボレーション企画として、首都圏外郭放水路の見学を行った。首都圏外郭放水路は中川・綾瀬川地域の治水のために建設された施設である。しかし近年、インフラツーリズムの取り組みにより、土木施設が観光資源として役割を確立しつつあり、首都圏外郭放水路は関東における目玉施設となっている。中でも調圧水槽は別名「地下神殿」とも呼ばれ、各メディアでも紹介されている。観光としてのコースは3つ(立坑体験コース、ポンプ体験コース、地下神殿コース)あり、今回は第1立坑と調圧水槽の両方を見学できる立坑体験コースへ参加した。

首都圏外郭放水路の建設工事着工に至るまでの経緯から、現在の働き、及び維持管理方法等についての解説を聞きながら、第1立坑と調圧水槽内部を見学した。

3. 成果と所感

サッカー

終始、怪我もなく和やかな雰囲気の中、試合をすることができた。

今回のフットサルでも、北陸本部から多くの参加者が駆けつけていただいたほか、中部本部の三島氏にも参加していただき、大きな会とすることができた。また、技術士会以外の方々にも参加していただき、サッカーを中心とした交流の輪がますます広がった。

当日は雨予報が出ており、屋根付きフットサルコートでの練習会となった。練習場について、シューズの利用条件の確認が不足しており、直前に問合せをいただく等参加者には迷惑をかけてしまったため、以降確認を徹底したい。

サッカー場については、青年OBの田村さんの協力もあり、埼玉県三郷市の江戸川河川敷サッカー場の確保をすることができた。サッカー場は抽選も厳しいため、会場の確保については早い段階から動き出しが必要であると痛感した。一方雨天のことも考慮し、三郷市~春日部市の範囲で屋根付き練習場の確保を行ったことで、直前まで天候に悩まされたものの、準備については安心して行うことができた。今後も、雨

天へのバックアップとして、全天候対応型の競技場を検討するのが望ましい。

次回の日韓技術士国際会議に留まらず、国内における青年層のより一層深い交流のためにもサッカー企画は有効であることが再認識できた。

テクノ

<開催まで>

首都圏外郭放水路の見学はコースごとに人数制限が設けられており、今回申し込んだ立坑体験コースは20名までとなっている。当初20名以下と想定していたことから立坑コースのみの予約としていた。当日は20名ちょうどでキャンセルもすることなく実施できた。しかし当該施設は人数制限に非常に厳しく、当日飛び入り参加も原則認められていないため、参加人数が変動した時のために他コースの予約をしておくべきだった。今後はある程度の人数変動に対応できるように準備をしておくことが望ましいと考える。

<当日>

当日は、多数の協力もあり、事故もなく無事に見学会を終えることができた。しかし、下見が不十分であったため、子供や高所が不得手である人に対する配慮が欠けてしまっていた。今回は無事に終えることができたが、今後は事前の参加者の情報収集が必要である。

<今後>

今回のテクノは、サッカーGrとテクノWGの協力開催となった。もともと、サッカーGrだけではサッカー練習会の準備負荷が高かったためテクノWGとして、今後も協力したい。

4. 今後の展開

今後のサッカー活動の予定としては以下の通りである。

- ・2019年8月 日韓サッカー強化練習会(北陸本部)
- ・2019年10月24日～25日 日韓親善サッカー大会、日韓技術士国際会議(高陽)
- ・2019年12月頃 日韓サッカーお疲れ練習会(統括本部)

5. 写真

■フットサル



■テクノ





以上

行事名	統括本部・北陸本部サッカー練習会及びテクノツーリズム
日時	■サッカー練習会 :2019年9月28日(土) 11:00~15:00 ■交流会: 2019年9月28日(土) 18:30~21:00 ■テクノツーリズム:2019年9月29日(日) 10:45~13:00
場所	■サッカー練習会: 大夫浜運動球技場 ■交流会: 鉄板 炭焼 海鮮 まんまや ■テクノツーリズム: 峰村醸造(味噌蔵) 今代司酒造(酒蔵)
担当者: (○印:リーダー)	○清水(記)、山本、後藤、鈴木
参加者数	■サッカー練習会:28名(統括本部8名、中部本部1名) ■交流会:10名(統括本部7名、中部本部1名) ■テクノツーリズム:8名(統括本部:4名)

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

今回は、10月に韓国・高陽で開催される日韓技術士国際会議で行われる親善試合に向けて、北陸本部を中心としてサッカーの合同練習会とテクノツーリズムを開催していただき統括本部から参加した。

2. 実施内容

■サッカー練習会 11:00~15:00

【スケジュール】

11:00~12:00 会場設営、ウォーミングアップ

12:00~14:30 地域戦 統括本部チーム vs 北陸本部チーム1 vs 北陸本部チーム2
 ・25分 6試合

■交流会 19:00~21:00

・統括本部、北陸本部、練習会参加者で交流会を実施

■テクノツーリズム 11:00~13:00

味噌蔵・酒蔵見学

3. 成果と所感

サッカー練習会では統括本部からは9名と少ない人数ではあったものの、北陸本部では技術士会外部の参加者も集めていただき、十分な人数での練習を行うことができました。

練習では、日韓出場者のポジション特性を確認することができました。

また、大きな怪我や事故もなく、無事に終了することができ、皆様の協力によるものだと感謝しています。その後の交流会では参加者同士で和気あいあいと歓談し、更なる交流を深めることができました。

次の日に実施されたテクノツーリズムでは味噌蔵の峰村醸造と酒造の今代司酒造の蔵見学を行いました。

峰村醸造では味噌の作り方や文化について学ぶことができました。

今代司酒造では酒作りについて学ぶことができました。

いずれも、1年をかけて作られており、一つ一つの工程が大掛かりであることを知ることができました。

また、現代の技術では改修や製造の難しい設備も多く、技術の承継が難しい職人技の実情を知りました。

このような準備をしていただいた北陸本部の方には大変感謝しています。ありがとうございました。

10月24日には日韓親善サッカー大会が開催されるので、韓国の若手技術者との交流を深め、怪我なく無事に試合をして、良い結果を持って帰りたいと思います。

4. 今後の展開

- ・2019年10月24～26日 日韓技術士国際会議(韓国・高陽)
- ・2019年11月後半～1月 日韓親善サッカーお疲れ練習会(統括・予定)

5. 写真

■サッカー練習会



■テクノツーリズム



行事名	第15回 日韓親善サッカー大会(第49回日韓技術士国際会議 韓国・高陽)
日時	<ul style="list-style-type: none"> ■日韓親善サッカー:2019年10月24日(木)14:30~17:00 ■前夜祭、サッカー交流会:2019年10月24日(水)19:00~21:00 (日韓技術士国際会議:2019年10月25日(金)~26日(土))
場所	<ul style="list-style-type: none"> ■日韓親善サッカー:ハナ銀行サッカースタジアム(MVLホテル高陽より約20km) ■前夜祭、サッカー交流会:MVLホテル高陽1F ■本会議:MVLホテル高陽2F
講師、発表者	
担当者: (○印:リーダー)	○後藤洋之(記)、清水雄太(記)、山本直樹、鈴木利治、
参加者数	17名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

日韓技術士国際会議は、日本・韓国で交互に開催をしており、第49回となる今年は韓国高陽市(MVLホテル高陽)での開催である。日韓親善サッカーと本会議へ参加し、韓国若手技術士や参加者との交流を深めると共に、技術士としての研鑽を目的として参加した。

2. 実施内容

2.1. 日韓技術士親善サッカー大会(14:00~21:00)

- ・13:30~15:00 金浦空港より送迎バスでスタジアムに移動、着替え・準備
- ・15:00~17:00 開会式、親善試合(本戦・フレンドリーマッチ)
- ・19:00~21:00 交流会

2.2. 本会議(9:00~21:00)

- ・9:00~10:00 式典
- ・10:00~12:00 基調講演
- ・13:00~17:00 分科会
- ・18:30~21:00 晩餐会

3. 成果と所感

3.1. 本戦・フレンドリーマッチを通じて

今年は韓国での開催であり、13時半に金浦空港を出発する送迎バス(韓国技術士会が手配)に間に合うよう、各自往路便を設定して集合した。

試合は、レギュラーマッチを25分ハーフで行い、その間にフレンドリーマッチを25分行った。今年より、監督・主将が交代し、戦術考案を青年サッカーG、主将を清水委員補佐、交代指揮を日韓委員会の時合委員が務める新体制で進めることとなった。今回は清水主将の提案により、4-3-3(2ボランチ)のフォーメーションを組み、これまで採用していた1トップよりも前線の枚数を増やし、攻撃的な布陣にて臨んだ。均衡した形で試合が運んだが、人員・体力ともに勝る韓国に攻め込まれ、前半に1得点、後半に1得点を許す形となった。

引き分けの場合はアウェイチーム勝利のルールであったが、最後まで得点を奪うことが出来ず、0-2で敗戦となった。フレンドリーマッチも敗戦となった。

今回は、日韓関係の冷え込みの影響等もあり、参加者が17人と少なかった(日韓委員会からの応援参加も含む)。当初申込み段階では5人しかいなかったが、韓国渡航への不安を払拭すべく、サッカーメンバーが中心となって現地の情報収集や呼び掛けを行い、最終的にはフルメンバーでの試合をすることができた。

サッカー終了後は、前夜祭に出席した。その後、日韓サッカーチームでの二次会・三次会へと参加した。二次会では、韓国選手からの提案により全員の自己紹介をすることとなり、英語や通訳を交えつつ良い交流することができた。三次会のカラオケも大いに盛り上がった。

本会議後の晩餐会では MVP の発表があった。今回は、サッカーのみで帰国する参加者が多く、選考が難しい状況ではあったものの、多くのサッカー参加者からの推薦により、後藤委員が MVP に選出された。

今回も残念ながら敗北してしまったものの、全体を通じて日韓選手間での結束力がますます高まったことを感じることができ、国際交流におけるスポーツ交流の役割の大きさを実感した。

本会の開催にあたり、選手として参加された皆様、現地で応援して下さった皆様、声援を送っていただいた皆様、そして大変な中準備を進めていただいた日韓委員会と韓国技術士会の皆様に感謝を申し上げますと共に、素晴らしい仲間たちと末永く交流を深めていくため、サッカー交流を続けていくことが大切であると考えます。次回は節目となる第 50 回日韓技術士国際会議となり、仙台で開催される。親善サッカー大会は、2020 年 10 月 26 日(月)に開催予定であり、次回こそは勝利できるよう準備を進めていきたい。

3. 2. その他

今回は、青年の例会参加者が、日韓会議に興味を持っていただき、観戦として参加してもらうことができた。日頃のサッカーだけではなく、日韓会議自体の広報も有効であった。

日韓技術士国際会議は、技術士会として主催している数少ない国際学会の一つであり、普段では会話することができない技術士会会長や幹部・OB の方々が参加されている。

晩餐会では、後藤委員と清水委員補佐が日本技術士会寺井新会長と名刺交換をする機会に恵まれ、今後も交流活動を頑張りたいとの激励をいただいた。また、来年の仙台に向けても次こそは勝利をとも共通認識を確認できた。青年メンバー主導のサッカー活動が、技術士会内でも一定の評価を受けていることが分かった。

4. 今後の展開

- ・2019 年 12 月～2020 年 1 月 日韓サッカーお疲れ会(統括)
- ・2020 年 3 月 北陸本部合同練習会

5. 写真



セレモニー①



セレモニー②



親善試合①



親善試合②



親善試合③



親善試合④



前夜祭兼サッカー交流会①



前夜祭兼サッカー交流会②



二次会



三次会



本会議①



本会議②



晚餐会①



晚餐会②

以上

行事名	日韓サッカーお疲れ練習会
日時	■フットサル:2020年1月25日(土) 15:00~17:00 ■交流会: 2020年1月25日(土) 19:00~21:00
場所	■フットサル : 国立スポーツ科学センター フットサル場 ■交流会 : お肉で宴会 池袋店
担当者: (○印:リーダー)	○後藤洋之(記)、清水雄太、山本直樹、鈴木利治
参加者数	■フットサル:17名 ■交流会:12名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、2019年10月に韓国高陽で開催された日韓親善サッカー大会のお疲れ会練習会として、統括本部主催のサッカー合同練習会を企画した。

2. 実施内容

■フットサル

- ・15:00~17:00 全員を3つのチームに分け、1ゲーム5分で試合を実施。
後半にはチーム替えをし、同様に1ゲーム5分で試合を実施。

■交流会

- ・19:00~21:00 日韓サッカー参加者、北陸本部の参加者、練習会の参加者で交流会を実施。

3. 成果と所感

終始、怪我もなく和やかな雰囲気の中で、楽しく汗を流し交流を深めることができた。

今回のフットサルは、前月の12月に一度企画をしていたお疲れ会を参加者数の都合から中止し、再度参加者を募っての開催となった。テクノは参加予定者が少なかったため、練習会と交流会のみの開催とした。年度末の多忙な中、北陸本部からは2名の参加者が駆けつけてくれたほか、統括本部のメンバーや日韓サッカーの参加者、更には青年OBの田村さんの声掛けにより17人が集まり、大きな会とすることができた。

12月に企画していた会の中止を教訓に、今後は開催案内の時期を早めに設定するように徹底させる他、参加者数に条件を設け、目標の人数が集まらなければ開催を取りやめる形を取って行きたいと考えている。練習会は技術士会のメンバーのみに拘らず、今後も幅広く参加者を募り、継続させていきたい。

4. 今後の展開

- ・2020年3月14-15日 合同サッカー練習会(新潟)
- ・2020年6月 統括本部サッカー練習会(予定)
- ・2020年10月 日韓親善サッカー大会(仙台)

5. 写真



**地域本部
活動報告書**

統括本部活動報告

2020年6月27日

統括本部 青年技術士交流委員会
委員長 竹内将人

メンバー構成



メンバー構成

● は、女性の委員・委員補佐が所属している部門

機械	船舶・海洋	航空・宇宙
電気電子 ●	化学	繊維 ●
金属	資源工学	建設
上下水道 ●	衛生工学	農業
森林 ●	水産	経営工学
情報工学 ●	応用理学 ●	生物工学 ●
環境	原子力・放射線	総合技術監理 ●

- 2 -

統括本部イベントでの研鑽対象 【アウトプット重視】

【日本技術士会】

【各部会】

➢ イベントなどで
専門性を研鑽

【CPD委員会】

➢ CPD講座などで
専門性、技術全
般を研鑽

【修習委員会】

➢ 研修会などで
専門性、技術全
般を研鑽

【倫理委員会等】

➢ シンポジウムな
どで倫理観を研鑽

【青年(統括)】 技術力を活かす能力の研鑽

【合格者交流会】

企画・提案能力、思考力、
問題課題の抽出と解決能力、
コミュニケーション能力、
プレゼンテーション能力、
リーダーシップ

【英語企画】

英語力強化、国際性の醸成、
コミュニケーション能力、
プレゼンテーション能力

【ディベート】

論理的思考能力、情報収集能力、
質問力、コミュニケーション能力

【小学生向け理科教室】

思考力、質問力、コミュニケー
ション能力、リーダーシップ

【テクノツーリズム】

専門性、技術全般、質問力、
一般教養・知識、社会性、
コミュニケーション能力

【修習ガイダンス】

情報収集能力、質問力、
コミュニケーション能力

今期の活動方針

青年層技術者に向け「より成果を出せるようになる」
ような研鑽事業を企画・実施していく

成果 =
体力 × 実務能力 × 思い × (人を巻込む力) ^ 影響力

- * 無理をしないこと
- * 強みを生かすこと
- * 楽しくやること
- * いろいろな人を巻き込んでいくこと

ビジネス、価値、金を生み出せる技術者へ

活動報告 2019年度

年月	イベント
2019年8月	・小学生向け夏休み理科教室・工作実験「ガリレオ温度計を作ろう！」 ・防災テクノ → 建設部会・土木学会とコラボ ・北陸本部とのサッカー練習会・テクノ
2019年9月	・内部向け企画、自己紹介企画 ・CAFE0/YEAFEO@インドネシア
2019年10月	・「 プレゼン の9割は準備で決まる！話下手の必勝法 初心者編」 ・日韓サッカー@高陽 ・全国大会@徳島
2019年11月	・「明日から仕事が楽しくなる！エンジニアのための コミュニケーション 講座」 ・全国大会@福島 ・日豪交流、FEIAP、WEC@メルボルン
2019年12月	・「 ディベート を知ろう」
2020年1月	・国際交流報告会&パネル討論会「グローバルエンジニアを目指して」
2020年2月	・「修習ガイダンス2020」 →技術士第一次試験合格者、JABEE修了者向け
2020年3月	・「帰ってきた コミュニケーション 講座」【延期】

活動報告 2020年度

年月	イベント
2020年4月	・「 デザイン思考 実践 ~イノベーションを起こそう~」【延期】
2020年5月	・特別例会「1次・2次合格者交流会」【中止】
★2020年6月	・「 英語力UP 」【延期】 ・ 拡大委員会 ← NOW!
2020年7月	・「孫氏の兵法で チームリーダーの考え方 を学ぼう」【延期】 ・臨時内部例会「パネルディスカッション」
2020年8月	・例会決め大会 →オンライン開催 ・Dreams小学生向け理科教室【未定】
2020年9月	・ ストレンクス ファイnder企画「あなたの中の天才を目覚めさせる！」 →オンライン開催が可能か検討中
2020年10月	日韓技術士会議・親善サッカー（日本：宮城）【延期】 三現主義 でいこう！

コミュニケーションやリーダーシップなど**今期の方針**に沿った実践的なテーマを設定。
 今後はWithコロナ時代の例会の在り方を探っていく。

活動報告 2019年度

2019年8月
防災テクノ



2019年9月
CAFEO/YEAFEO



2019年8月
北陸サッカー



2019年8月
理科教室



活動報告 2019年度



2019年10月
プレゼン



2020年1月
グローバルエンジニア



2020年2月
修習がたん



2019年12月
ディベート

ご清聴ありがとうございました。
今後ともよろしくお願ひいたします。



「第16期」1年目、始動 活動テーマ= 「楽しい青技交！」

大小含め、
年間17イベントを計画・実行！

交流・研鑽促進のため楽しいイベント企画・実施
約50名の幹事でWG体制の実行 / 若手幹事の活躍！

全イベントの報告

- ① 本部主催の合格祝賀会 (2次試験) ⇒ 青年2次会 (4/10)
- ② 新合格者&U-35対象 ワークショップ (4/15)
- ③ 「技術士を知ろう！」@北海学園大学1年生 (5/30)
- ④ エンジョイサイエンス研究会との交流会 (5/31)
- ⑤ 広場活用プロジェクト：札幌工業高校 (6/6)
- ⑥ 「技術士を知ろう！」@北海道科学大学 (6/6)
 - 拡大委員会@東京 への参加 (6/15-16)
 - 北海道本部第53回年次大会参加 (7/4)
- ⑦ 「技術士を知ろう！」@苫小牧高専 (8/6)
- ⑧ 「技術士を知ろう！」@函館高専 (8/9)
- ⑨ 講演会+WS 「働き方改革・徹底討論
～あなたの働き方、本当にそれでいいですか？～」 (8/27)
- ⑩ 青技交30周年記念イベント、交流会&TT (9/8-9)
- ⑪ 幹事+家族交流「秋合宿(キャンプ)」 (9/22-23)
 - 全国大会(青年イベント)@徳島への参加 (10/5-6)
- ⑫ 「技術士を知ろう！」@札幌工業高校 (10/11)
- ⑬ 「技術士を知ろう！」@北見工業大学3年生 (10/25)
- ⑭ 「技術士を知ろう！」@北海学園大学3年生 (11/15)
- ⑮ 公開型講演会「技術士による知的書評合戦
ビブリオバトル2019」 (11/30)
- ⑯ 「技術士を知ろう！小学校編」 (12/4)
- ⑰ 幹事交流イベント「技術交流」 (1/18)
- ⑱ 本部主催の合格祝賀会 (1次試験) ⇒ 青年2次会 (1/30)



▲新合格者&U-35対象ワークショップ



▲「技術士を知ろう！小学校編」



▲講演会+WS



▲夏合宿(キャンプ)



▲青技交30周年記念イベント

その実現へ向けた
事前打合せ・調整
= 幹事会&WG
計18回実施
※技術士を知ろうWGを除く



北海道本部) R2活動計画 しかし、、、



「第16期」の2年目、さらなる飛躍へ！



- 委員長：平岡 城栄(継続)
副委員長：中前 千佳(継続)、西村 力哉(継続)、
密山 彰浩(継続)、藤井 貴弥(継続)、
長内 克真(継続)
幹事長：須田 徹央(継続) 幹事=50名体制で始動！

全イベントの計画：R2=変革の年！

- ① 本部主催の合格祝賀会 (2次試験) ⇒ 中止
 - ② 新合格者&U-35対象 ワークショップ⇒中止
 - 拡大委員会@zoom への参加 (6/27)
 - 全国大会(青年イベント)@名古屋への参加 (10月)
 - 第49回日韓技術士国際会議(仙台) (10月)
- ～以降、実施時期未定～
- ③ 幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」
 - ④ テクニカルツアー(詳細未定)
 - ⑤ エンジョイサイエンス研究会とのコラボイベント
 - ⑥ 公開型講演会「(未定)」
 - ⑦ 幹事交流イベント「技術交流・冬合宿」
 - ⑧ 技術士を知ろう！小学生編()
 - ⑨ 本部主催の合格祝賀会 (1次試験) ⇒ 青年2次会

<流行りに乗って、web幹事会を開催してます！>



「技術士を知ろう！」⇒今年もミライ研との共催で実施予定！



公益社団法人日本技術士会
北海道本部 社会活動委員会
技術者のミライ研究委員会

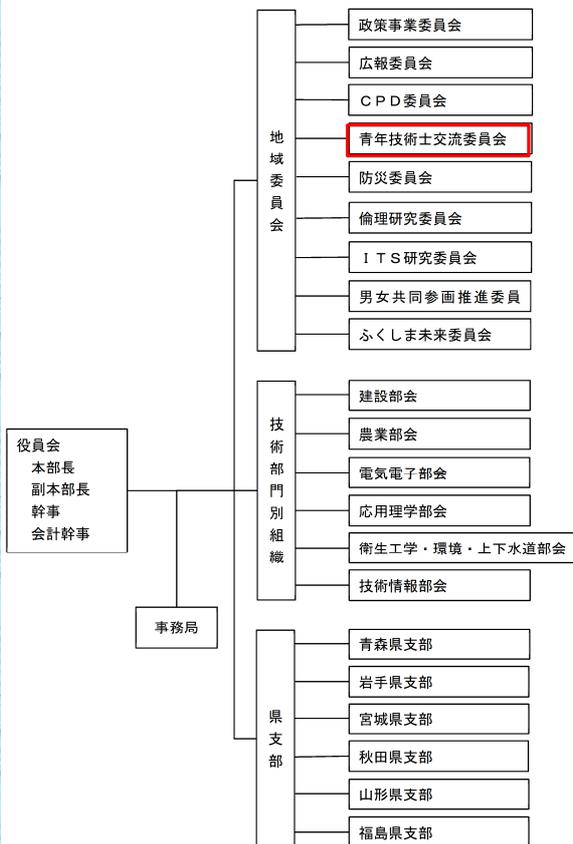
- 代表：小澤 正志
幹事長：木本 光則
幹事：千葉裕ほか、計17名



令和2年 青年技術士交流委員会 本支部交流会議

活動報告【東北本部】

組織



定例会議



懇親会



令和元年度（東北本部）
技術士第一次試験合格者・JABEE 課程修了者
ガイダンス・歓迎会

- 日時：2020年2月15日（土）
ガイダンス 13:30～17:00
歓迎会 17:10～18:30
- 会場：TKP 仙台カンファレンスセンター
カンファレンスルーム3A
仙台市青葉区花京院1-2-3
(TEL: 022-200-2614)
- 参加費：ガイダンス 無料
歓迎会 3,000円



合格者 祝賀会

— ガイダンス次第 —

- 13:00 受付開始
- 13:30～13:40 開会のあいさつ 東北本部長 熊谷 和夫
- 13:40～14:10 合格者ガイダンス 東北本部事務局長 涌上 忠彦
- 14:10～15:10 【記念講演】
(仮題)演題「これからの技術士に期待する事」
株式会社復建技術コンサルタント 最高顧問（技術士・建設） 藤島 芳男 氏
- 15:25～15:50 第二次試験合格体験発表①
- 15:50～16:15 第二次試験合格体験発表②
- 16:15～16:40 第二次試験対策ミニセミナー（田中 菜摘 氏 田中菜摘技術士事務所 代表）
- 16:40～17:00 質疑応答
- 17:10～18:30 歓迎会



合格者 祝賀会

- 令和元年度 技術士二次試験合格者祝賀会
- 令和2年5月18日（月）
- . . . 中止
- （新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み開催中止）

北海道30周年記念イベント

2019. 9. 8(日)
～9. 9(月)



- 【交流会】
- ・北海道本部長あいさつ
- ・歴代青年委員長・OBあいさつ
- ・北海道歴史紹介
- ・北海道の今の取り組み
- ・各地域本部の取り組み
- 【懇親会】
- 【テクニカルツアー】
- ・支笏湖、さけます養殖場



- ・第22回 北東3地域本部技術士交流研修会
- ・(北海道本部、東北本部、北陸本部)
- ・テーマ：「若手技術者教育と技術の伝承」

北東3地域

2019. 9. 24



日本技術士会 第22代会長 寺井和弘氏

全国大会参加

2019. 10. 4(金)
~10. 6(日)



・秋田工業高等専門学校「技術士を知ろう」

【内容】

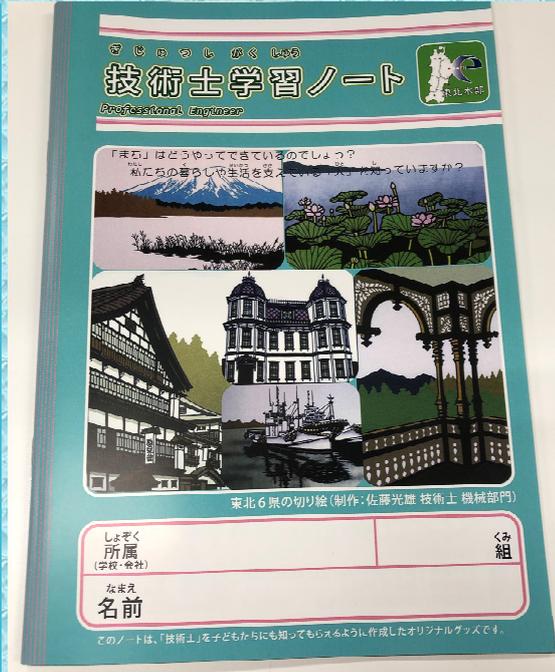
- ・就職後の土木業界の面白さ、資格の重要性を知ってもらう
- ・学生のモチベーションアップやキャリアデザインetc

学校へ行こう

11月11日(月)



技術士ノート



東北新幹線「はやぶさ (E5系)」



青年技術士交流委員会の活動紹介

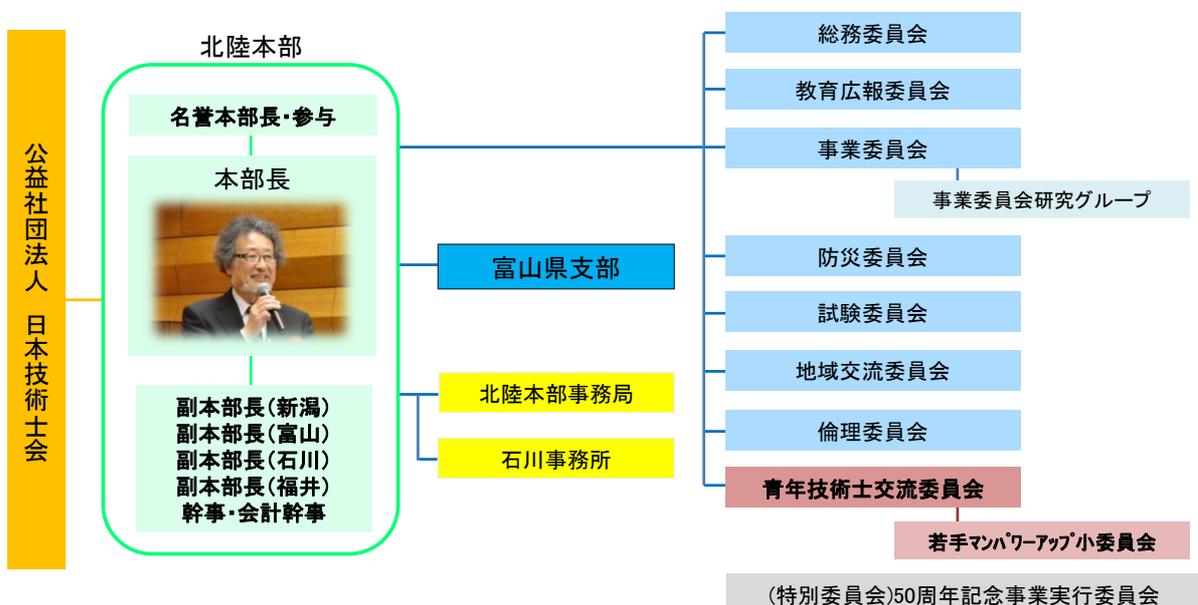
北陸本部青年技術士交流委員会 委員長 高野康夫

日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会

組織紹介

福井・石川・富山・新潟の4県で構成されている

青年委員会の下部組織に「若手マンパワーアップ小委員会」がある



目標と方針

目標

地域の科学技術に関する実践的な知識集団の一員として、日々進展する科学技術を、青年技術士という立場から各分野での業務等を通じて社会に具現化することで、持続的な地域の発展と人々の幸福に貢献する

方針

勉強会、現地学習会、講演会などをおして、若手技術者の技術力の向上と、それに伴う意識向上をつねに心がけさせ、技術者全体の資質向上を図る

メンバー紹介

委員長



高野康夫
衛生工学

副委員長



石田謙介
建設



村山達也
建設



冨田照代
建設、環境、農業



下鳥 稔
環境



中村大輔
電気電子



関谷 悟
建設



安野伸春
建設



神納 毅
建設



柴田悠平
建設



卒業..
河原洋行
経営工学



荒井秀和
建設



飯澤周佑
森林



坂井貴文
建設

オブザーバー



小酒欽弥
建設etc



江川千洋
応用理学



森 将恒
建設、総監

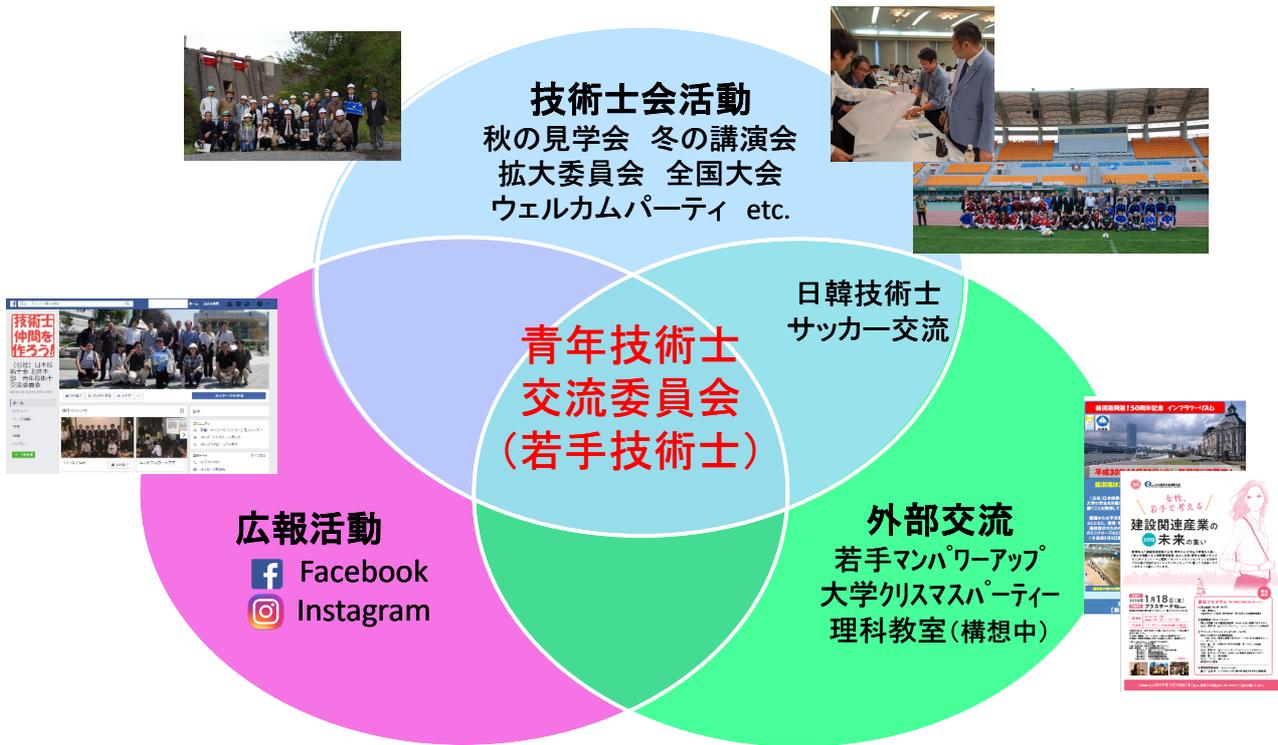


大門健一
建設



三善啓昭
上下水道

活動・取組の概要



活動紹介 拡大委員会

委員会の運営方針に関する討議、
技術発表、見学会など
県境を跨いだ技術交流
「お互いの技術を知る」
2019年6月29日(土)～6月30日(日)
福井県立歴史博物館で会議
一乗谷川ふるさとの川整備事業見学

- 平成30年度の活動報告(小酒、高野)
北陸青年20周年企画(大高)
技術発表会(各県の委員より)
- ▶とある音響メーカーの機械部門技術士(岩堀)
 - ▶あなたの身近な法面保護工(関谷)
 - ▶こんな仕事やってます(上坂)
 - ▶金沢の中山間地域活性化に向けた計画づくり(神納)
 - ▶京都市における防災まちづくりの取組と活動支援業務について(安野)



活動紹介 全国大会(青年イベント)

技術士全国大会(徳島) 青年イベント、及び分科会

- ・全国の青年委員と交流
 - ・北陸からの参加者は6名
- 2019年10月4日(金)～10月6日(日)
テクニカルツアー 第十堰、藍の館
第4分科会(青年) 阿波観光ホテル

テクニカルツアー

第十堰、藍の館(藍染め体験)
講演
「吉野川水系吉野川―第十堰―」
四国地方整備局徳島河川国道事務所
「吉野川の治水の歴史と防災風土資源
及びローテク防災術」
香川大学客員教授 松尾先生

第4分科会(グループワーク)

- ▶ 講演 ハラスメントへの対応 坂田弁護士
 - ▶ グループワーク
- ①会社名と業種の決定
 - ②組織に潜在するハラスメントの抽出
 - ③ハラスメント対策実践プロジェクトを作成
 - ④とりまとめ、プレゼンテーション
 - ⑤顧問弁護士からの論評



活動紹介 秋の見学会

羽越水害を乗り越えて！ 新潟の農業を支える農業水利施設 参加者28名(内、北陸以外から7名)

2019年11月1日(金)
内の倉ダム、内の倉発電所、加治川右岸頭首工、松岡ため池

今回は加治川流域における水利用を題材に選択。公益のために尽力した当時の技術者の考え方・成果、そのダムが現在どのように活用されているかについて、体感型の見学会を通じ考察を深める。

▶ 内の倉ダム

コンクリートダム(中空式)の内部を体感しながら見学

▶ 加治川右岸頭首工、松岡ため池、内の倉発電所

ダム以降の水利用について、上流から下流に到る水利用の全体像



活動紹介 冬の講演会

“糸魚川市駅北大火”からの復興の 取り組み 定員30名

2020年1月31日(金)
ヒスイ王国館 2階会議室「姫川」



- 講演1 (行政の観点から)
「糸魚川大火」のあましと復興都市計画の現状と課題
糸魚川市産業部復興推進課長 齊藤 喜代志氏
- 講演2 (民間の立場から)
糸魚川大火 災害ボランティアセンターについて
糸魚川 復興まちづくり情報センター 野村 祐太氏
- 現場視察1 糸魚川駅北の大火被災現場と復興状況
現場視察2 加賀の井酒造株式会社



活動紹介 若手マンパワーアップ小委員会

学生向けインフラツーリズム 参加学生25名

2019年9月20日(金)
(株)キタック・オフィス
やすらぎ堤護岸工事
ミズベリング信濃川やすらぎ堤

- 見学先1 コンサルタント・オフィス視察
▶ (株)キタック 業務紹介
- 見学先2 ゼネコン・現場視察
▶ (株)水倉組 やすらぎ堤護岸工事視察
- 座談会 業種に分かれての学生との座談会
▶ ミズベリング信濃川やすらぎ堤
官公庁ブース、コンサルタントブース、ゼネコンブース



活動紹介 若手マンパワーアップ小委員会

女性・若手で考える建設関連産業の 未来の集い2019

参加者103名(内、女性41名、学生24名)

2019年11月7日(木)

新潟日報メディアシップ2F 日報ホール

講演1 私の歩んできた道 遠藤麻理氏(フリーアナウンサー)

講演2 変化する社会と建設業 大竹雄氏(新潟大学准教授)

パネルディスカッション

テーマ:建設業界で改革を進める女性・若手トッリーダーと一緒に考える

中山正子氏((株)キタック社長)

猪俣一成氏(新潟県建設業協会青年部会長)

荒木克氏(ME新潟の会 会長)

瀬戸民枝氏(新潟県十日町地域振興局地域整備部副部長)



活動紹介 新潟大学クリスマスパーティー

新潟大学学生企画 Xmas party

参加者38名(内、学校関係者16名)

2018年11月29日(木)

Charis(カリス)

新潟大学の学生が企画したクリスマスパーティーを毎年開催。

若手マンパワーアップ小委員会の活動へ参加した学生も多数出席し、そのまま就職へ繋がるケースも見られる。

▶ 一次会(サンタ複数名参加)

▶ 二次会

Christmas Party

時下、ますますのご盛栄のごとお願い申し上げます。
昨年度は、私たち学生の企画したクリスマスパーティーにご参加頂き誠にありがとうございました。
昨年度から、マンパワーアップ小委員会のイベント等を通じて皆様と交流させて頂き、大学の活動のみでは得られない貴重な学びができておりました。
その御礼の意味を込めまして、今年度もクリスマスパーティーを企画いたしました。
中々皆様と交流する機会がない学生にとっては貴重な場となりますので、今年も多くの方に参加して頂ければ幸いです。

schedule

日時: 11月29日	1次会	2次会
受付: 18時00分 ~ 18時30分	開会: 18時30分 ~ 20時30分	開会: 21時00分 ~ 23時00分
会場: Charis(カリス)	新潟県新潟市中央区 1-1-16 ホリカワビル B1F	新潟県新潟市中央区 舟町1-3-7
参加費: 3500円		参加費: 3000円

Mail: jimgo@cng.niigata-u.ac.jp
(人数により会場/参加費が変更する場合がございます。ご了承ください)



日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会

広報活動 Facebook/Instagram

北陸本部の活動はFacebookやInstagramを使い外部に向かって積極的に露出、日本技術士会における他の地域本部ともSNSを通じて交流し、活動の輪を広げています



日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員会

ウェルカムパーティー

中止 . . .

20周年記念式典（月岡温泉、新津）

青年技術士交流委員会は、平成10年12月、土橋佳代さまを会長に「青年技術士懇談会」として設立されました。以来、諸先輩方の御尽力のおかげをもちまして活動を継続し、平成30年12月で満20周年を迎えています。

7月18日(土) 13:30 記念式典(第15回北陸青年拡大委員会を兼ねて)
18:00 懇親会・DINNER・TIME SESSION
7月19日(日) 8:30 ツアーリズム「新津の石油と鉄道の歴史」

延期



PR動画

本年度はPR動画を作成してYouTubeにアップ！
第2弾、第3弾を順次作成予定・・・



2019年度 中部本部 活動報告



例会

本年度は
体験重視

4月例会【新合格者歓迎、発表会】



年次総会・6月例会【技術自己紹介】



9月見学会【飲料物場見学】



2月例会【AIプログラミング体験実習】



仕掛学WG



IT活用WG



科学教育PJT【農業高校コラボ】



技術同好会

新設の3同好会で
活動実施

※継続3WGは休会
(製造,建設,城)

2019年度 中部本部 活動報告



20120年度(令和2年度)の活動体制 (12名+補佐4名+運営3名)

役割	特命	氏名	任期
委員長	交渉・IT活用提案	石川 智康 情報工学	任期2年目(6年目)
副委員長	新企画開拓L	成田 尚宣 生物工学	任期2年目
副委員長	全国大会実行L	嘉田 善仁 機械	任期2年目
委員	例会活性L	小塚 俊吾 機械(修)	任期1年目 再任
委員	例会企画	加藤 潤哉 電気電子	任期1年目 再任
委員	例会企画	平野 健二郎 環境	任期2年目
委員	例会企画	中村 将士 金属	任期2年目 新任
委員	例会企画	加藤 昭久 機械	任期2年目 新任
委員	例会企画	高瀬 春之 経営工学	任期2年目
委員	例会企画	三島 孝朗 機械(修)	任期2年目
委員	例会企画	青山 尚弘 機械(修)	任期1年目 再任
委員	例会企画	青山 浩之 建設、上下水、総監	任期1年目 新任
委員補佐	例会実行	小島 茂樹 建設	任期2年目
委員補佐	例会実行	奥村 康 機械	任期2年目
委員補佐	例会実行	藤田 政利 機械	任期2年目
委員補佐	例会実行	秋山 幸之朗 情報(修)	任期2年目
運営委員	例会活性SubL	中川 勝統 上下水(修)	任期1年目 再任
運営委員	運営補助	木村 琢磨 電気電子(修)	任期1年目 再任
運営委員	例会実行	宇佐美 英明 農業(修)	任期2年目 新任

近畿本部青年技術士交流委員会活動報告



2019年度委員

- 藤内 洋 (委員長)
- 藤本 喜敏 (副委員長)
- 小宮 洋行
- 杉浦 邦充
- 竹市 雄作
- 田中 慎
- 原口 宣明
- 坂東 大輔
- 藤内 洋

大学生むけのセミナーを3回シリーズで実施しました。



UMEDAI セミナー連続講座 Learning from specialist

スペシャルティストで生き延びる
～技術士に学ぶIoT社会での働き方～

技術士 × IoT

2019/11/30, 12/14, 2020/1/25

UMEDAI セミナー連続講座 Learning from specialist

スペシャルティストで生き延びる
～技術士に学ぶIoT社会での働き方～

UMEDAI セミナー連続講座 Learning from specialist

スペシャルティストで生き延びる
～技術士に学ぶIoT社会での働き方～

UMEDAI セミナー連続講座 Learning from specialist

スペシャルティストで生き延びる
～技術士に学ぶIoT社会での働き方～

セミナー→討議の流れで、あっというまの2hr×3回。
主催者側の学生さんはアクティブラーニングやファシリテーションの知識や経験が豊富で、我々にとっても良い勉強になりました！

近畿本部青年技術士交流委員会活動報告

他、他場所・近畿本部関係の活動にも参加させていただきました。

- ・全国大会 (徳島)
- ・西日本大会

ありがとうございました！

イベント延期もありました。
2/29→7/4 あきらめずにがんばります！

契約ブートキャンプ2020

改正民法対応
特別公演付き

2020年度委員 (引き続き)

- 藤内 洋 (委員長)
- 藤本 喜敏 (副委員長)
- 小宮 洋行
- 杉浦 邦充
- 竹市 雄作
- 田中 慎
- 原口 宣明
- 坂東 大輔
- 藤内 洋

青技懇も
盛大に
活動中！

KINKI SEIGIKON 近畿青年技術士懇談会
http://seigikon.jp

Web形式での講演やワークショップも
内容が充実し距離を超えた技術士の交流が！



<http://seigikon.jp/>



中国本部 活動方針 '16

例会勉強会を柱とする 技術者間交流 および 技術を通じた社会貢献により 会員の成長の機会を提供します。

中国本部 活動テーマ'19

前体制2年目'18「居心地」役割を作って、みんなでやろう！

現体制1年目'19 居心地の良い、成長の場所、全員参加型

中国本部 グループ活動'19

- ・ 例会・懇親会グループ
テーマ「ちゃんとする」
- ・ 社会貢献活動グループ
テーマ「広がり」
- ・ 新企画、若手CPDグループ
テーマ「幅を広げる」
- ・ 国際グループ
テーマは「走りながら考える」
- ・ 広報グループ
テーマは「新会員の獲得及び交流促進による会の活性化」



例会懇親会グループ テーマ「ちゃんとする」

- ・ 青年活動の屋台骨として機能できること。
- ・ CPDを付けた勉強会を企画する。
- ・ コンプライアンスの遵守

○場所：日本技術士会 中国本部会議室
○日時：毎月第二水曜日 18:30~20:00

開催月	2019年度 活動内容【例会・懇親会グループ】
4月	【運営会】'19年度活動内容決め
5月	【内部】平成30年7月豪雨の事例報告～河川橋の被災メカニズム～
6月	【内部】未来の船のカタチ
7月	【外部】地域循環型の農業と自然エネルギーへの取り組み
8月	【外部】チタンで骨をつくる
9月	【外部】解剖学の教育における模型によるアプローチ
10月	【内部】ディベート企画 「広島市のバリアフリー化に路面電車は重要である。是か否か？」
11月	【内部】設計1年生が見る砂防分野の現状について
12月	【外部】3つの視点でデジタルシフト時代を生き抜け！
1月	【見学会】地域循環型の農業と自然エネルギーへの取り組み
2月	【内部】読書会 テーマ：「対話型読書会を活用した技術者の研鑽」
3月	【内部】コロナウィルス感染拡大の今 次亜塩素酸の視点から

○運営会@Machi+Goto



古民家に缶詰めで1年やること決め大会

○内部講師による勉強会



ディベート対決、読書会、web勉強会

○外部講師による勉強会



○年ぶりに現場見学会。家族も参加



社会貢献活動グループ コンセプト「広がり」

- ・その場にいる全ての人に笑顔を与え、その場を離れても身近な人と共有する。

○実施内容

飛行機が飛ぶ原理について紙飛行機を使って体験する。

○3回開催

- 7/21・・・リハーサル(青年家族、広島ベトナム協会)
- 7/27・・・五日市中央公民館
- 8/8・・・尾道特別支援学校

【社会貢献活動の歩み】

○小学生向け理科教室

- 11年：はしめぐり
- 12年：いざという時、役立つものをつくろう
- 13年：電気をしよう
- 14年：たべものの不思議なちから
- 15年：つよさのヒミツ
- 16年：段ボール椅子をつくろう
- 19年：よく飛ぶ紙飛行機を作ろう

○尾道特別支援学校「感じる科学」

- 16年：空気のふしぎ
- 17年：浮かぶふしぎ
- 18年：いろを感じる
- 19年：飛ぶふしぎ

07/21 リハーサル



総勢38名、スタッフ(11)、子供(12)、保護者(8)、ベトナム(6)

07/27 五日市中央公民館



総勢50名、スタッフ(16)、子供(25)、保護者(7)、公民館職員(2)

08/8 尾道特別支援学校



総勢32名、スタッフ(13)、子供(12)、先生(7)



新企画・若手CPDグループ テーマ「幅を広げる」

- ・会の枠を広げる活動にトライする。
- ・若手CPD行事の実施。



012/7(土)若手CPD『3つの視点でデジタルシフト時代を生き抜け!』



010/26(土)講演会『最強のエンジニアになるための話し方教室in広島』



0朝活&リレーマラソン





新企画・若手CPDグループ 「耐える企画」



2018年『冷たい』



2019年『熱い』



2021年『おい!』
乞うご期待!?

2021年『おい!』



国際グループ テーマ「走りながら考える」

- ・ 広島ベトナム協会との交流
- ・ YAFEO CAFEO in Jakartaへ参加。
- ・ 国際交流フェスティバル『ぺあせろべ』参加。

【2019年度実績】

○広島ベトナム協会との交流

- ・ 4/6 : 広島ベトナム協会と合同のお花見会
- ・ 7/21 : 社会貢献リハーサル 広島ベトナム協会
- ・ 10/20 : クリーン登山in宮島弥山
ものをつくろう
- ・ 11/17 : 国際フェスタ
- ・ 2/9 : テトを祝う会⇒中止

○YAFEO CAFEO in Jakarta

- ・ 9/10-15 : 中国本部からは
立山副委員長、金高さんが参加

○国際交流フェスティバル

- ・ 10/27(日):お酒の販売
工作プログラム作成

○4/6(土) 広島ベトナム協会と合同のお花見会



総勢38名：技術士会(21)、ベトナム協会(17)+子供

○9/10-15 YAFEO CAFEO in Jakartaへ参加



○10/27(日)国際交流フェスティバル『ぺあせろべ』参加





広報グループ テーマ

「新規会員の獲得及び交流促進による会の活性化」

1. 日常業務
 - (1)月刊技術士原稿募集
 - (2)行事予定掲載(統括Web、月刊技術士)
 - (3)Web管理
 - (4)FB管理
 - (5)ML管理
 - (6)新規会員勧誘
2. プロジェクト
 - ・テーマを決めて取り組み+aの取り組み

【2019年度実績】

○第3水曜日22:00～オンラインMtg

- ・ 12/ 1(日) : Kickoffミーティング(中国本部会議室)
- ・ 12/18(水) : 第1回オンラインMtg (Skype)
- ・ 1/15(水) : 第2回オンラインMtg (Skype)
進捗管理 : (Trello)使用開始
- ・ 2/12(水) : 第3回オンラインMtg (Skype)

【新型コロナウイルス感染症】

- ・ 3/18(水) : 第4回オンラインMtg (Skype)
- ・ 4/15(水) : 非公式Mtgプレストツール(Mural)
- ・ 5/20(水) : 第5回オンラインMtg (Google Meet)

取り組み1 : オンライン主体での活動

○オンラインツール



Skype : 4回
GoogleMeet : 1回

○進捗管理



1月から

○プレストツール



4月から

○情報共有ツール



広報グループ テーマ

「新規会員の獲得及び交流促進による会の活性化」

取り組み2 : 初めて例会に来た人向けに「はじめてセット」作成

①「はじめてセット」を受付で配布



②新合格者38名にて一次合格祝賀会



③新副委員長による技術士が'ائنズ



④田中は礼儀アクションを担当



⑤鳥居さんも登壇



⑥青年技術士交流委員会を元々 部
2019年度 技術士第一次試験合格者祝賀会



【令和元年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

★活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすこと。

★活動方針

- 【方針1】 青年技術士としての幅広い能力向上
- 【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流
- 【方針3】 地域との交流を通じた社会貢献

【活動方針1：青年技術士としての幅広い能力向上】

- 四国四県の特徴を活かしたセミナー・見学会を開催
- 科学分野だけでなく地域の文化に触れる内容も実施

1) 高知 (2019. 5. 11実施)

テーマ：あまえ子育て

講師：特定非営利活動法人カンガルーの会 理事長 澤田敬 氏 (医学博士)

2) 徳島 (2019. 6. 29実施)

テーマ：遊休不動産を活用したリノベーションまちづくり

講師：徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授 小川宏樹 氏 (博士 (工学), 一級建築士)

3) 香川 (2019. 12. 21実施)

テーマ：技術士が熱く語る技術士の仕事 (その1)

講師：青年技術士交流委員

池谷聖 (上下水道)、谷野宮竜浩 (応用理学)、西沢尚之 (情報工学)、白鳥実 (建設)

4) 愛媛 (2020. 1. 25実施：修習技術者支援セミナーとの合同開催)

テーマ：技術士が熱く語る技術士の仕事 (その2)

講師：青年技術士交流委員

東豊一 (建設)、長田 (応用理学)



【令和元年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

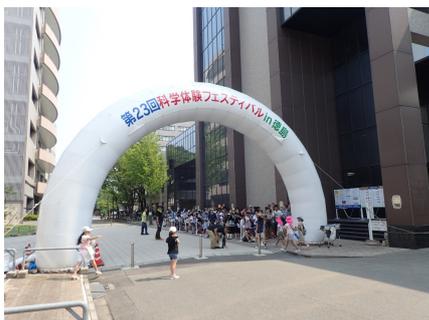
【活動方針2：四国地域の青年技術士相互の交流】

- 委員同士の信頼形成、人脈拡大のための懇親会



【活動方針3：地域との交流を通じた社会貢献】

- 徳島大学 (8月) と香川大学 (11月) における子供向け科学体験フェスティバルへの出展



【令和元年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

【令和元年度 第46回技術士全国大会】

➢ 四国本部として初めて主催した全国大会の計画・準備・開催



【その他の活動】

- 新合格者への技術士会のPR活動
- 学生への出前講座の支援
- 他地域本部との交流



【構成メンバー】

2020.06.08時点

委員長	白鳥 実	委員	谷野宮 竜浩
副委員長	佐藤 悦史	"	長田 朋大
"	松田 秀和	"	西沢 尚之
"	中根 久幸	"	東 豊一
委員	池谷 聖	"	三谷 康博
"	池田 一郎	委員補佐	奥永 哲也
"	太田 昌秀	"	武市 信
"	大西 真人		
"	岡林 弘憲		
"	片岡 寛志		
"	曾我部 潤		



【令和2年度】活動予定

令和2年度	4月
	5月
	6月
	7月
	8月
	9月
	10月
	11月
	12月
令和3年度	1月
	2月
	3月

四国本部として、
8月までに開催予定の主催行事は、原則中止。

6月20日 青年技術士交流委員会（web会議）

➢ 8月まではweb上でのCPD講座等を模索中・・・

~~8月1～2日 徳島大学「科学体験フェス」（中止）~~

9月中旬 青年技術士交流会（香川）：企画開始段階

11月中旬 香川大学「科学体験フェス」：開催未定

12月 青年技術士交流会（徳島）

1月 青年技術士交流会（高知）



九州本部紹介 活動

2019年度活動	
隔月	定例会、懇親会
4月	合格祝賀会 (青年主催)
6月	テクノツアー (15周年記念行事)
7月	夏休み自由研究教室
9月	技術士制度説明 (3大学、1高専)
10月	技術者サロン九州 (女性技術者フォロー)
10月	長内さん歓迎会
12月	公開講演会
1月	中国本部イベント参加

①研鑽活動



公開講演会



合格祝賀記念講演



夏休み自由研究

②普及活動



技術士制度説明



技術者サロン九州

③交流活動



テクノツアー



他支部との交流



懇親会

九州本部紹介 要員

2019年				2020年			
グループ	役職	メンバ	備考	グループ	役職	メンバ	備考
運営	委員長	松永 貴寛		運営	委員長	松永 貴寛	
	副委員長	永岩 研一			副委員長	永岩 研一	
	副委員長	山本 芳男	※東京へ転職		副委員長		※空席(涙)
研鑽	幹事	一川 雄一	※東京へ転勤	研鑽	幹事	金丸 泰久	
	副幹事	有村 研一	※鹿児島へ転勤		副幹事	山田 暁通	
	副幹事	金丸 泰久			副幹事	渡辺 剛	
	副幹事	久原 正也			副幹事	並松 功一	
交流	幹事	大川 至		交流	幹事	大川 至	
	副幹事	諸藤 明子			副幹事	首藤 久宣	
普及	幹事	長濱 大輔	※燃尽きて会員へ	普及	幹事	大森 和範	
	副幹事	松原 恭博			副幹事	松原 恭博	
委員		18人	合計29人	委員		15人	合計26人

- 合格祝賀会が延期され、新メンバーを確保できないままの新体制
- 転勤などによる人材の流出が止まりません。。。(おのれ東京)

活動年鑑 15
青年技術士交流委員会